工事名	建築工事特記仕様書(新築)による。

特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　建築工事特記仕様書(新築)による。

2．敷地面積　建築工事特記仕様書(新築)による。

3．工事種目（工事概要）

【外構工事】

建築工事	
敷地出入口改修工事	ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装、車止めポール設置
敷地内通路整備工事	
駐車場整備工事	一般29台、車いす利用者4台、思いやりスペース2台分の駐車場の整備
植栽帯整備工事	
敷地境界フェンス改修工事	道路分筆部分に干渉するフェンスの撤去、改修
雨水浸透施設設置工事	雨水浸透桝の設置
道路側溝設置工事	
電気設備工事	
外構照明設置工事	外灯の設置
機械設備工事	
消防水利設置工事	貯水量40tの防火水槽の設置

4．工　　期

契約工期	建築工事特記仕様書(新築)による。
主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間	建築工事特記仕様書(新築)による。
現場代理人の現場への常駐を要しない期間	建築工事特記仕様書(新築)による。
現場施工期間	建築工事特記仕様書(新築)による。

5．工事範囲

※「3．工事種目」全てを工事範囲とする。

Ⅱ　建築工事仕様

（1）質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「春日部市建築工事特別共通仕様書」及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下、「標準仕様書」という。）による。
法令・基準・仕様書等は原則として施工時において最新のものを適用する。
なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
（2）標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
（3）特記仕様書の表記
1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。⊙ 印と ※の場合は、⊙のみを適用する。
3）特記事項に記載の［　．　．］内の表示番号は、「春日部市建築工事特別共通仕様書」の当該項目、当該図表を示す。
4）特記事項に記載の（　．　．）内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
5）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。
6）本工事において、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」及び、「埼玉県グリーン調達推進方針」による特定調達品目のうち、「判断基準」を満たす環境物品等（以下「特定調達物品等」という）を選択するよう努めるものとする。
なお、G 印は設計図書で定めのある品目を示す。
7）注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	① 適用基準等 ② 条件明示事項 ③ 工事実績情報ｼｽﾃﾑ コリンズへの登録 ④ 適用区分 ⑤ 別契約の関連工事 ⑥ 施工に注意を要する区域等 ⑦ 工事の記録 8 電気保安技術者 ⑨ 施工条件 ⑩ 施工中の安全確保 ⑪ 施工中の環境保全等 ⑫ 発生材の処理等 ⑬ 県産品の使用 ⑭ 現場への配慮 ⑮ 材料の品質等	建築工事特記仕様書による。 建築工事特記仕様書による。
	⑯ 技能士	(1.5.2)[1.3.3] 適用工事種別 ／ 技能検定作業 仮設工事 ／ ・とび作業 鉄筋工事 ／ ⊙鉄筋組立作業 コンクリート工事 ／ ⊙型枠工事作業　⊙ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業 鉄骨工事 ／ ・構造物鉄工事作業　・とび作業 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ･ALCﾊﾟﾈﾙ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事 ／ ⊙ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業 ・ｴｰｴﾙｼｰﾊﾟﾈﾙ工事作業 防水工事 ／ ・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業　・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業　・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業　・ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業　・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業 石工事 ／ ・石張り作業 タイル工事 ／ ・タイル張り作業 木工事 ／ ・大工工事作業 屋根及びとい工事 ／ ・内外装板金作業 金属工事 ／ ・鋼製下地工事作業　・内外装板金作業 左官工事 ／ ・左官作業 建具工事 ／ ・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業　・ガラス工事作業　・自動ドア施工作業 ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事 ／ ・金属製カーテンウォール工事作業　・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業 ・ガラス工事作業 塗装工事 ／ ・建築塗装作業　・木工塗装作業 内装工事 ／ ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上作業 ・ボード仕上げ工事作業　・壁装作業　・保温保冷工事作業 排水工事 ／ ⊙建築配管作業 舗装工事 ／ ⊙溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業　・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業 植栽工事 ／ ⊙造園工事作業 その他 ／ ⊙ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業
	⑰ 施工計画書	※施工に先立ち、次の施工計画書を提出し監督員の承諾を受ける。(1.2.2) ※総合施工計画書（工程・品質・安全・環境配慮・仮設計画等を含む） ※工種別施工計画書 ⊙仮設工事　⊙土工事　・地業工事　⊙鉄筋工事　⊙型枠工事　⊙ｺﾝｸﾘｰﾄ工事 ・鉄骨工事　⊙ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事　・ALCﾊﾟﾈﾙ工事　・押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事 ・防水工事　・石工事　・ﾀｲﾙ工事　・木工事　・屋根工事　・金属工事 ・左官工事　・鋼製建具工事　・木製建具工事　・ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事　・塗装工事 ・内装工事　・ﾕﾆｯﾄ工事　⊙排水工事　⊙舗装工事　⊙植栽工事 ※その他監督員が必要と認めるもの
	18 化学物質の濃度測定 ⑲ 中間検査 ⑳ 完成図等 ㉑ 保証書 ㉒ 工事用図面 ㉓ その他	建築工事特記仕様書による。 建築工事特記仕様書による。 建築工事特記仕様書、建築改修工事特記仕様書による。
② 仮設工事	建築工事特記仕様書による。	
③ 土工事	① 埋戻し及び盛土	埋戻し及び盛土の種別 (3.2.3) ⊙A種　適用場所（　外構　） ・B種　適用場所（　　） ・C種　適用場所（　　）土質（　　）受渡場所（　　） ・D種　適用場所（　　） （品質　細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。） ・材料（　　）・工法（　　） ・六価クロム溶出試験　・行う　・行わない
	② 建設発生土の処理	建築工事特記仕様書(新築)による。
	③ 山留めの撤去	鋼矢板等の抜き跡　※地盤の変形を防止する適切な措置を講ずる (3.3.3)
4 地業工事 / ⑤ 鉄筋工事 / ⑥ コンクリート工事 / 7 鉄骨工事		建築工事特記仕様書による。
⑧ コンクリートブロック・ALCパネル及び押出成形セメント板工事	1 補強コンクリートブロック造 ② コンクリートブロック帳壁及び塀	ブロックの種類 (8.3.2～7) 断面形状及び圧縮強さによる区分 ／ 正味厚さ(mm) ／ ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ 高さ ／ 化粧の有無 ／ (表8.3.1)以外の適用箇所 ／ 備考 ⊙空洞ブロックC(16) ／ ・無 ⊙有 ・型枠状ブロック 20 ／ ・無 ・有 モルタルの調合(容積比)※標準仕様書表8.2.1による　・セメント(　)：砂(　) 塀に用いるブロックの正味厚さ　・ 壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　※図示　・ 各部の配筋　※図示　・ 充填するブロックの範囲　・図示　・
	3 ＡＬＣパネル 4 押出成形セメント板（ＥＣＰ）	
9 防水工事		
10 石工事	1 施工	石材の割付け　・図示　・ (10.1.3)
	2 石材等	天然石 (10.2.1、3)(表10.2.1、2) 施工箇所 ／ 岩石の種類 ／ 形状及び寸法(mm) ／ 厚さ(mm) ／ 表面仕上げの種類 ／ 備考 ・床石 ／ ・図示による ジェットバーナー仕上げの場合のバフ仕上げの有無 ・あり　・なし テラゾブロック 施工箇所 ／ 種石の種類 ／ 種石の大きさ(mm) ／ 形状による区分 ／ 仕上げ面による区分 ／ 寸法(mm) ／ 表面仕上げの種類 ／ 備考 ※大理石・花こう岩 ／ ※1.5～12・ ／ ・平もの・役もの ／ ・片面・両面 ※大理石・花こう岩 ／ ※1.5～12・ ／ ・平もの・役もの ／ ・片面・両面 テラゾタイル 施工箇所 ／ 種石の種類 ／ 種石の大きさ(mm) ／ 寸法による区分 ／ 表面仕上げ ／ 備考 ※大理石・花こう岩 ／ ※1.5～12・ ／ ・３００型・４００型 ※大理石・花こう岩 ／ ※1.5～12・ ／ ・３００型・４００型 その他の材料 取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、浸透性吸水防水材、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料 ※専門工事業者の指定する製品　・ ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き25～35φ
	3 外壁湿式工法 4 内壁空積工法 5 外壁乾式工法 6 床及び階段の石張り	透水性吸収防水剤 (10.6.2、3) （床石張り）　・適用する　・適用しない 石裏面処理 （床石張り）　・適用する　・適用しない （階段張り）　・適用する　・適用しない 裏打ち処理 （床石張り）　・適用する　・適用しない 一般目地　・目地モルタル　（目地幅　・　） ・既調合の目地モルタル（目地幅　・　） ・シーリング材（種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　） （目地幅及び深さ　・　） 伸縮調整目地 位置　※標準仕様書 表10.6.2(5)(a)による　・図示による シーリング材の種類　※標準仕様書 表9.7.1による 目地寸法　※幅・深さとも10mm以上　・図示による
	7 笠木、甲板等の石張り	取付け工法　・湿式工法　・乾式工法 (10.2.2)(10.7.2) 特殊部位用金物　標準仕様書10.2.2(3)参照 材質　※ステンレス（SUS304）　・ 寸法　引金物　・ だぼ　・ かすがい　・ 受金物　・ ファスナーの形状　・スライド式　・ロッキング方式 あと施工アンカーの材質及び寸法等　種類・　材質・　寸法・ 石裏面処理　・適用する　・適用しない 乾式工法の場合の取付け代　※70mm程度　・ 石裏の補強用モルタル　・適用する　・適用しない 一般目地　・目地モルタル　（目地幅　・　） ・既調合の目地モルタル（目地幅　・　） ・シーリング材（種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　） （目地幅及び深さ　・　）
11 タイル工事	1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	位置　※標準仕様書 表11.1.1による　・図示 (11.1.3)(表11.1.1) 目地寸法　・図示
	2 見本焼 試験施工	見本焼　・行う（施工箇所：　）　・行わない (11.1.4) 試験張り　・行う（範囲、仕様等は図示による）　・行わない
	3 セメントモルタルによるタイル張り	タイルの形状・寸法等 (11.2.2、3、6) 施工箇所 ／ 種類 ／ 形状/寸法(mm) ／ 吸水率による区分 Ⅰ種 Ⅱ種 Ⅲ種 ／ うわぐすり 無ゆう 施ゆう ／ 役物 有 無 ／ 色 標準 特注 ／ 再生材の適用 G ／ 耐凍害性 有 無 ／ 耐滑り性 ／ 備考 標準的な曲がりの役物は一体成形とする 下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ※目荒し工法（高圧水洗処理）　・MCR工法　・ 壁タイル張りの工法 内外装タイル　・密着張り　・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り ・既調合モルタル モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
	4 有機系接着剤によるタイル張り	タイルの形状・寸法等 (11.3.2～5) 施工箇所 ／ 種類 ／ 形状/寸法(mm) ／ 吸水率による区分 Ⅰ種 Ⅱ種 Ⅲ種 ／ うわぐすり 無ゆう 施ゆう ／ 役物 有 無 ／ 色 標準 特注 ／ 再生材の適用 G ／ 耐凍害性 有 無 ／ 耐滑り性 ／ 備考 標準的な曲がりの役物は一体成形とする 内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆ 下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の処理 ※目荒し工法(高圧水洗処理)・MCR工法　・ 目地のシーリング材 打継ぎ目地　※ポリウレタン系シーリング材　・ ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系シーリング材　・ 伸縮調整目地及びその他の目地　※変成シリコーン系シーリング材　・ 外装タイルの目地詰め ・行う　・行わない
12 木工事 / 13 屋根及びとい工事 / 14 金属工事		
15 左官工事	1 モルタル塗り	モルタル　・現場調合材料　・既調合材料 (15.3.2、5) 既製目地材　・設ける　施工箇所（　　）　形状（※図示　・　） ・設けない 床の目地　・設ける（目地割り　※2m程度(最大目地間隔3m程度)　・　） （種類　※押し目地　・　） ・設けない 屋外のタイル張り下地及び屋内の吹付部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ・適用する　・適用しない
	2 せっこうボード その他のボード下地	
	3 仕上塗材仕上げ	内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 (15.6.2) ※F☆☆☆☆　・ 仕上塗材の種類 薄付け仕上塗材 呼び名 ／ 防火材料 ／ 仕上げの形状及び工法等 ・外装薄塗材 Si ／ ・ ／ ・砂壁状 ・可とう形外装薄塗材 Si ／ ・ ／ ・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り） ・外装薄塗材 E ／ ・ ／ ・さざ波状 ・可とう形外装薄塗材 E ／ ・ ／ ・平たん状 ・防水形外装薄塗材 E ／ ・ ／ ・凹凸状（・吹付け　・こて塗り） ・外装薄塗材 S ／ ・ ／ ・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性　・適用する　・適用しない 厚付け仕上塗材 呼び名 ／ 防火材料 ／ 仕上げの形状及び工法等 ・外装厚塗材 C ／ ・ ／ ・吹放し　・凸部処理　・平たん状 ・外装厚塗材 Si ／ ・ ／ ・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし ・外装厚塗材 E ／ ・ 吸放湿性　・適用する　・適用しない 上塗材　・適用する　・適用しない 外装厚塗材 C の上塗材 ・ｾﾒﾝﾄｽﾀｯｺ　・
	4 マスチック塗材塗り	種別　・A種　・B種 (15.7.2)
	5 ロックウール吹付け 6 しっくい塗り	

設計年月日	春日部市 福祉部 障がい者支援課	縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.03		A1-1: － A3-1: －	心身障害者通所支援施設増築等工事	特記仕様書（外構その１）	G－０１

16 建具工事

17 カーテンウォール工事

18 塗装工事

1 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (18.1.3)
※F☆☆☆☆

・防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・仕上表による

2 素地ごしらえ (18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・B種
	透明塗りの場合	・A種 ※B種
鉄鋼面（DP以外 ）		・A種 ・B種 ※C種
鉄鋼面（DPのみ）		・A種 ※B種 ・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種 ・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		・A種 ※B種
コンクリート面（ＤＰ以外）及びＡＬＣパネル面		・A種 ※B種
押出成形セメント板面		・A種 ※B種
コンクリート面（ＤＰのみ）		※A種 ・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種 ・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	・A種 ※B種

3 錆止め塗料塗り (18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	C種及びD種	表18.3.4
	EP-G	・A種 ※B種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種 ・B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種
	DP	B種	表18.3.6
	EP-G	C種	鋼製建具等：C種 上記以外：B種

4 塗装 (18.4.1～18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類
・合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)	木部屋外	※A種 ・B種	—
	木部屋内	・A種 ※B種	
	鉄鋼面	・A種 ※B種	
	亜鉛めっき鋼面	—	
・クリヤラッカー塗り（CL）		・A種 ※B種	—
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		・A種 ※B種	—
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	—	上塗り塗料の等級（ ）級
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗り塗料の等級（ ）級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種 ・B種 ・C種	—
・つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	・A種 ※B種	—
	屋内の木部、鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	・A種 ※B種	—
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		・A種 ※B種	—
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		・A種 ※B種	—
・ステイン塗り		・ﾋﾟｸﾞﾒﾝﾄｽﾃｲﾝ塗り ・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り(OS)	—
・木材保護塗料塗り(WP)		・A種 ※B種	—

屋上、屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日射反射率塗装 G とする。
クリヤラッカー塗りＡ種の工程2の適用
・適用しない ・適用する(着色剤：・溶剤系着色剤 ・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する ・適用しない
オイルステン塗りの工程等 ※製造所の仕様による

19 内装工事

⑳ ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア
2 可動間仕切
3 移動間仕切
4 トイレブース

5 手すり (20.2.6)

材料の種類及び仕上げ
・SUS304 表面処理 ※HL程度 ・
・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき（※標準仕様書 表14.2.2による種別（ 種））
・アルミニウム 表面処理（※標準仕様書 表14.2.1による種別（ 種））
色合等 ・標準色（ ） ・特注色（ ）
手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材(材種：)	・ｸﾘｱﾗｯｶｰ ・	・30程度・35程度 ・45程度		
・ﾋﾞﾆﾙ製ﾊﾝﾄﾞﾚｰﾙ	・	・30程度・35程度 ・45程度		
・樹脂被膜ﾀｲﾌﾟ	・	・34φ		

6 階段滑り止め

材種 ・ステンレス製 ・黄銅製押出型材 (20.2.7)
・アルミニウム製押出型材 ・
形状 ※タイヤ型（タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等） ・タイヤレス製
端部の形状 フラットエンド ・あり ・なし
寸法(幅) ・35mm程度 ・40mm程度 ・50mm程度
取付け工法 ※接着工法 ・埋め込み工法 ・

7 黒板及びホワイトボード G
8 鏡

9 表示 (20.2.11)

衝突防止表示
・設置場所 ※図示による
形状・寸法（・30φ ・ ）
材質 （・ステンレス製 ・塩ビシート ）
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示 ※消防法に適合する市販品 ・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、
取付け形式等(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

10 タラップ
11 煙突ライニング
12 ブラインド
13 ロールスクリーン
14 カーテン
15 カーテンレール
16 ブラインドボックスおよびカーテンボックス
17 天井点検口
18 床点検口
19 耐震スリット
20 止水板
21 エキスパンション・ジョイント金物
22 くつふきマット
23 流し台ユニット

24 旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

25 旗竿受金物

材種 ・ステンレス製（SUS304） ・

26 車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・
・				

㉗ フェンス

フェンスの種類 ・ビニル被覆エキスパンドフェンス
⊙樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス ・アルミフェンス
高さ ⊙図示 ・

28 プレキャストコンクリート (20.3.2～4)

コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³ を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。 ・図示
取付け方法
※図示 ・

29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み
30 鋼製書架及び物品棚
31 屋内掲示板
32 洗面カウンター
33 防煙垂れ壁

㉔ 屋外掲示板

照明器具 ※有り ・無し
施錠 ※有り ・無し
製造所 （ ）

35 収納家具

㉑ 排水工事

① 屋外雨水排水

材料 (21.2.1、2)(表21.2.1、2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（1種）	・Ｂ形管 ・	※図示 ・	
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示 ・	
	・VU		※図示 ・	
	⊙RF-VP G		※図示 ・	
	・RS-VU G		※図示 ・	

基床の厚さ及び種類 ⊙図示 ・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 ・ゴム輪
側塊の形状及び寸法 ⊙図示 ・
排水桝、ふたの種類 ⊙図示 ・
砂地業に用いる材料(標準仕様書4.6.2(2))
・シルト ⊙山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料(標準仕様書4.6.2(1))
⊙再生クラッシャラン G ・切込砂利 ・切込砕石
現場打ちの場合のコンクリート材料
種類 ※普通コンクリート
設計基準強度 ※18N/mm² ・
スランプ(cm) ※15又は18
現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 ・
排水桝が現場打ちの場合の足掛け金物
※標準仕様書21.2.2(ｵ)
・ステンレス製 ・鋼製 ・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層の厚さ ・図示 ・
凍上抑制層に用いる材料 ・
(砂を用いる場合の粒度試験) ・行う ・行わない

② 鋳鉄製ふた

鋳鉄製マンホールふた (21.2.1)

種類	適用荷重	鍵	備考
・水封形 ・簡易密閉形(パッキン式) ・密閉形(テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式) ・	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－２０用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は、(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

③ グレーチング

⊙鋼製 (21.2.1)

形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
⊙受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ⊙桝ふた ⊙U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・（ ）	・凹凸形 ・
		・T-2用 ・T-6用 ⊙T-14用 ・T-20用 ・	⊙普通目 ⊙細目	⊙（ HDZT63 ）	⊙平形 ・

・ステンレス製

形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・	―	・凹凸形 ・
		・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・	・	―	・平形 ・

④ 街きょ、縁石、側溝 (21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状、寸法
⊙縁石	⊙図示 ・
・L形側溝	・図示 ・
⊙U形側溝	⊙図示 ・
⊙U形側溝ふた	⊙図示 ・
・	・図示 ・

砂地業に用いる材料
・シルト ⊙山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料
⊙再生クラッシャラン G ・切込砂利 ・切込砕石
砂利地業の厚さ ※100(mm) ・図示
現場打ちの場合のコンクリート材料
種類 ※普通コンクリート
設計基準強度 ※18N/mm² ・
スランプ(cm) ※15又は18
現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 ・
凍上抑制層に用いる材料 ・
(砂を用いる場合の粒度試験) ・行う ・行わない

⑤ 埋戻し

⊙B種 (21.2.1)(表3.2.1)

設計年月日		縮 尺	工 事 名 称	図 面 名 称	図面番号
2026.03	春 日 部 市 福 祉 部 障 が い 者 支 援 課	A1-1：－ A3-1：－	心身障害者通所支援施設増築等工事	特記仕様書（外構その２）	Ｇ－０２

㉒ 舗装工事

① 路床

路床の材料 (22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
⊙盛土	⊙A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	⊙図示 ・
⊙凍上抑制層	⊙再生クラッシャラン G ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書表21.2.2による） ・	⊙図示 ・
・フィルター層	・標準仕様書22.2.3(3)による ・	・図示 ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 ）・行う ・行わない

・路床安定処理
安定処理の方法 ・安定処理工法 ・置き換え工法
添加材料による安定処理
種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（・特号 ・1号） ・消石灰（・特号 ・1号）
添加量 ・ kg/m³（CBR ・3以上 ・ ）

・不織布（ジオテキスタイル）
単位面積質量 ・60g/㎡以上 ・
厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・
引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上 ・
透水係数 ・1.5×10⁻¹cm/sec以上 ・

試験
路床土の支持力比（CBR）試験 ・行う（ 箇所） ・行わない
現場CBR試験 ・行う（ 箇所） ・行わない
安定処理土のCBR試験 ・行う ・行わない
路床締固め度の試験 ・行う（ 箇所） ・行わない
六価クロム溶出試験 ・行う ・行わない

② 路盤

路盤及び厚さ ⊙図示 ・ (22.3.2、3)(表22.3.1)
路盤材料（標準仕様書 表22.3.1による種別）

種 別	
砕 石	⊙クラッシャラン
	・粒度調整砕石
再生材	⊙再生クラッシャラン G
	・再生粒度調整砕石 G
鉄鋼スラグ	・クラッシャラン鉄鋼スラグ G
	・粒度調整鉄鋼スラグ G
	・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G

③ アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 ・ (22.4.2～4、6)(表22.4.1、4)
材料及び種類
アスファルト ⊙再生アスファルト G
（標準仕様書 表22.4.1による種類： ・60～80 ・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材 ・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物（13）
・細粒度アスファルト混合物（13）
・密粒度アスファルト混合物（13F）
試験
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

④ コンクリート舗装

構成及び厚さ (22.5.2～4)(表22.5.1～3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	⊙車路、駐車場	※図示	⊙図示
	・歩行者用通路	※図示	※70 ・

材料
コンクリート
※普通コンクリート 標準仕様書表22.5.1による ・
・以下による
コンクリートの種類 ・
設計基準強度(N/mm²) ・
所定のスランプ(cm) ※8 ・
粗骨材の最大寸法(mm) ・
早強ポルトランドセメント ・使用する ・使用しない
注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ
目地
種類 ※標準仕様書表22.5.3による ・
間隔 ※標準仕様書表22.5.3による ・ m程度ごと
構造 ※標準仕様書図22.5.1による ・図示
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

⑤ カラー舗装

(22.6.2～4)

・加熱系カラー舗装
構成及び厚さ ※図示 ・
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物 顔料の添加量（ %）
添加材
着色骨材 （ ）
自然石 （ ）
⊙常温系カラー舗装
工法 ⊙ニート工法（配合その他： ﾒｰｶｰ仕様 ）
・塗布工法 （配合その他： ）
着色部の下部 ⊙アスファルト舗装 ・コンクリート舗装
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・

6 透水性舗装

・透水性アスファルト舗装 (22.7.2、3、6)
舗装の構成及び厚さ ※図示 ・
材料
骨材 ・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
（標準仕様書 表22.4.1による種類： ・60～80 ・80～100）
舗装の平たん性 ※著しい不陸がないもの ・
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない
・透水性コンクリート舗装 (22.5.2～4、6)
コンクリート舗装に対する基準値

項目	基準値
最大粒径 (mm)	13
空隙率 (%)	20以上
透水係数 (cm/s)	1×10^{-2}以上
目地の間隔	版厚の20倍程度

出典：校内舗装・排水設計基準の資料、舗装施工便覧

構成、厚さはコンクリート舗装による

・不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置 ※フィルター層と路床の間の敷設 ・図示
単位面積質量 ・60g/㎡以上 ・
厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・
引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上 ・
透水係数 ・1.5×10⁻¹cm/sec以上 ・

・透水性コンクリート舗装 (22.8.2、3)
透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による

・透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2、3)
透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による

7 半たわみ性舗装

区分	種類	厚さ(mm)
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物Ⅰ型(13)	40
基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40

試験
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない

材料
浸透用セメントミルクの標準的な性状

項目	性状	試験方法
フロー値(Pロート)砂	10～14	舗装調査・試験法便覧 (C041)
圧縮強度(7日養生) MPa	9.8～29.4	JIS R 5201
曲げ強度(7日養生) MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧 (C042)

配合
半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合

ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)
19.0 mm	100
13.2 mm	95～100
4.75 mm	10～ 35
2.36 mm	5～ 22
600 μm	4～ 15
300 μm	3～ 12
75 μm	1～ 6
アスファルト量 (%)	3～ 4.5

半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値

項目	基準値
密度 (g/cm³)	1.9以上
安定度 (kN)	2.94以上
フロー値 (1/100cm)	20～40
空隙率 (%)	20～28
突固め回数 (回)	50

施工
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22.4.5による。
浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。
(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。
(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になってから行う。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に振動ローラ等により行う。
(3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、砕砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっそうの除去等、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。
(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下表に示すとおりである。

セメントミルクの種類	養生期間
普通タイプ	約 3 日
早強タイプ	約 1 日
超速硬タイプ	約 3 時間

(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥奪や飛散、またはごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注入前に交通開放を行わないようにする。

締固め度 標準仕様書22.4.2(2)による
舗装厚さの許容差 ※標準仕様書 22.4.2(3) による
舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度

8 弾性舗装

弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ ※図示 ・

区分	種類	厚さ(mm)
表層	弾性舗装材	15～20
基層	再生密粒度アスファルト混合物 (13)	30

加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による

9 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 G (22.8.2、3)
※図示 ・

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板（N） ・透水平板（P） ・保水性平板（M）	※300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し
敷砂層	・砂 ・空練りﾓﾙﾀﾙ			

クッション材 ※砂 ・空練りモルタル

普通平板はG（再生材料を用いた舗装用ブロック）、
透水平板はG（透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
・

・インターロッキングブロック舗装 G

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	横断面勾配	目地材	備考
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M）	車路、駐車場	・図示 ・	80	※5.0	2%	砂	色彩、表面加工 ・標準品 ・
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M）	歩行者用通路	・図示 ・	60	※3.0	1.5～2%		

クッション材 ※砂 ・空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロックは G（再生材料を用いた舗装用ブロック）、
透水性ブロックは G（透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。
・

区分	部位	厚さ(mm)	種類
敷砂層	・車路、駐車場	20	砂
	・歩行者用通路	30	
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量6%以下）

・不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置 ※図示
・敷砂層と路盤の間に敷設 ・フィルター層と路床の間に敷設
単位面積質量 ・60g/㎡以上 ・
厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・
引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上 ・
透水係数 ・1.5×10⁻¹cm/sec以上 ・
舗装の割付（車路、駐車場）
・ヘリンボンボンド(45°) ・ヘリンボンボンド(90°)
仕上り面の平たん性 ※走行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm 以内とする。
・

・舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ(mm)
・花こう岩 ・	・割石・図示 ・	・	・うろこ張り ・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版	※70 ・
				・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※70 ・

クッション材 ※砂 ・空練りモルタル
仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm 以内とする。
・

10 砂利敷き

種別 (22.9.2)(表22.9.1)
・A種（施工範囲：・図示 ・通路 ・ ）
・B種（施工範囲：・図示 ・建物周囲他 ・ ）

⑪ 路面標示用塗料

路面標示用塗料は JIS K 5665 による。

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・1種 G	常温	液状	⊙白 ・	・150 ⊙100	・1.0 ⊙1.5
・2種 G	加熱				
※3種1号	溶融	粉体状			

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

㉓ 植栽及び屋上緑化工事

① 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度（pH）試験 ・行う ⊙行わない (23.1.3)
電気伝導度（EC）の試験 ・行う ⊙行わない

② 植栽基盤の整備

(23.2.2)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
⊙樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 （※100 ・120 ・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80 ・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60 ・80） 樹高3m未満 （※50 ・60）	・薬張り部分 ・植栽帯部分 ⊙図示 ・	・適用する ⊙適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ⊙図示 ・	・適用する ⊙適用しない

植栽基盤の排水設備 ・設ける（※図示 ・ ） ⊙設けない

③ 植込み用土

・現場発生土の良質土 ⊙客土 ・ (23.2.3)

4 土壌改良材

種類及び指定量等 (23.2.3)
・バーク堆肥 G
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示
使用量 植栽基盤面積１㎡あたり（・50L ・ ）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト） G
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示
使用量 植栽基盤面積１㎡あたり（・10L ・ ）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。

⑤ 樹木

樹種、寸法、株立数等 ※図示 ・ (23.3.2)

6 支柱

支柱材 ※丸太（間伐材）G ・真竹 ・ (23.3.2、3)
防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 ・
形式 ・図示 ・

7 幹巻き用材料

材料 ※幹巻き用テープ ・わら及びこも ・ (23.3.2)

⑧ 芝

種類 ※コウライシバ ⊙ノシバ ・ (23.4.2、3)
芝張りの工法
平地 ※目地張り ・べた張り
法面 ・目地張り ※べた張り法面

9 吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後２年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

10 地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

⑪ 新植、移植樹木、芝等の枯補償

(23.3.4、6)(23.4.7)(23.5.5)
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から１年 ・無し ・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から１年 ・無し ・

12 屋上緑化 G

植栽基盤及び材料 (23.5.2～4)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・図示 ・
排水層 ・軽量骨材（層の厚さ： ） ・板状成型品
植込み用土 ※改良土 ・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等 ※図示 ・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示 ・
支柱 ・設置する（形式 ・図示 ・ ）
かん水装置 ・設置する（種類 ・ ）
工法
「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（建設省）に基づく風圧力に対応した工法
・図示による

⓪ 情報共有システム

① 情報共有システム

建築工事特記仕様書による。

設計年月日		縮 尺	工 事 名 称	図 面 名 称	図面番号
2026.03	春 日 部 市 福 祉 部 障 が い 者 支 援 課	A1-1：－ A3-1：－	心身障害者通所支援施設増築等工事	特記仕様書（外構その３）	G－０３

改修前

構造物凡例

記号	凡例	仕様	撤去・改修
K1		地先境界ブロック 100×100×600	既存のまま
K2		地先境界ブロック 100×100×600	撤去
K3		地先境界ブロック 120×120×600	既存のまま
K4		地先境界ブロック 150×150×600	既存のまま
K5		コンクリート立上り	既存のまま
K6		屋外掲示板	既存のまま
K7		誘導ブロック 300角	撤去
K8		車止めポール（固定式）	撤去

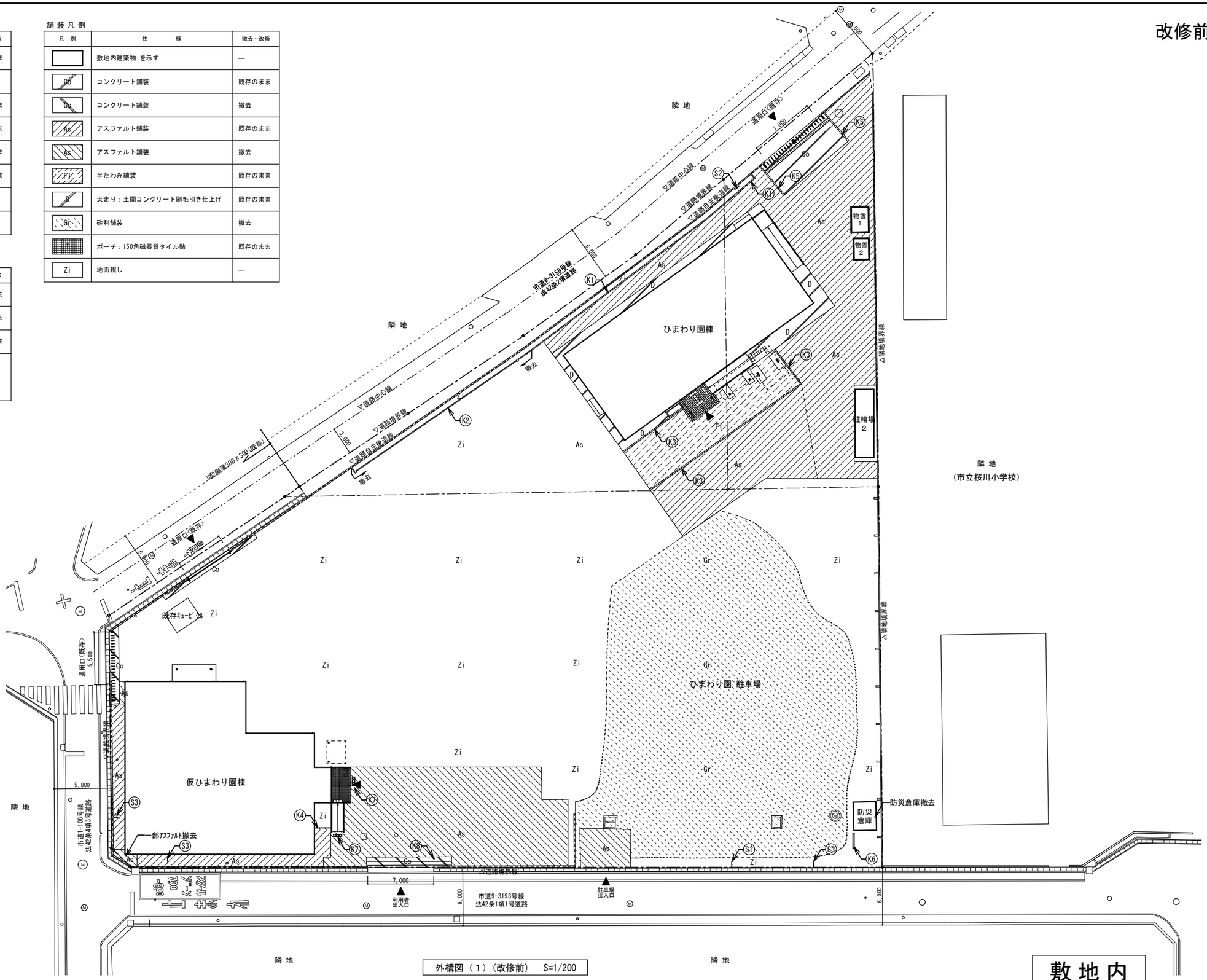
標識凡例

記号	凡例	仕様	撤去・改修
S1		防火水槽標識	既存のまま
S2		消火栓標識	既存のまま
S3		道路標識	既存のまま

特記事項
※あおぞら棟の仮設足場の設置の際に 道路標識(2本)が支障をきたすため、
警察と協議の上、仮移設し、工事後に元の位置へ復旧をおこなうこと。

舗装凡例

凡例	仕様	撤去・改修
	敷地内建築物 を示す	—
Co	コンクリート舗装	既存のまま
Co	コンクリート舗装	撤去
As	アスファルト舗装	既存のまま
As	アスファルト舗装	撤去
Pv	半たわみ舗装	既存のまま
D	犬走り：土間コンクリート刷毛引き仕上げ	既存のまま
Gr	砂利舗装	撤去
	ポーチ：150角磁器質タイル貼	既存のまま
Zi	地面現し	—



外構図（1）（改修前） S=1/200

設計年月日	春日部市 福祉部 障がい者支援課	縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.03		A1-1:200 A3-1:400	心身障害者通所支援施設増築等工事	外構図（1）（改修前）	G－04

改修後

構造物凡例

記号	凡例	仕様	新設・改修
K1		地先境界ブロック 100×100×600	既存のまま
K3		地先境界ブロック 120×120×600	既存のまま
K4		地先境界ブロック 150×150×600	既存のまま
K5		コンクリート立上り	既存のまま
K6		屋外掲示板	既存のまま
K7		路面標示（白線引き）	既存のまま
K1		地先境界ブロック 120×120×600	新設
K2		境界ブロック 150×200×600	新設
K3		車止めブロック	新設
K4		路面標示（白線引き）	新設
K5		車止めポール	新設
K6		誘導ブロック 300角	新設
K7		門袖（ポスト・表札・インターホン付）	新設
K8		郵便受け(自立型)	新設
E1		外灯（設備工事）	新設
M1		地流し立水栓（設備工事）	新設
M2		防火水槽 40T	新設
	M M	マンホール	鋼製蓋枠の天端調整

標識・サイン凡例

記号	凡例	仕様	新設・改修
S1		防火水槽標識	既存のまま
S2		消火栓標識	既存のまま
S3		道路標識	既存のまま
S1		施設名称サイン	新設
S2		駐車場自立サイン	新設
S3		車いす優先駐車場サイン	新設
S4		アイドリングストップサイン	新設
S5		防火水槽自立サイン	新設

収納庫	本体：W1940 D755 H1303 4枚引違い 長もの収納ﾀｲﾌﾟ 独立ﾌﾞﾛｯｸ基礎 転倒防止措置	新設
ゴミ庫	本体：W1810 D900 H1315 ﾒｯｼｭ床ﾀｲﾌﾟ 前ﾊﾟﾈﾙ上部開閉式 傾斜床 転倒防止措置	新設

舗装凡例

凡例	仕様	新設・改修
	敷地内建築物 を示す	—
90	コンクリート舗装	既存のまま
Co	コンクリート舗装	新設
As	アスファルト舗装	既存のまま
As	アスファルト舗装	新設
PV	薄層カラー舗装	既存のまま
FI	薄層カラー舗装	新設
D	犬走り コンクリート刷毛引き仕上げ	既存のまま
D	土間 コンクリート刷毛引き仕上げ	新設
D	化粧土間ｺﾝｸﾘｰﾄ(天然石調) ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ塗装	新設
D	化粧土間ｺﾝｸﾘｰﾄ(木目調) ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ塗装	新設
G	緑地	新設
G	緑地（芝生）	新設
	ポーチ床 磁器質タイル貼	既存のまま
Zi	地面現し	—
	設備基礎 コンクリート金ゴテ仕上げ	新設
	工事対象外エリア	

レベル凡例

. ±0 ＝ 既存地盤レベル（引き出し線なき場合、左下隅が測量点）

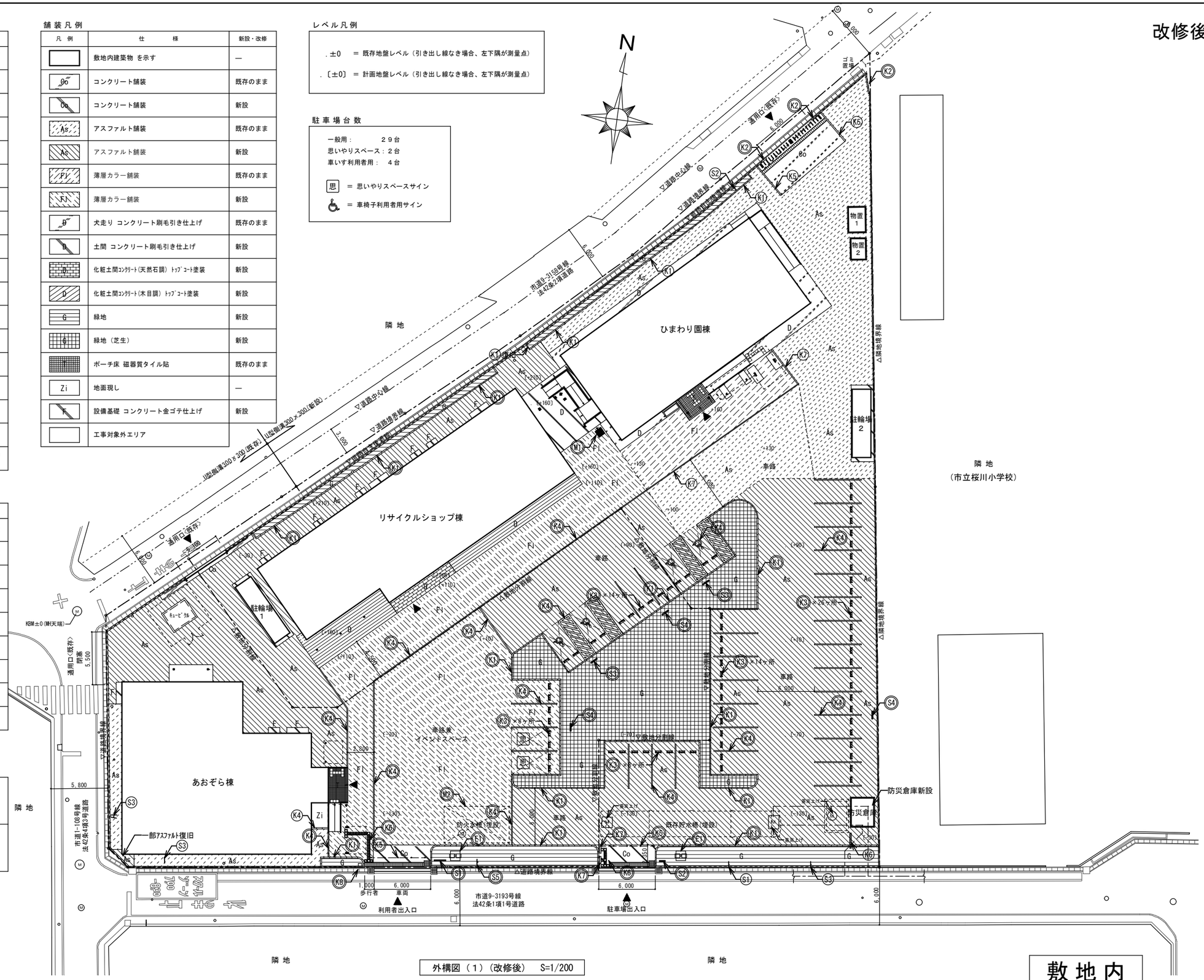
. 〔±0〕 ＝ 計画地盤レベル（引き出し線なき場合、左下隅が測量点）

駐車場台数

一般用： ２９台
思いやりスペース：２台
車いす利用者用： ４台

思 ＝ 思いやりスペースサイン

＝ 車椅子利用者用サイン



外構図（1）（改修後） S=1/200

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.03	春日部市 福祉部 障がい者支援課	A1-1:200 A3-1:400	心身障害者通所支援施設増築等工事	外構図（1）（改修後）	G－05

改修前

境界塀凡例

記号	種別	仕様	撤去・改修
A	道路境界塀	防護柵：単管パイプ組 H=1200	撤去
B	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積３段	既存のまま
B	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積３段	撤去
C	正門 門壁	門壁：コンクリート打放し補修 リシン吹付 H=1480 基礎：Ｌ型基礎	塗替
C	正門 門壁	門壁：コンクリート打放し補修 リシン吹付 H=1480 基礎：Ｌ型基礎	撤去
C'	通用口 門壁	門壁：コンクリート打放し補修 リシン吹付 H=1410 基礎：Ｌ型基礎	撤去
D	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積３段	既存のまま
D	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積３段	撤去
E	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積２段	既存のまま
F	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1200 基礎：Ｌ型基礎　立上りH=400	既存のまま
G	隣地境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1250 基礎：独立基礎	既存のまま
H	隣地境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1200 基礎：Ｌ型基礎　立上りH=400	既存のまま
I	隣地境界塀	塀：ＣＢ積６段（t=150,芋目地,控壁@4000） 基礎：Ｌ型基礎	撤去

門扉凡例

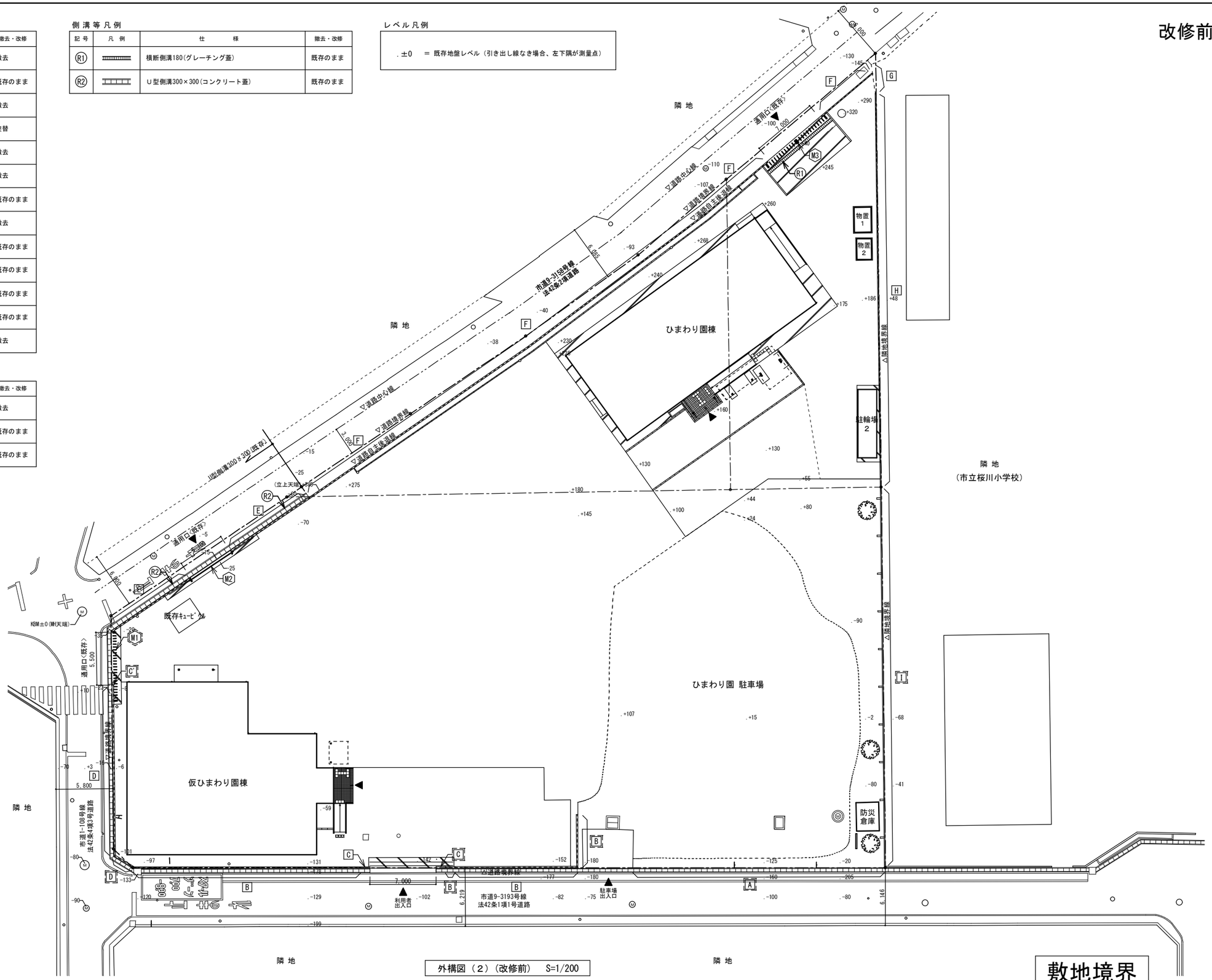
記号	種別	仕様	撤去・改修
M1	通用口	アコーディオン門扉 片引き （ステンレス製 L=7200 H=1270）	撤去
M2	通用口	引戸門扉　両引き （アルミ製 W=5600 H=1280）	既存のまま
M3	通用口	アコーディオン門扉 両引き （アルミ製 L=8000 H=1400）	既存のまま

側溝等凡例

記号	凡例	仕様	撤去・改修
R1		横断側溝180(グレーチング蓋)	既存のまま
R2		Ｕ型側溝300×300(コンクリート蓋)	既存のまま

レベル凡例

. ±0　＝ 既存地盤レベル（引き出し線なき場合、左下隅が測量点）



外構図（２）（改修前）　S=1/200

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.03	春日部市 福祉部 障がい者支援課	A1-1:200 A3-1:400	心身障害者通所支援施設増築等工事	外構図（２）（改修前）	G－０６

改修後

境界塀凡例

記号	種別	仕様	新設・改修
A	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積２段	新設
B	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積３段	既存のまま
B	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積３段	新設
C	正門 門壁	門壁：コンクリート打放し補修 リシン吹付 H=1480 基礎：Ｌ型基礎	塗替
—	—	—	—
D	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積３段	既存のまま
D	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積３段	新設
E	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1000 腰壁：化粧ＣＢ積２段	既存のまま
F	道路境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1200 基礎：Ｌ型基礎　立上りH=400	既存のまま
G	隣地境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1250 基礎：独立基礎	既存のまま
H	隣地境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1200 基礎：Ｌ型基礎　立上りH=400	既存のまま
I	隣地境界塀	フェンス：スチール製 メッシュフェンス H=1200 基礎：Ｌ型基礎　立上りH=400	新設

門扉凡例

記号	種別	仕様	新設・改修
—	—	—	—
M2	通用口	引戸門扉　両引き （アルミ製 W=5600 H=1280）	既存のまま
M3	通用口	アコーディオン門扉 両引き （アルミ製 L=8000 H=1400）	既存のまま

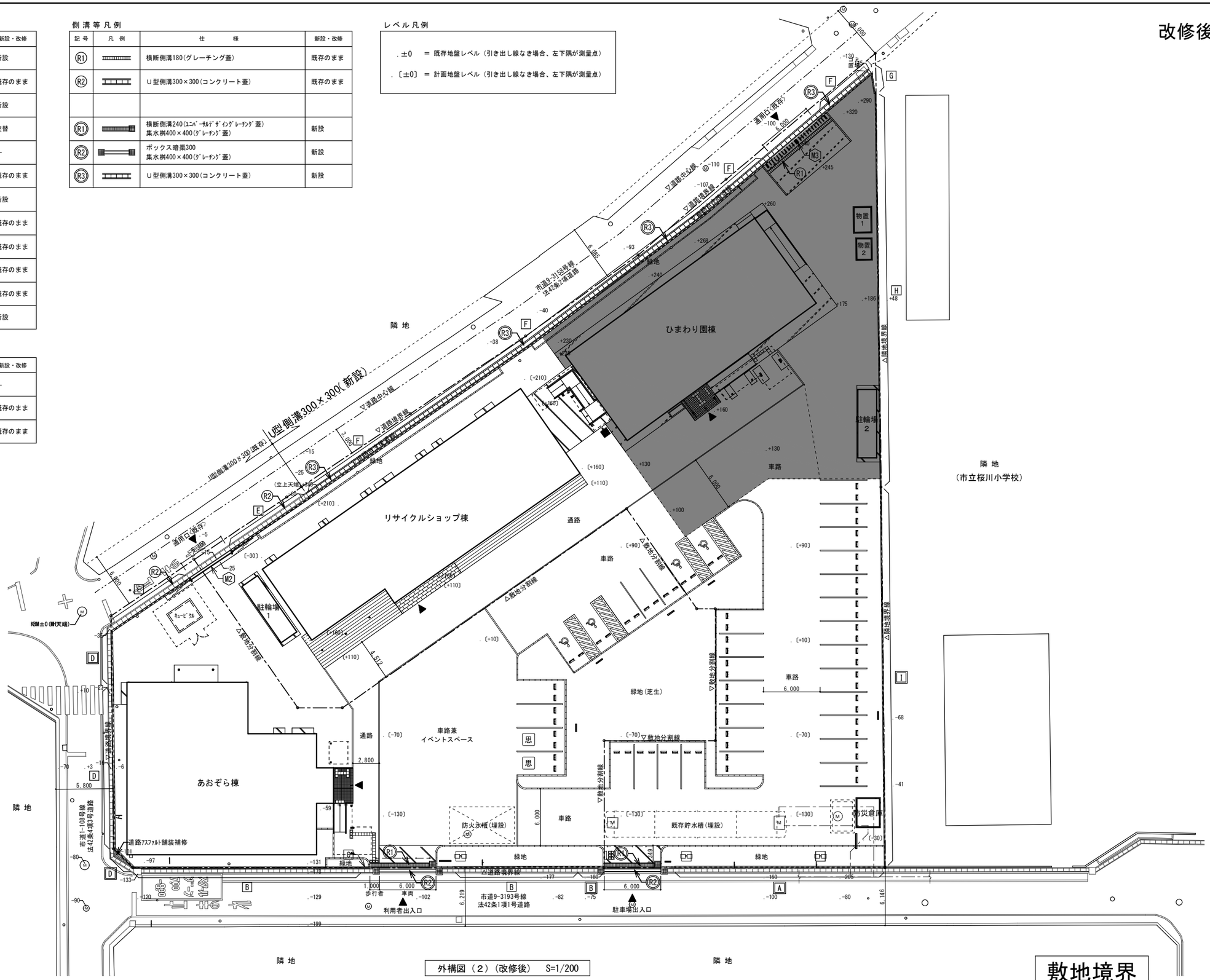
側溝等凡例

記号	凡例	仕様	新設・改修
R1		横断側溝180(グレーチング蓋)	既存のまま
R2		Ｕ型側溝300×300(コンクリート蓋)	既存のまま
R1		横断側溝240(ｺﾝﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋) 集水桝400×400(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋)	新設
R2		ボックス暗渠300 集水桝400×400(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋)	新設
R3		Ｕ型側溝300×300(コンクリート蓋)	新設

レベル凡例

. ±0　＝ 既存地盤レベル（引き出し線なき場合、左下隅が測量点）

. 〔±0〕 ＝ 計画地盤レベル（引き出し線なき場合、左下隅が測量点）

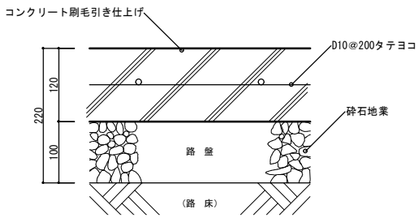


外構図（２）（改修後）　S=1/200

敷地境界

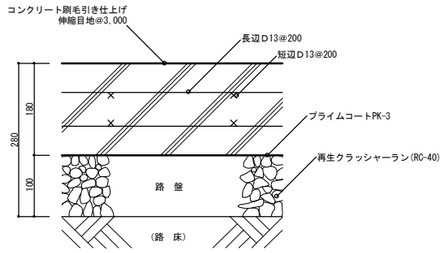
設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.03	春日部市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:200 A3-1:400	心身障害者通所支援施設増築等工事	外構図（２）（改修後）	G－０７

H-01 既存　コンクリート舗装　S=1:5



撤 去

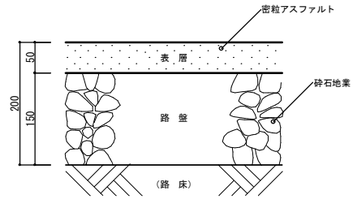
H-02 新設　コンクリート舗装（車道用）　S=1:5



使用構造材料表
〔鉄　筋〕
異形鉄筋(jis G 3112)　・・・SD295　D13　重ね継ぎ手
〔コンクリート〕　レディーミクストコンクリート(jis A 5308)
コンクリート・・・普通　Fc 21 N/mm2　スランプ18cm
※構造体強度補正を行うこと。
※施工に関しては、JASS5による。

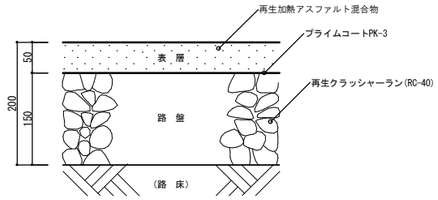
新 設

H-03 既存　アスファルト舗装　S=1:5



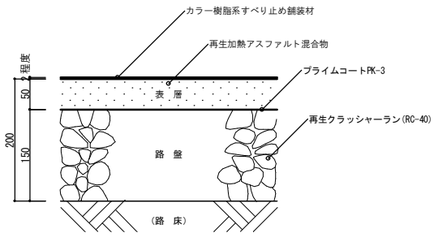
撤 去

H-04 新設　アスファルト舗装　S=1:5



新 設

H-05 新設　薄層カラー舗装　S=1:5



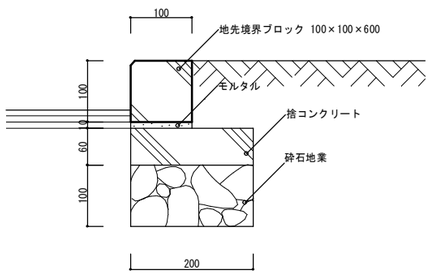
新 設

H-06

H-07

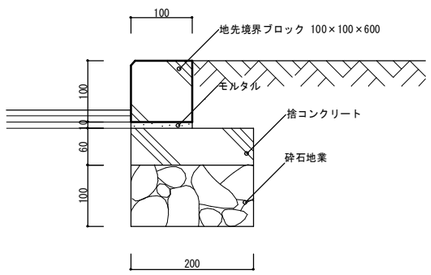
H-08

K1 既存　地先境界ブロック 100×100×600　S=1:5



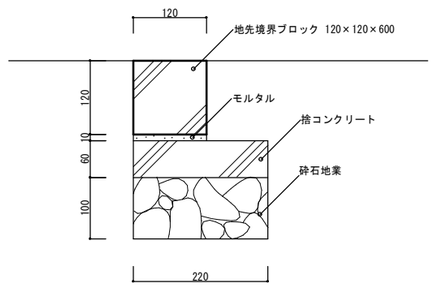
既存のまま

K2 既存　地先境界ブロック 100×100×600　S=1:5



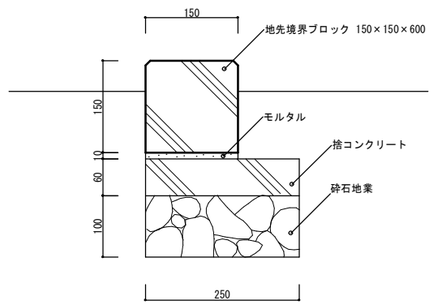
撤 去

K3 既存　地先境界ブロック 120×120×600　S=1:5



既存のまま

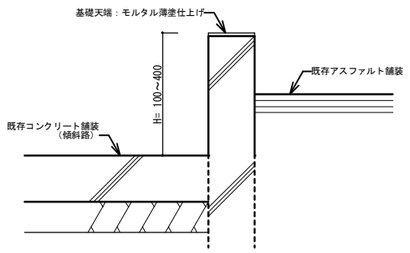
K4 既存　地先境界ブロック 150×150×600　S=1:5



既存のまま

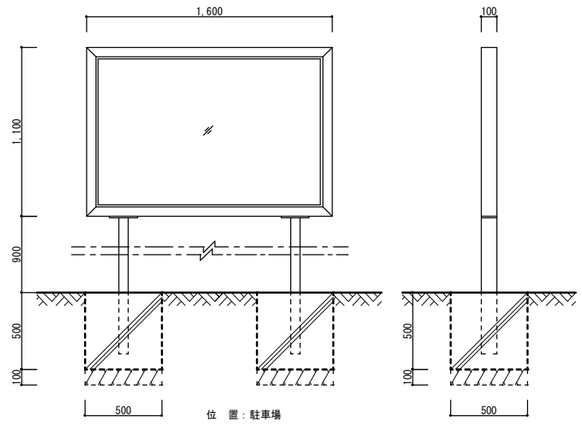
設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.03	春　日　部　市 福 祉 部　障 が い 者 支 援 課	A1-1:5,他 A3-1:10,他	心身障害者通所支援施設増築等工事	外構詳細図（１）	G－０８

K5 既存　コンクリート立上り　S=1:5



既存のまま

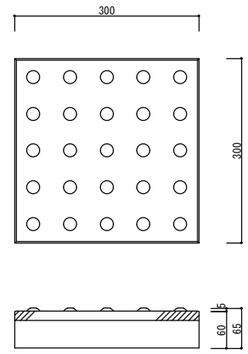
K6 既存　屋外掲示板　（数量：1）　S=1:20



位　置：駐車場
数　量：１ヶ所
仕　様：枠,支柱/アルミ製、ガラス/強化透明5mm

既存のまま

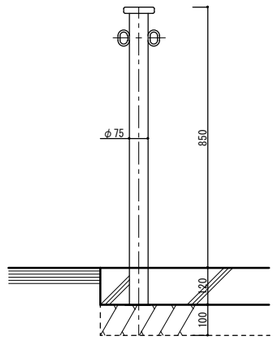
K7 既存　誘導ブロック 300×300×600　S=1:5



位　置：あおぞら棟スロープ下部
数　量：３枚
仕　様：点状ブロック

撤 去

K8 既存　車止めポール（固定式）　S=1:10

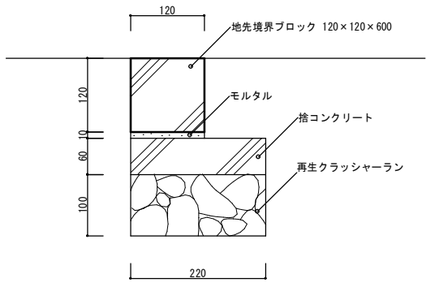


〈断面図〉

位　置：正門廻り
数　量：１ヶ所
サイズ：φ75×H850
仕　様：スチール製 焼付塗装、固定式
備　考：南京錠付、チェーン6.0m含

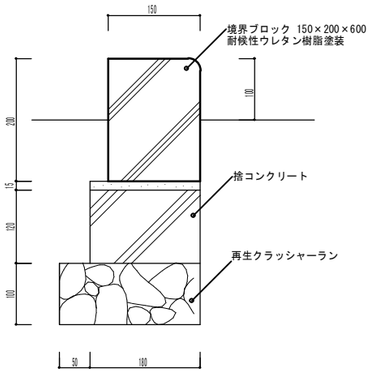
撤 去

K1 新設　地先境界ブロック 120×120×600　S=1:5



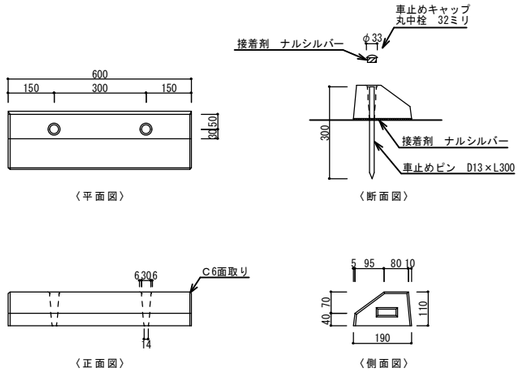
新 設

K2 新設　境界ブロック 150×200×600　S=1:5



新 設

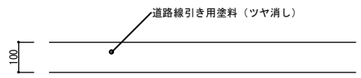
K3 新設　車止めブロック　（数量：70）　S=1:10



位　置：駐車場
数　量：７０ヶ所
参　考：大成コンクリート TS車止め（同等品）

新 設

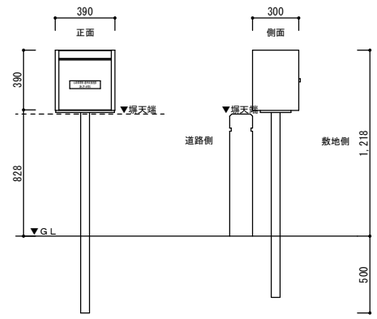
K4 新設　路面標示（白線引き）　S=1:10



新 設

K8 新設　郵便受け(自立型)　S=1:20

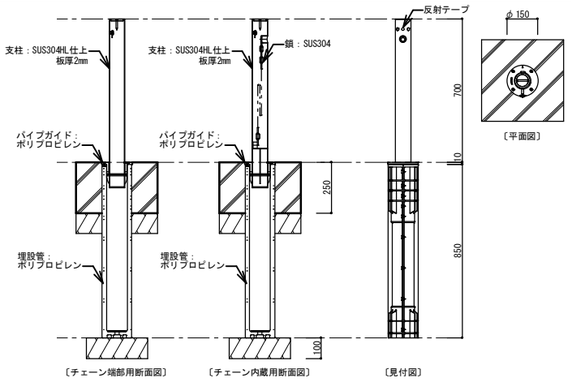
位　置：敷地出入口
数　量：１ヶ所



仕　様：郵便受け本体/SUS304 ﾀﾞｲﾔﾙ錠 屋外仕様
前入後出ﾀｲﾌﾟ
自立ｽﾀﾝﾄﾞ/SUS304
表札/樹脂
各種取付金具共

新 設

K5 新設　車止めチェーン用ポール　（数量：20）　S=1:15

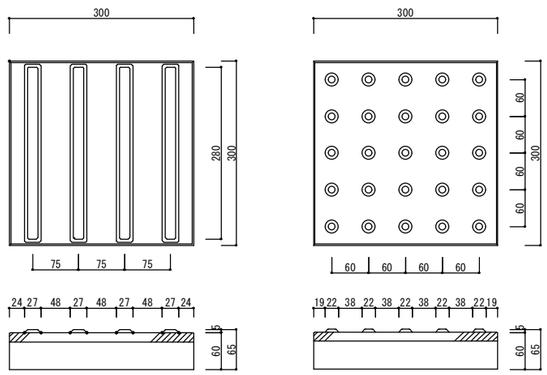


使用構造材料表
〔コンクリート〕　レディーミクストコンクリート(jis A 5308)
基礎コンクリート　・・・普通　Fc 21 N/mm2　スランプ18cm
※施工に関しては、JASS5による。

位　置：敷地出入口、車道
数　量：端部用 8ヶ所＋内蔵用 12ヶ所
サイズ：φ150×H700
仕　様：上下式 チェーン内蔵 ステンレス製
ワンタッチ錠付

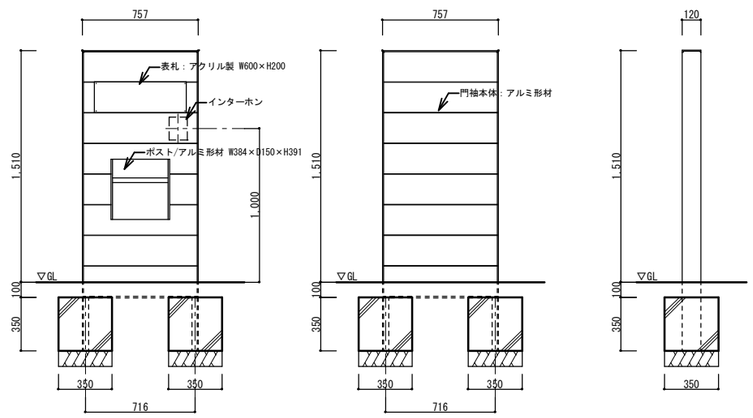
新 設

K6 新設　誘導ブロック 300×300×600　S=1:5



新 設

K7 新設　門袖（ポスト・表札・インターホン付）　（数量：2）　S=1:20



使用構造材料表
〔コンクリート〕　レディーミクストコンクリート(jis A 5308)
基礎コンクリート　・・・普通　Fc 21 N/mm2　スランプ18cm
※施工に関しては、JASS5による。

位　置：駐車場出入口
数　量：２ヶ所
サイズ：W757×D120×H1510

仕　様：門袖本体/アルミ形材（三協ｱﾙﾐ ｳｫｰﾙ型(目隠し)XSM-1H-0715 同等品）
ポスト/アルミ形材 プッシュ錠付（三協ｱﾙﾐ SME-1:KC 同等品）
表札/アクリル製（三協ｱﾙﾐ KMGA-2 同等品）
インターホン/設備工事
各種取付金具共

新 設

設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.03	春　日　部　市 福 祉 部　障 が い 者 支 援 課	A1-1:5,他 A3-1:10,他	心身障害者通所支援施設増築等工事	外構詳細図（２）	G－０９

特記事項

■新設サイン特記仕様

［1］使用材料

a．木材　　：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆☆対応）とする。
b．アルミ　　：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
c．アクリル　　：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８－１（キャスト板），ＪＩＳ－Ｋ－６７１８－２（押出板）
d．ステンレス　：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上

［2］フォント

a．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
　※ただし、係員より特定の書体の指示があった場合にはこの限りではない。

［3］ピクトグラム

a．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受けること。

［4］ユニバーサルデザイン

a．ピクトグラム表示や点字サインの導入を推奨する。
b．多様な色覚に対応した配色や明度差を理解しているＣＵＤ賛助会員による製作とする。

［5］取付位置・方法

a．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
b．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取り付けを行うこと。
c．障害者用サインについては、自治体福祉要綱に基づき、係員と協議の上決定する。

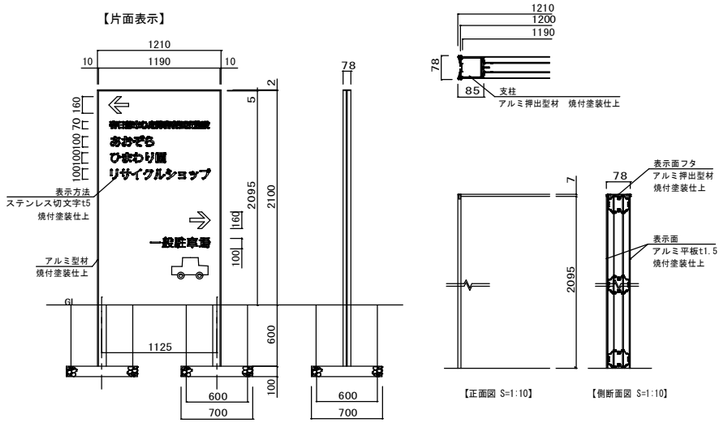
［6］その他

a．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
　又、室名札脱着の際には　スライドロック機構、専用吸盤などを利用し
　商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様とすること。
b．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をすること。

■使用構造材料表

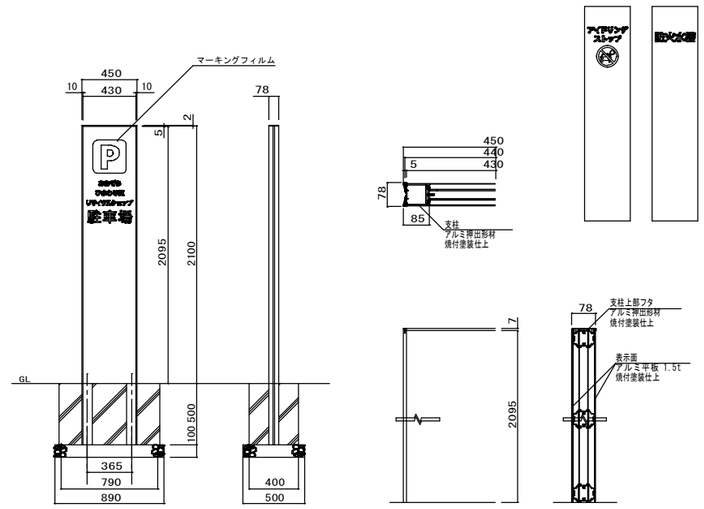
〔コンクリート〕　レディーミクストコンクリート(jis A 5308)
基礎コンクリート　・・・普通　Fc 21 N/mm2　スランプ18cm
※構造体強度補正を行うこと。
※施工に関しては、JASS5による。

S1　新設　施設名称サイン　（数量：1）　S=1:10,1:30



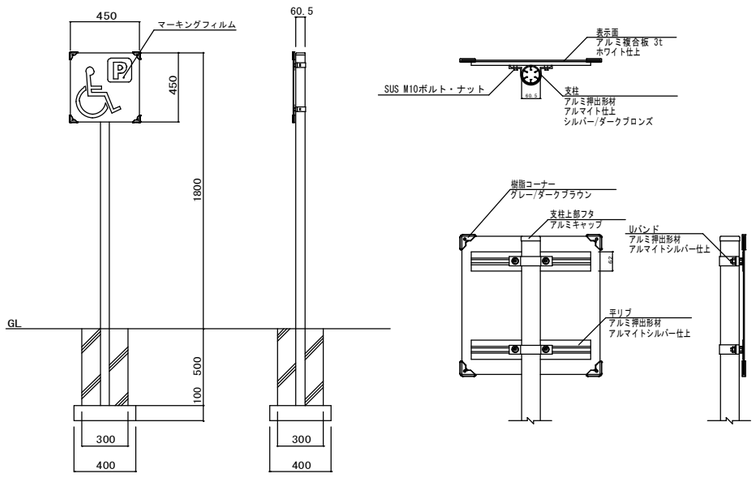
新設

S2　新設　駐車場自立サイン　（数量：1）　S=1:10,1:25



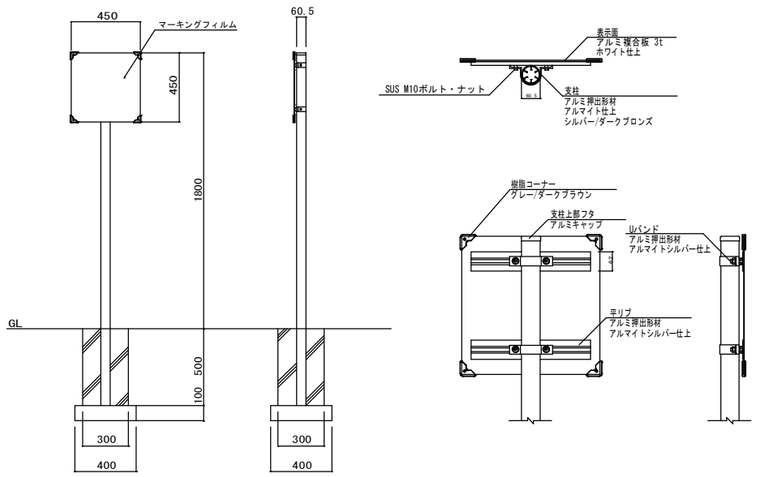
新設

S3　新設　車いす優先駐車場サイン　（数量：2）　S=1:10,1:20



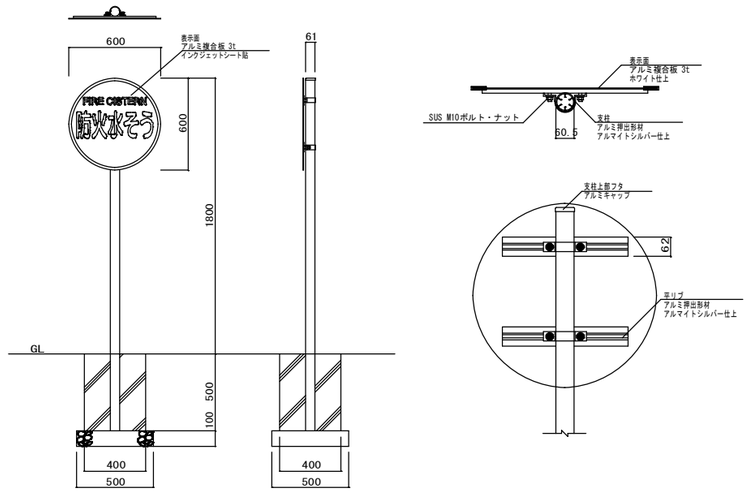
新設

S4　新設　アイドリングストップサイン　（数量：3）　S=1:10,1:20



新設

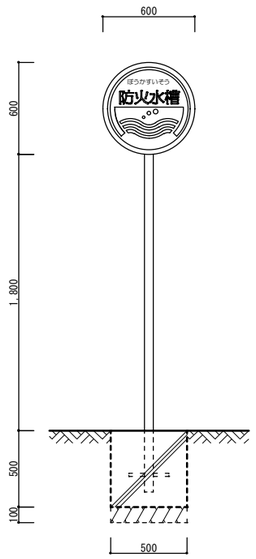
S5　新設　防火水槽自立サイン　（数量：1）　S=1:10,1:20



新設

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.03	春日部市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:10,他 A3-1:20,他	心身障害者通所支援施設増築等工事	サイン詳細図（1）	G－10

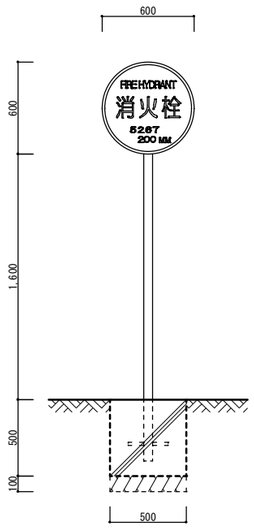
S1 既存　防火水槽標識　（数量：1）　S=1:20



位　置：駐車場
仕　様：スチール製 粉体塗装
備　考：U型バンド金具

既存のまま

S2 既存　消火栓標識　（数量：1）　S=1:20

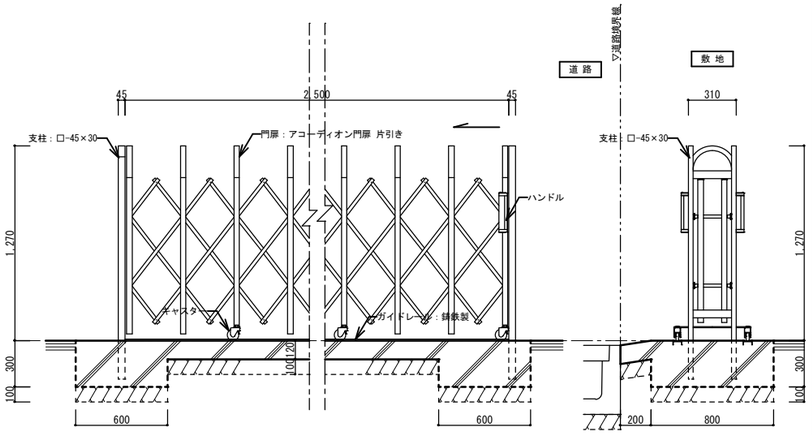


位　置：ひまわり園通用口
仕　様：スチール製 粉体塗装
備　考：U型バンド金具

既存のまま

設計年月日	春　日　部　市 福 祉 部　障 が い 者 支 援 課	縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.03		A1-1:20 A3-1:40	心身障害者通所支援施設増築等工事	サイン詳細図（2）	G－１１

M1 既存　アコーディオン門扉 片引き　S=1:20



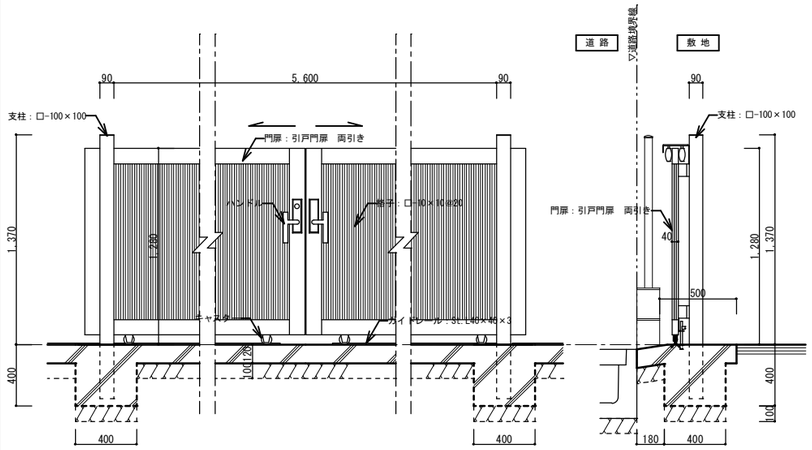
見付図（敷地側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

位　置：通用口
数　量：１ヶ所
サイズ：L=7200 H=1270
仕　様：ステンレス製 ＨＬ仕上げ
備　考：ハンドル、キャスター、ガイドレール

撤 去

M2 既存　引戸門扉　両引き　S=1:20



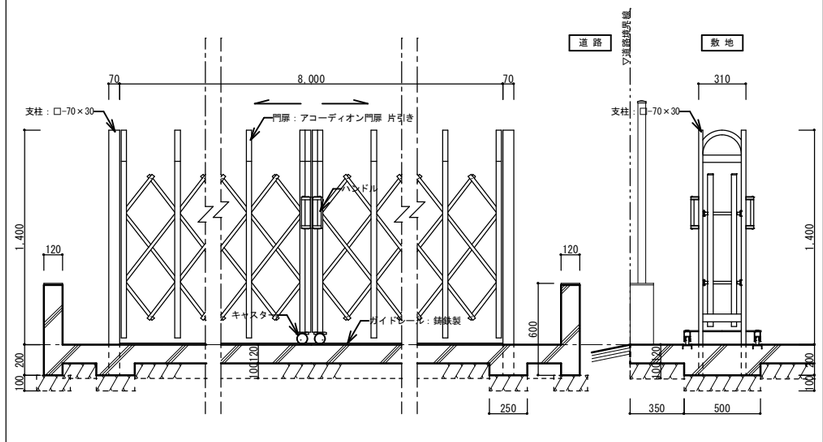
見付図（敷地側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

位　置：通用口
数　量：１ヶ所
サイズ：W=5600 H=1250
仕　様：アルミ製 焼付塗装
備　考：ハンドル、戸車、ガイドレール

既存のまま

M3 既存　アコーディオン門扉 両引き　S=1:20



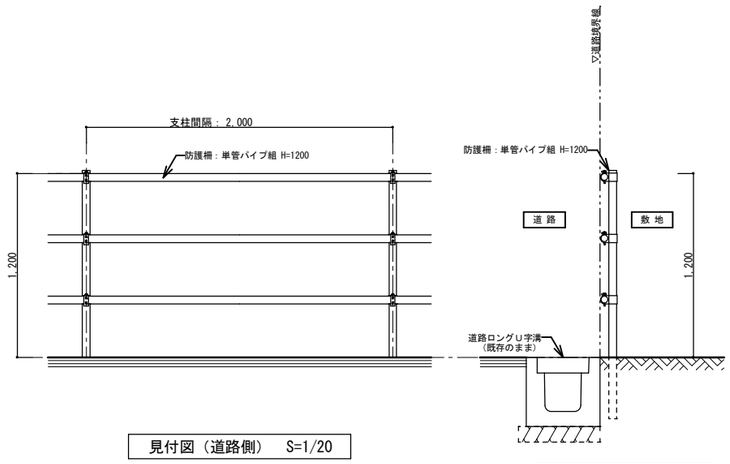
見付図（敷地側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

位　置：通用口
数　量：１ヶ所
サイズ：L=8000 H=1400
仕　様：アルミ製
備　考：ハンドル、キャスター、ガイドレール

既存のまま

A 既存　南側 道路境界塀　S=1:20

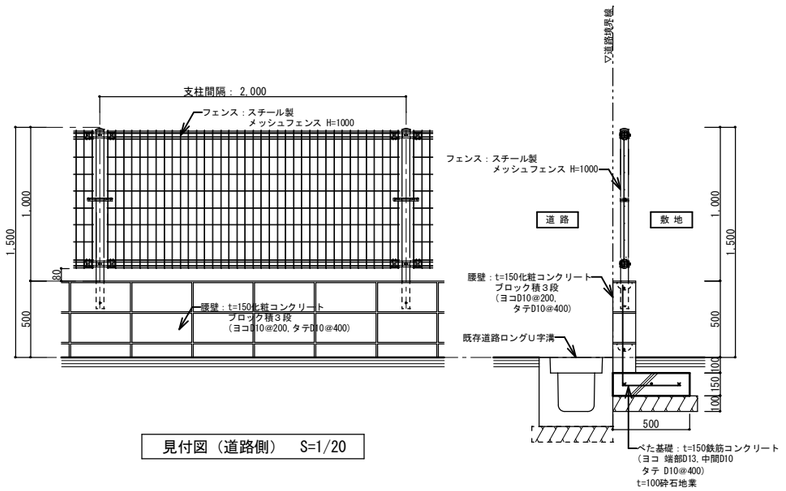


見付図（道路側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

撤 去

A 新設　南側 道路境界塀　S=1:20



見付図（道路側）　S=1/20

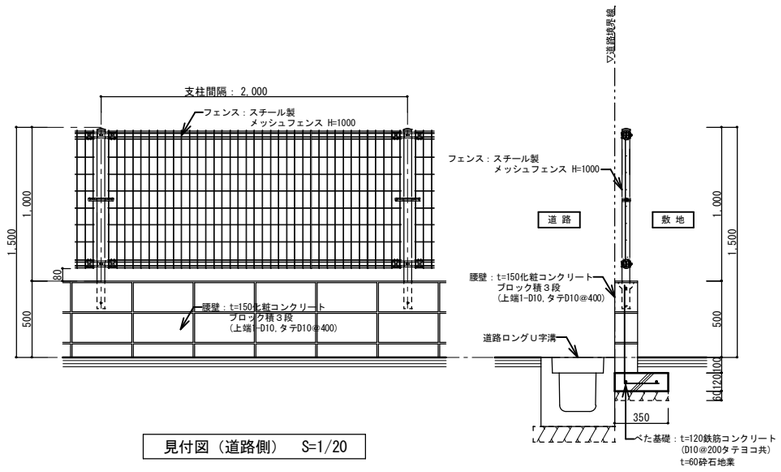
断面詳細図　S=1/20

使用構造材料表
〔鉄　筋〕
異形鉄筋(jis G 3112)　・・・SD295　D10,D13　重ね継ぎ手
〔コンクリート〕　レディーミクストコンクリート(jis A 5308)
コンクリート・・・普通　Fc 21 N/mm2　スランプ18cm
※構造体強度補正を行うこと。
※施工に関しては、JASS5による。

新 設

B 既存　南側 道路境界塀　（既存のまま）　S=1:20

B 既存　南側 道路境界塀　（撤去）　S=1:20



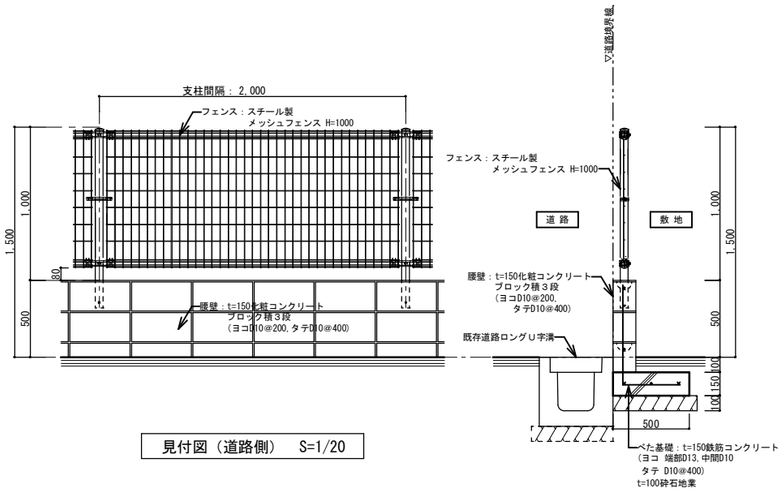
見付図（道路側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

一部 撤去

設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.03	春　日　部　市 福 祉 部　障 が い 者 支 援 課	A1-1:20 A3-1:40	心身障害者通所支援施設増築等工事	門扉・境界塀詳細図（１）	Ｇ－１２

B　新設　南側 道路境界塀　S=1:20



見付図（道路側）　S=1/20

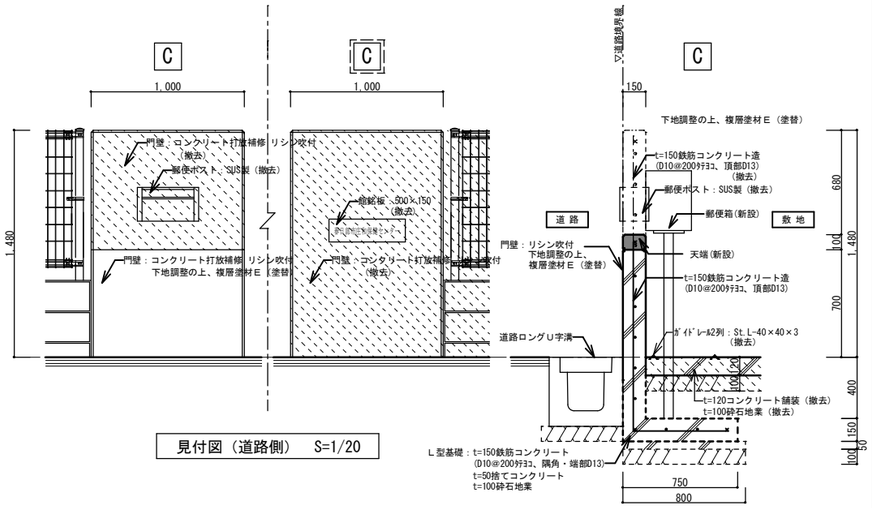
断面詳細図　S=1/20

使用構造材料表
〔鉄　筋〕
異形鉄筋(jis G 3112)　・・・SD295　D10,D13　重ね継ぎ手
〔コンクリート〕　レディーミクストコンクリート(jis A 5308)
コンクリート・・・普通　Fc 21 N/mm2　スランプ18cm
※構造体強度補正を行うこと。
※施工に関しては、JASS5による。

新 設

C　既存　正門 門壁　（一部撤去・塗替）　S=1:20

C　既存　正門 門壁　（撤去）　S=1:20

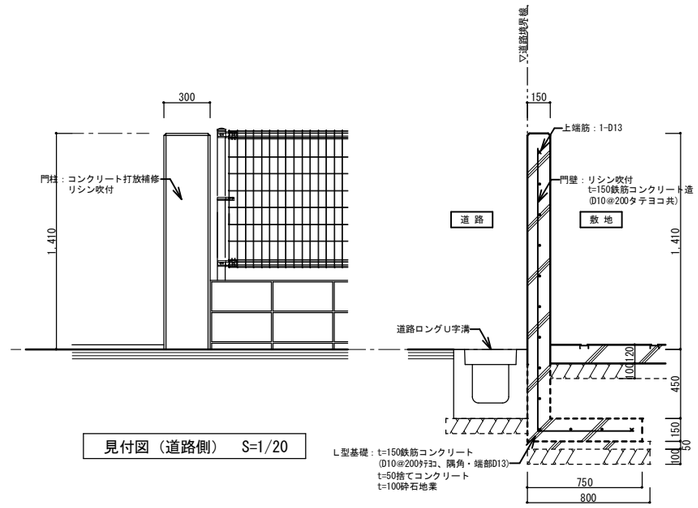


見付図（道路側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

塗替 および 撤去

C'　既存　通用口 門柱　S=1:20



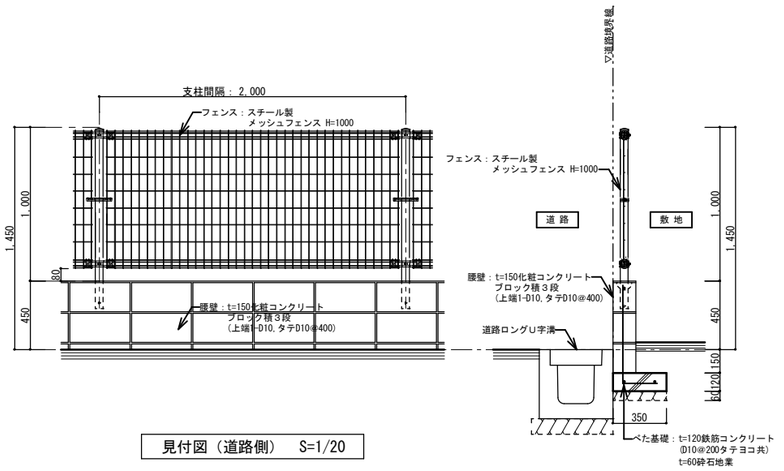
見付図（道路側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

撤 去

D　既存　西側 道路境界塀　（既存のまま）　S=1:20

D　既存　西側 道路境界塀　（撤去）　S=1:20

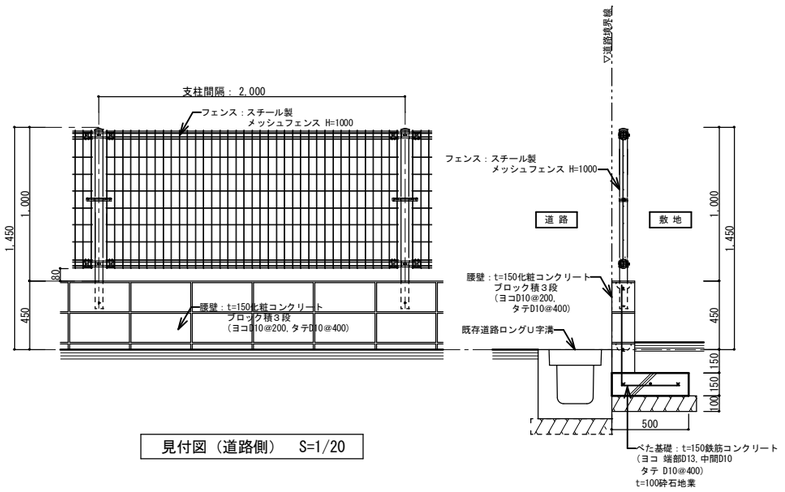


見付図（道路側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

一部 撤去

D　新設　西側 道路境界塀　S=1:20



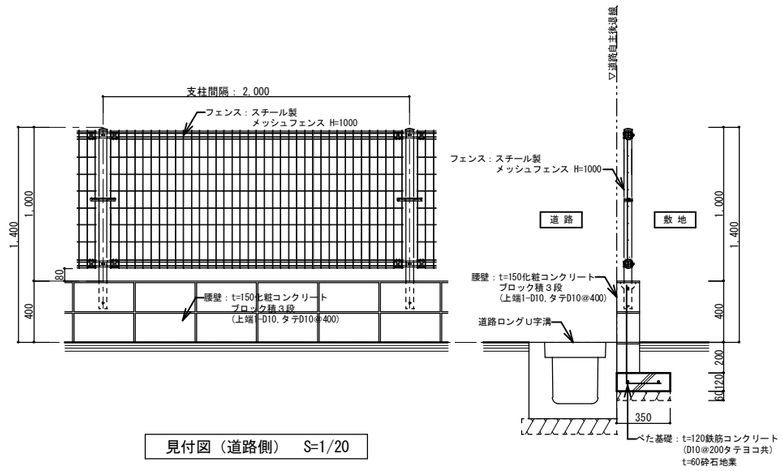
見付図（道路側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

使用構造材料表
〔鉄　筋〕
異形鉄筋(jis G 3112)　・・・SD295　D10,D13　重ね継ぎ手
〔コンクリート〕　レディーミクストコンクリート(jis A 5308)
コンクリート・・・普通　Fc 21 N/mm2　スランプ18cm
※構造体強度補正を行うこと。
※施工に関しては、JASS5による。

新 設

E　既存　北側 道路境界塀　S=1:20



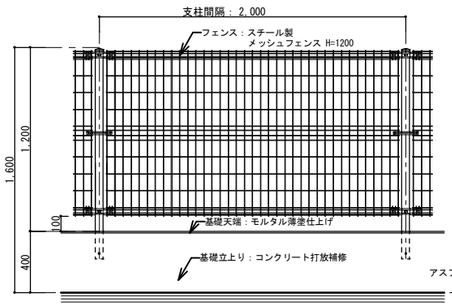
見付図（道路側）　S=1/20

断面詳細図　S=1/20

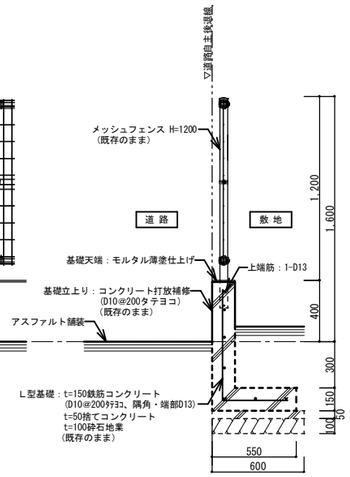
既存のまま

設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.03	春　日　部　市 福 祉 部　障 が い 者 支 援 課	A1-1:20 A3-1:40	心身障害者通所支援施設増築等工事	門扉・境界塀詳細図（２）	G－１３

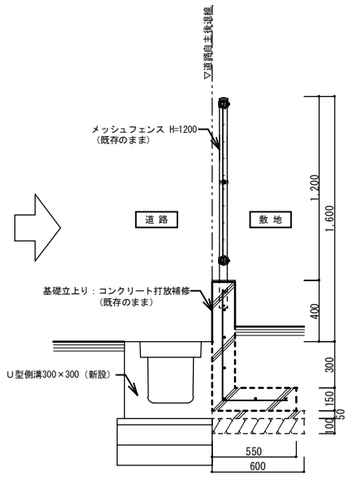
F 既存　北側 道路境界塀　S=1:20



見付図（道路側）　S=1/20



（既存）断面詳細図　S=1/20

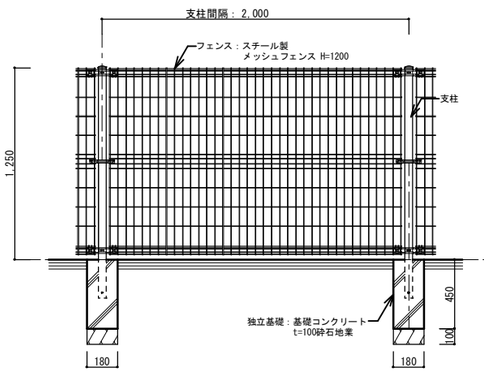


（工事後）断面詳細図　S=1/20

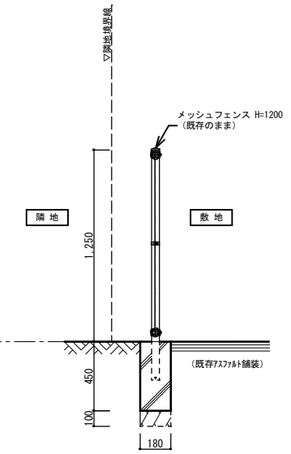
境界塀 既存のまま、U型側溝 新設

G 既存　東側 隣地境界塀　S=1:20

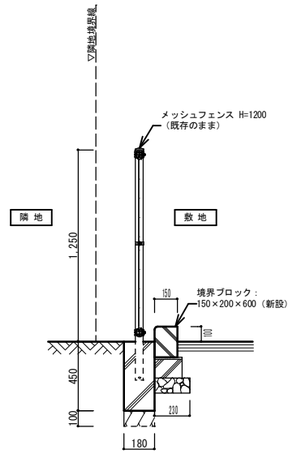
平面図　S=1/20



見付図（ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装側）　S=1/20



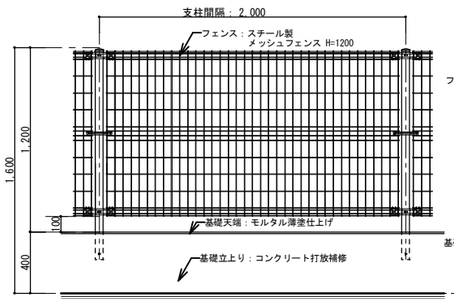
（既存）断面詳細図　S=1/20



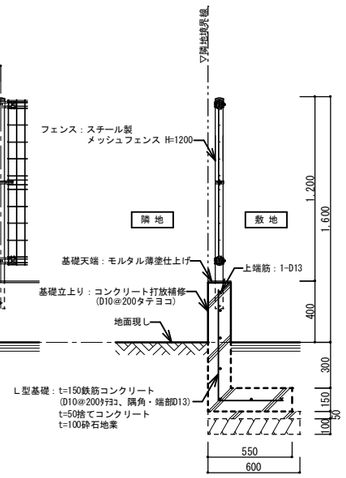
（工事後）断面詳細図　S=1/20

境界塀 既存のまま、境界ブロック 新設

H 既存　東側 隣地境界塀　S=1:20



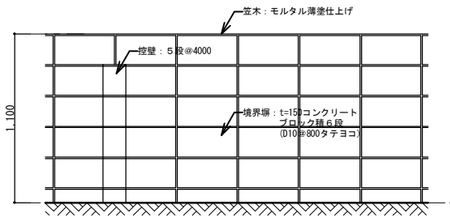
見付図（敷地側）　S=1/20



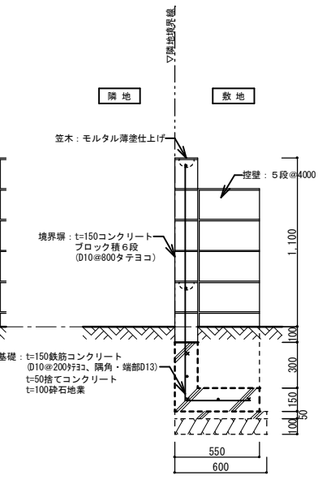
断面詳細図　S=1/20

既存のまま

I 既存　東側 隣地境界塀　S=1:20



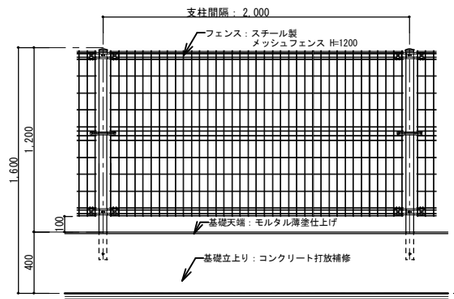
見付図（敷地側）　S=1/20



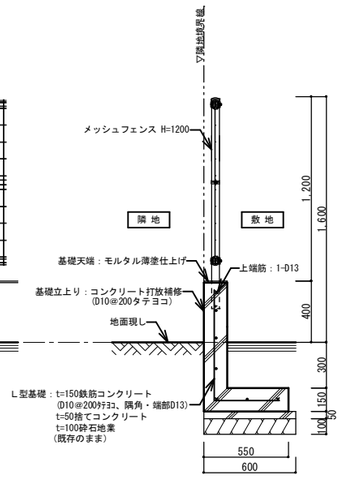
断面詳細図　S=1/20

撤 去

I 新設　東側 隣地境界塀　S=1:20



見付図（敷地側）　S=1/20



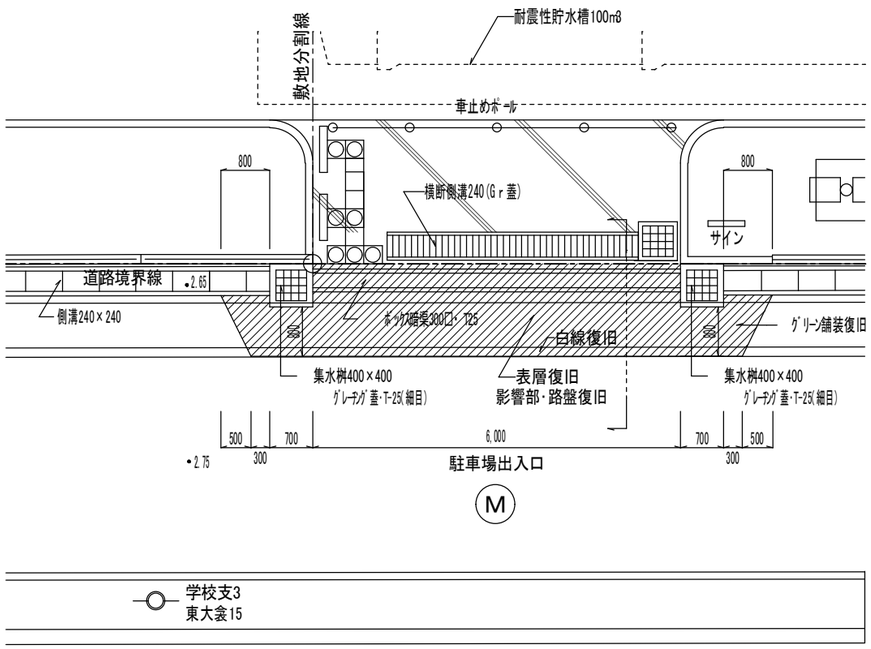
断面詳細図　S=1/20

使用構造材料表
〔鉄　筋〕
異形鉄筋(jis G 3112)　・・・SD295　D10,D13　重ね継ぎ手
〔コンクリート〕　レディーミクストコンクリート(jis A 5308)
コンクリート・・・普通　Fc 21 N/mm2　スランプ18cm
※構造体強度補正を行うこと。
※施工に関しては、JASS5による。

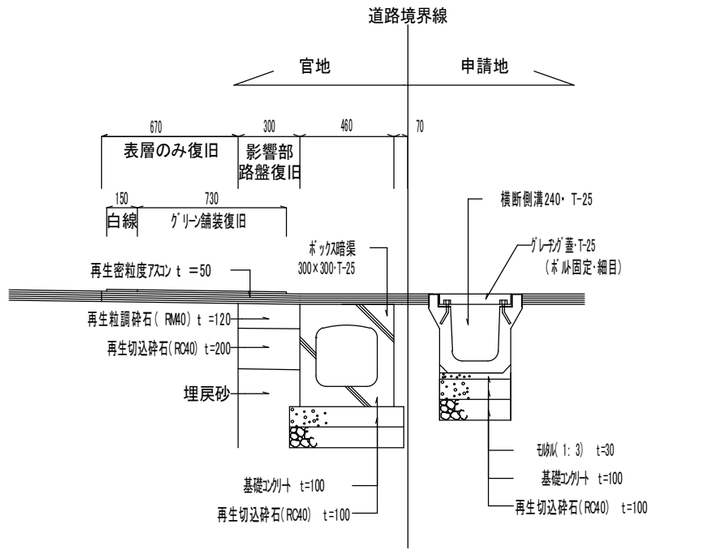
新 設

設計年月日		縮 尺	工 事 名 称	図 面 名 称	図面番号
2026.03	春 日 部 市 福 祉 部　障 が い 者 支 援 課	A1-1:20 A3-1:40	心身障害者通所支援施設増築等工事	門扉・境界塀詳細図（３）	G－１４

改修後

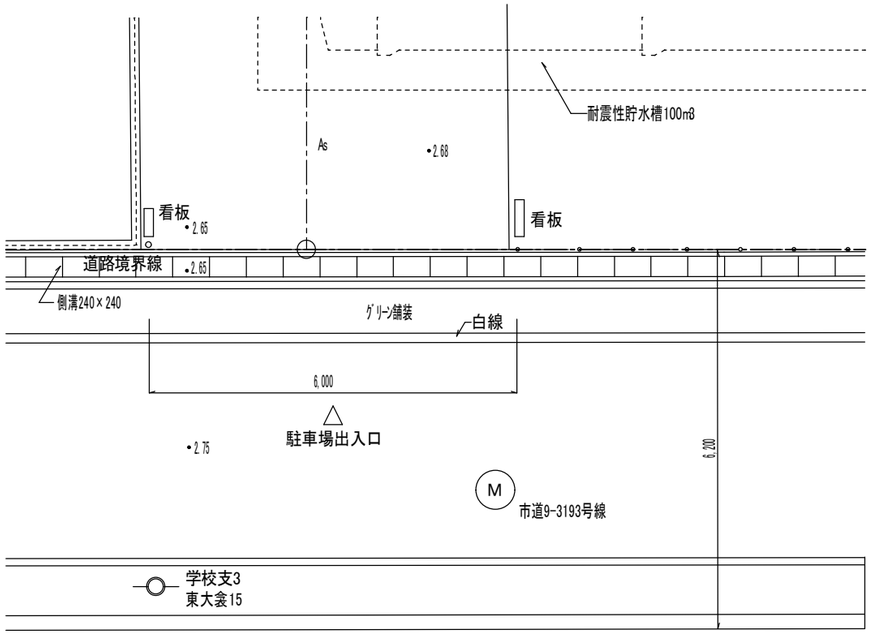


計画平面図　S=1/50



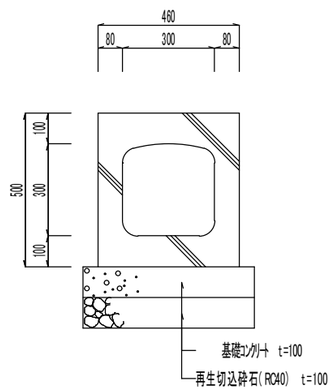
計画断面図　S=1/15

改修前

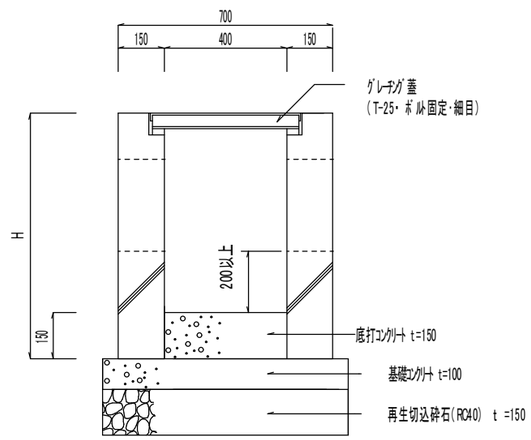


現況平面図　S=1/50

ボックス暗渠300×300・T-25 S=1/10



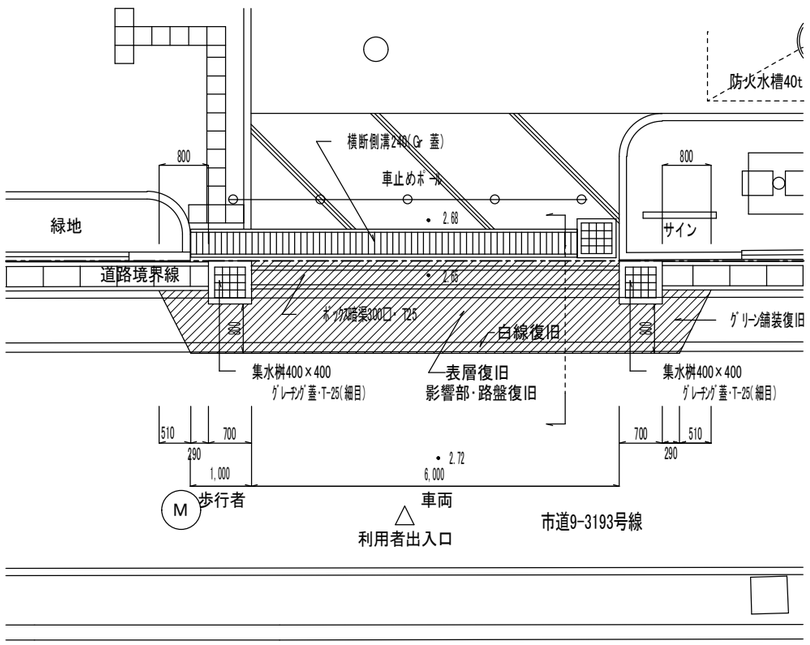
集水桝400×400 S=1/10



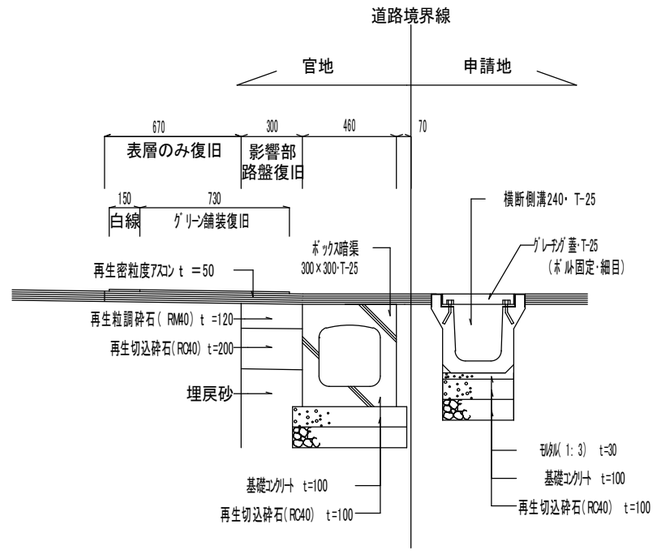
道路施設構造図　S=1/10

	設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
	2026.03	春　日　部　市 福 祉 部　障 が い 者 支 援 課	A1-1:50,他 A3-1:100,他	心身障害者通所支援施設増築等工事	南側道路駐車場出入口部 平面図・断面図・構造図(1)	G－１５

改修後

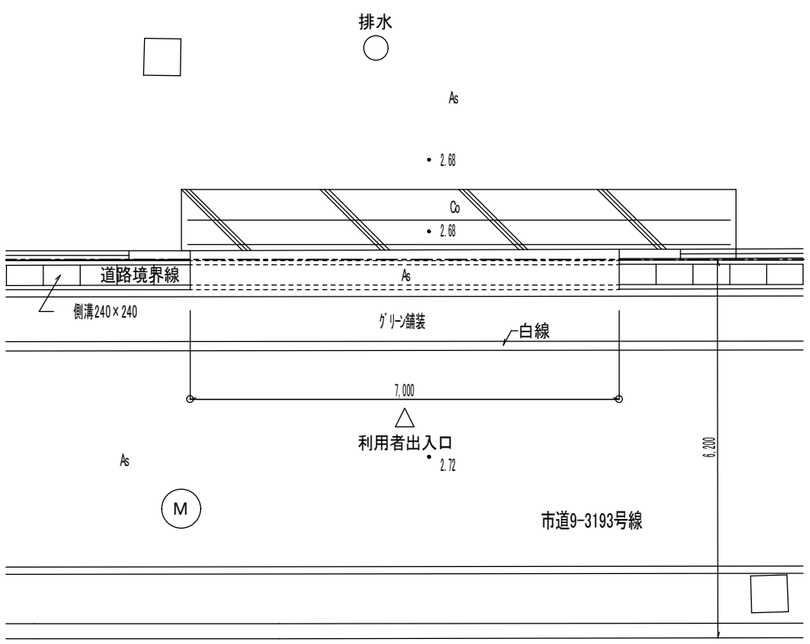


計画平面図 S=1/50



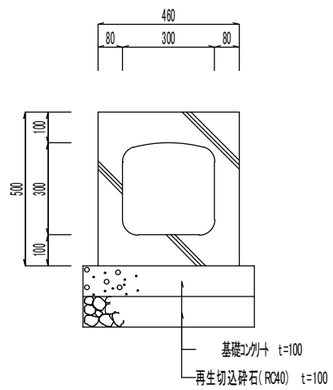
計画断面図 S=1/15

改修前

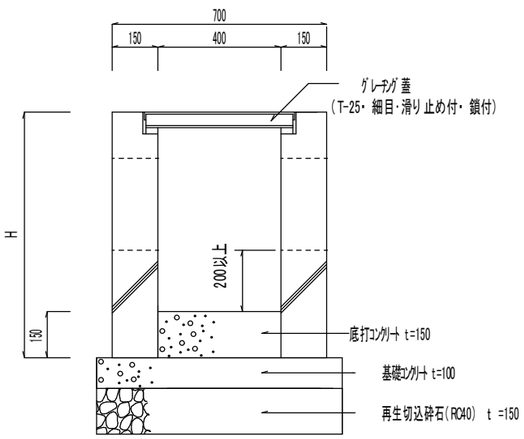


現況平面図 S=1/50

ボックス暗渠300×300・T-25 S=1/10

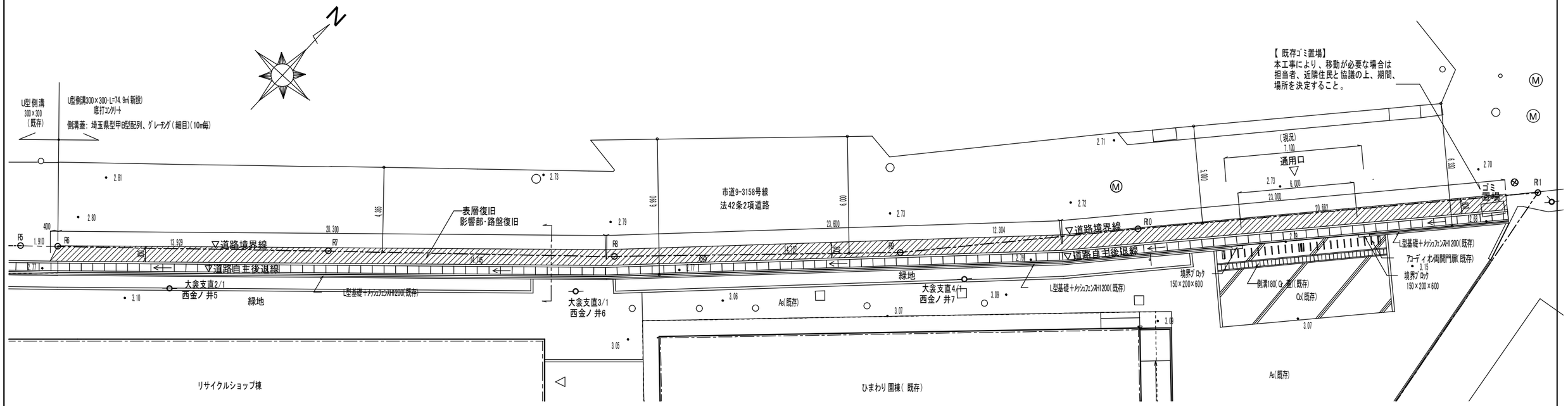


集水桝400×400 S=1/10



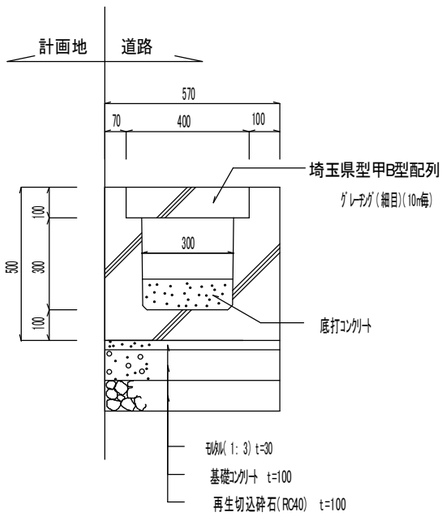
道路施設構造図 S=1/10

設計年月日		縮 尺	工 事 名 称	図 面 名 称	図面番号
2026.03	春 日 部 市 福 祉 部 障 が い 者 支 援 課	A1-1:50,他 A3-1:100,他	心身障害者通所支援施設増築等工事	南側道路利用者出入口部 平面図・断面図・構造図(2)	G－１６

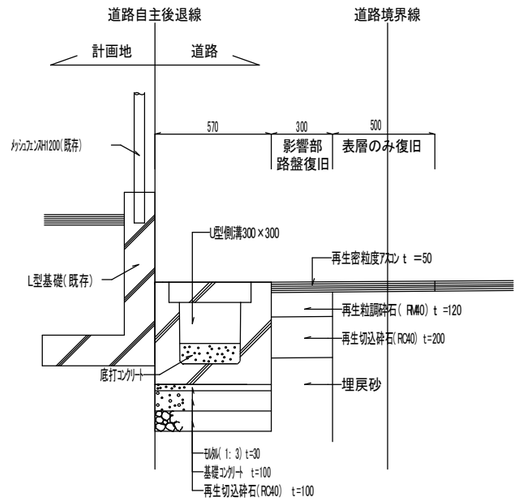


計画平面図 S=1/50

U型側溝300×300 S=1/10



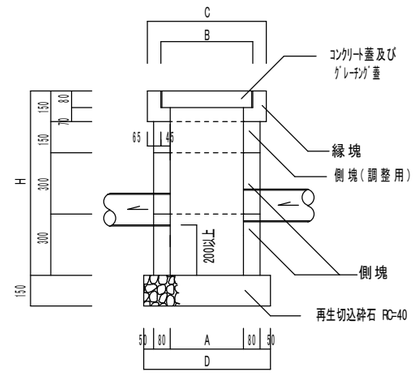
道路施設構造図



計画断面図 S=1/15

	設計年月日	春 日 部 市 福 祉 部 障 が い 者 支 援 課	縮 尺	工 事 名 称	図 面 名 称	図面番号
	2026.03		A1-1:50,他 A3-1:100,他	心身障害者通所支援施設増築等工事	北側道路側溝 平面図・断面図・構造図	G－17

雨水桝360□ S=1/15



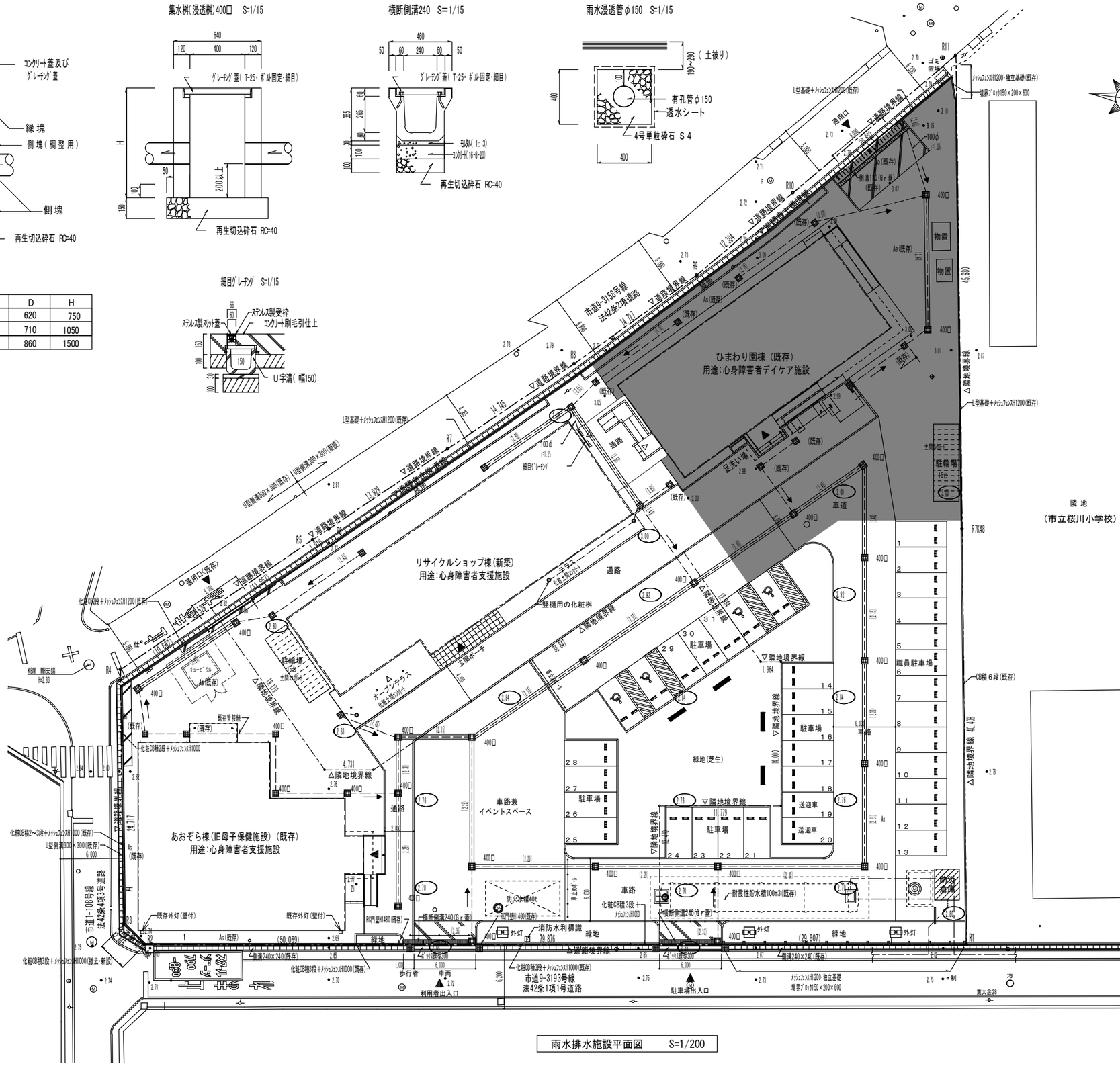
集水桝(浸透桝)400□ S=1/15

横断側溝240 S=1/15

雨水浸透管φ150 S=1/15

呼び名	A	B	C	D	H
360□	360	450	580	620	750
450□	450	560	670	710	1050
600□	600	700	820	860	1500

細目グレーチング S=1/15



雨水排水施設平面図 S=1/200

※雨水宅内処理

■ 凡例

	雨水桝(グレーチング蓋・細目)
	雨水桝(コンクリート蓋)
400□	集水桝(浸透桝)(グレーチング蓋・細目)
	雨水管 (VU150φ・100φ)
	雨水浸透管 (VU150φ・i=0.0%)
	横断側溝240
(0.00)	管底レベルを示す
	工事対象外エリア

※特記無き雨水管は、150φ・勾配1.5%とする
※特記無き雨水桝は、360□とする

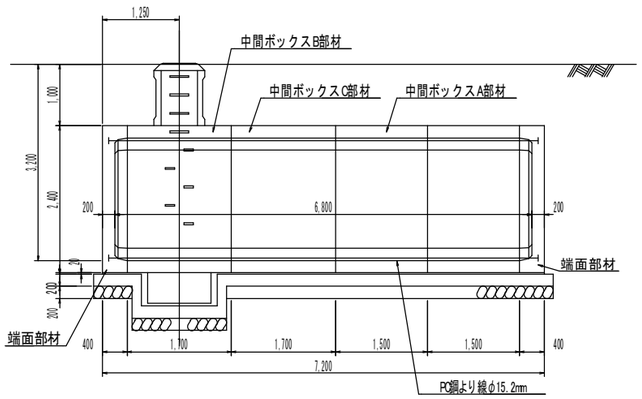
	敷地境界線
(10.00)	計画レベルを示す(単位:m)
・10.00	現況レベルを示す

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.03	春日部市 福祉部 障がい者支援課	A1-1:200 A3-1:400	心身障害者通所支援施設増築等工事	雨水排水施設 平面図・構造図	G－18

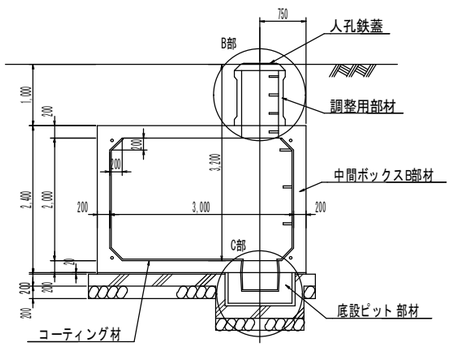
防火水槽　T40-Ⅲ-A-0.0/1.0

組 立 図
S=1：50

側 面 図

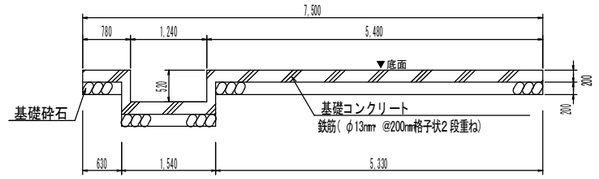


A-A 断面図

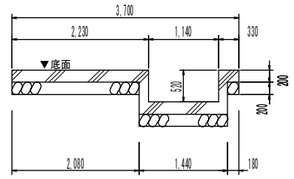


基 礎 図
S=1：50

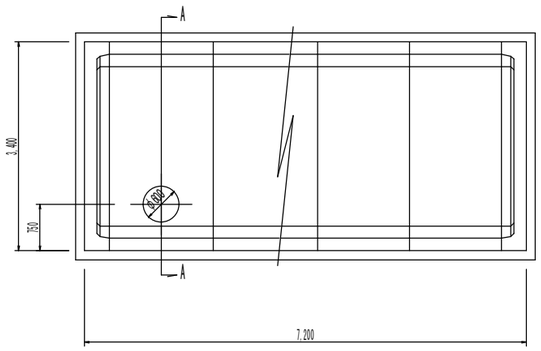
D-D 断面図



E-E 断面図



平 面 図



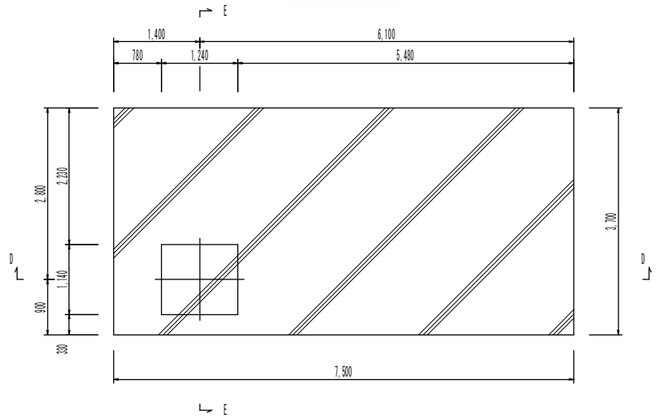
備考

・連結金具ﾓﾙﾀﾙ充填は、ｸﾞﾗｳﾄの注入完了後速やかに無収縮ﾓﾙﾀﾙで行う。
・水張り検査を実施し、結果を報告すること。
・標識は別紙参照
・周囲土留めは鋼矢板自立工法で計画。
・掘削残土は場外処分で計画。

仕様
耐震性貯水槽
貯水量　：40m3
型式記号：T40-III-A-0.0/1.0
総重量25tf(250kN)の自動車荷重が載荷される場所
認定番号：防-97243-1号

基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ Fc：21　ｽﾗﾝﾌﾟ18　特記に基づき温度補正すること

基礎平面図



設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.03	春　日　部　市 福 祉 部　　障 が い 者 支 援 課	A1-1:50 A3-1:100	心身障害者通所支援施設増築等工事	防火水槽 構造図	G－１９

■開発事業等に係る緑化計画書(A敷地+B敷地)

●必要緑地面積計算

敷地面積:(4503.76㎡−(4503.76㎡×70%)) ×30% ＝ 405.34㎡
※緑地区画面積：410.05㎡
※緑 地 面 積 ：414.93㎡

●接道緑地率

接道長さ：208.264m　　接道緑地長さ：106.15m　　接道緑地率：50.96%

春日部市緑地の設置基準

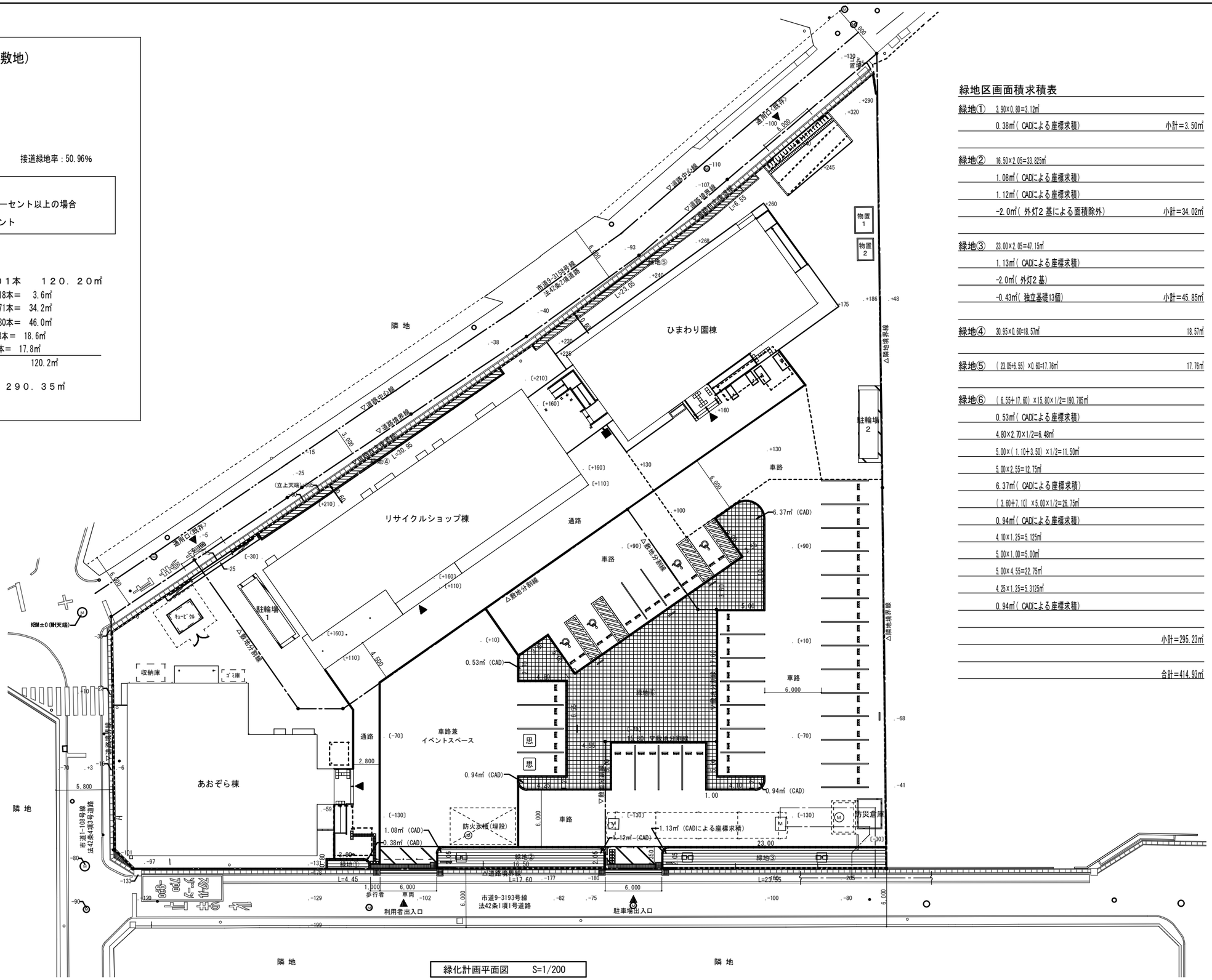
敷地面積が1,000平方メートル以上で接道緑地率50パーセント以上の場合
（敷地面積−（敷地面積×建ぺい率））×30パーセント

●植栽樹木

低木　樹種名:ドウダンツツジ　：　６０１本　　１２０．２０㎡

緑地①	１８本	0.2㎡× 18本＝	3.6㎡
緑地②	１７１本	0.2㎡×171本＝	34.2㎡
緑地③	２３０本	0.2㎡×230本＝	46.0㎡
緑地④	９３本	0.2㎡× 93本＝	18.6㎡
緑地⑤	８９本	0.2㎡× 89本＝	17.8㎡
合　計	６０１本		120.2㎡

地被植物　樹種名:野芝　：　２９０．３５㎡
緑地⑥　２９０．３５㎡



緑化計画平面図　S=1/200

緑地区画面積求積表

緑地①	3.90×0.80=3.12㎡	
	0.38㎡（ CADによる座標求積）	小計＝3.50㎡
緑地②	16.50×2.05=33.825㎡	
	1.08㎡（ CADによる座標求積）	
	1.12㎡（ CADによる座標求積）	
	−2.0㎡（ 外灯2 基による面積除外）	小計＝34.02㎡
緑地③	23.00×2.05=47.15㎡	
	1.13㎡（ CADによる座標求積）	
	−2.0㎡（ 外灯2 基）	
	−0.43㎡（ 独立基礎13個）	小計＝45.85㎡
緑地④	30.95×0.60=18.57㎡	18.57㎡
緑地⑤	（ 23.05+6.55）×0.60=17.76㎡	17.76㎡
緑地⑥	（ 6.55+17.60）×15.80×1/2=190.785㎡	
	0.53㎡（ CADによる座標求積）	
	4.80×2.70×1/2=6.48㎡	
	5.00×（ 1.10+3.50）×1/2=11.50㎡	
	5.00×2.55=12.75㎡	
	6.37㎡（ CADによる座標求積）	
	（ 3.60+7.10）×5.00×1/2=26.75㎡	
	0.94㎡（ CADによる座標求積）	
	4.10×1.25=5.125㎡	
	5.00×1.00=5.00㎡	
	5.00×4.55=22.75㎡	
	4.25×1.25=5.3125㎡	
	0.94㎡（ CADによる座標求積）	
		小計＝295.23㎡
		合計＝414.93㎡

設計年月日		縮　尺	工 事 名 称	図 面 名 称	図面番号
2026.03	春　日　部　市 福 祉 部　障 が い 者 支 援 課	A1-1:200 A3-1:400	心身障害者通所支援施設増築等工事	緑化計画平面図	G－２０

工事名	建築工事特記仕様書(新築)による。

特記仕様書（構造関係）

Ⅰ　建物概要

1．主要用途　社会福祉施設(心身障害者通所施設)

2．工事場所　建築工事特記仕様書(新築)による。

3．棟名称及び構造・階数等

ﾘｻｲｸﾙｼｮｯﾌﾟ　棟　鉄骨 造　1階建て（地下　ー階・ＰＨ　ー階）

建築面積　459.54 ㎡

延べ面積　342.63 ㎡

建物高さ 6.420 m　軒高さ 5.990 m

工事種別 ⊙新築　⊙増築　・改築　・移転

増築計画　・有り　⊙無し

構造種別　地上　鉄骨 造　地下　直接基礎 造（柱状地盤改良）

架構型式　Ｘ方向　ラーメン　構造

Ｙ方向　ラーメン　構造

耐震構造方式 ⊙耐震構造　・免震構造　・制振構造

耐震安全性の分類 ・Ⅰ類(I=1.50) ⊙Ⅱ類(I=1.25) ・Ⅲ類(I=1.00)

4．構造計算条件

a　耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期		（ 0.145 ）秒
	地盤種別		第（ 2 ）種地盤
	地域係数		Z= 1.00
計算ルート	Ｘ方向		※ 許容応力度計算 （ルート 1-2 ）
			・その他
	Ｙ方向		※ 許容応力度計算 （ルート 1-2 ）
			・その他
設計層間変形角	Ｘ方向	一次設計	0.375(重要度係数を乗じた値)
		二次設計	
	Ｙ方向	一次設計	0.375(重要度係数を乗じた値)
		二次設計	

b　耐風設計条件

基準風速 （Ｖ）	（ 34 ） m／秒
地表面粗度区分	・Ⅰ ・Ⅱ ⊙Ⅲ ・Ⅳ

c　耐積雪設計条件

建設地の標高	（ ） m
多雪区域の指定	・有り ⊙無し
設計垂直積雪量	（ 30 ） cm

5．地盤調査資料

調査内容	・サウンディング （※ 標準貫入試験 ・ ）
	・土質試験 ・孔内水平載荷試験 ・平板載荷試験
	⊙ スクリューウェイト貫入試験
	・
調査位置 ボーリング柱状図	構造図 （ S-09 図） による
液状化対策の検討	・有り ⊙無し

Ⅱ　建築工事仕様

（1）質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「春日部市建築工事特別共通仕様書」及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下、「標準仕様書」という。）による。
法令・基準・仕様書等は原則として施工時において最新のものを適用する。
なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
（2）標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
（3）特記仕様書の表記
1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と ◎印の付いた場合は、共に適用する。◎印と ※の場合は、⊙のみを適用する。
3）特記事項に記載の［ ． ．］内の表示番号は、春日部市建築工事特別共通仕様書の当該項目、当該図表を示す。
4）特記事項に記載の（ ． ．）内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
5）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名を示す。
6）Ⓖは「特定調達物品等」を表す。
7）注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項目	特記事項
④ 地業工事	① 支持地盤等	・杭基礎 (4.2.1)(4.3.4、5)(4.5.5、6) 支持地盤の位置及び種類(基礎ぐいの先端の位置含む) ・図示による（ ） ・ ⊙直接基礎 支持地盤の位置及び種類(基礎底部の位置含む) ⊙図示による（ ） ・ 試験掘り(根切り底の状態の確認等) (3.2.1) ⊙行う（位置等 ⊙図示による（ ） ・ ） 長期設計支持力度 ⊙（ 50 ）kN/㎡ ・地盤の載荷試験 （ ）箇所 (4.2.4) 載荷試験の方法 ・地盤工学基準JGS 1521による ・ 試験の位置、載荷荷重 ※図示による（ ） ・ ・液状化対策 工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等 ※図示
	2 既製コンクリート杭地業	
	3 鋼杭地業	
	4 場所打ちコンクリート杭地業	
	⑤ 砂利地業	材料 ⊙再生クラッシャラン Ⓖ ・切込砂利又は切込砕石 ・ (4.6.2、3) 施工範囲 ⊙基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・図示による(　　) ・ 厚さ ※60mm ・
	⑥ 砂地業	材料 ・シルト (4.6.2、3) ⊙有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂 ・ 施工範囲 ・図示による（ ） ・ 厚さ ※60mm ・
	⑦ 捨コンクリート地業	材料 ※普通コンクリート ・ (4.6.4)(6.14.1～3) 設計基準強度 ※18N/mm² ・ スランプ ※15cm又は18cm ・ 施工範囲 ・基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下 ・図示による(　　) ・ 厚さ ※50mm（※平たん仕上げ ・ ） ・
	⑧ 床下防湿層	材料 (4.6.2、5) ⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ・ 範囲 ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く） ・
	⑨ 地盤改良工法	種類及び施工方法等 ⊙図示による（ ） ・ 六価クロム溶出試験 ・行う
⑤ 鉄筋工事	① 鉄筋	鉄筋の種類 (5.2.1) 種類の記号 / 呼び径（mm） / 備考 ⊙SD295 / ※ D10、D13、D16 / 床板、STP、地中梁補強筋 ⊙SD345 / ※ D19、D22 / 柱型・基礎梁主筋 ・ ・
	2 溶接金網	形状等 (5.2.2) 種類 / 種類の記号 / 鉄線の形状、網目寸法、鉄線の経（mm） / 使用部位 ・溶接金網 ・鉄筋格子
	③ 鉄筋の継手	鉄筋の継手方法等 (5.3.4) 部位 / 継手方法 / 呼び径（mm） 柱、梁の主筋 / ・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 ・重ね継手 / ※ D19以上 耐力壁の鉄筋 / ・重ね継手 ・ 基礎、耐圧スラブ、土圧壁 / ⊙重ね継手 ⊙ガス圧接 その他の鉄筋(　　) / ・重ね継手 ・ 継手位置 ⊙図示による（構造関係共通図(配筋標準図)5.1、6.1、7.1、7.3、8.1） 基礎梁主筋の継手位置 ・図5.2 ・図5.3 ・図5.4 ・図示による（ ） ・ 柱及び梁の重ね継手の長さ ⊙図示による（ ） ・ 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ※図示による（構造関係共通図(配筋標準図)3(1)(ｳ)） ・図示による（ ） ・ 柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一箇所に設ける部分の位置及び施工方法等 ⊙図示による（ ） ・
	④ 鉄筋の定着	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ⊙図示による（ S-04 ） 機械式定着工法 運用場所 ・図示による（ ） ・ 種類 ・摩擦圧接接合 ・螺合グラウト固定 ・鈑合グラウト固定 ・ 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図（配筋標準図）による。これによらない箇所は図示による。
	⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）	最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う） (5.3.5) ※図示による（構造関係共通図(配筋標準図)4(1)表4.1） ・図示による（ ） ・ 柱及び梁の主筋にD29以上の使用 ・あり 適用箇所(　　) 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等) ・あり 適用箇所(　　) ・最小かぶり厚さに加える厚さ （ ）mm ・
	⑥ 各部配筋	※図示による (5.3.7)
	⑦ 圧接完了後の圧接部の試験	圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10) 外観試験 ※行う（全ての圧接部） 抜取試験 ※超音波探傷試験（試験方法 標準仕様書5.4.10(ｲ)(a)による） ⊙引張試験 試験方法 ※標準仕様書5.4.10(ｲ)(b)による ・
	8 機械式継手	適用箇所 (5.5.3、5) ・図示による（ ） ・ H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 ・ 種類 ・ねじ式鉄筋継手 充填方式 ・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・ ・端部ねじ加工継手 ・モルタル充填式継手 ・ 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法 鉄筋相互のあき ※評定等の評価内容による 品質の確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 試験対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による ・ 試験方法 ・評定等の評価内容による ・ ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・１組の作業班が１日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする ・ 試験の箇所数 ・１ロットに対して（ ）箇所 ・全数 試験項目 ※挿入長さ 試験方法 ※JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準）による 不合格となった場合の措置 ・
	9 溶接継手	適用箇所 (5.5.3、5) ・図示による（ ） ・ H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 ・ 溶接継手の工法 ・図示による（ ） ・ 鉄筋相互のあき ・標準仕様書5.3.5(4)による ・評定等の評価内容による ・図示による（ ） 施工完了後の溶接部の試験 ・外観試験 試験対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による ・ 試験方法 ・評定等の評価内容による ・ ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・１組の作業班が１日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする ・ 試験の箇所数 ・１ロットに対して（ ）箇所 ・全数 試験項目 ※内部欠陥の検出 試験方法 ※JIS Z 3063（鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準）による 不合格となった場合の措置 ・

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部　障がい者支援課	A1-NonScale A3-NonScale	心身障害者通所支援施設増築等工事	構造特記仕様書（1）	S－０１ａ

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの種類等

類別 (6.2.1)
※Ⅰ類（JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308 に適合したコンクリート）

普通コンクリート (6.2.1～6.2.4)

設計基準強度 (N/mm²)	気乾単位容積質量 (t/m³)	スランプ	適用箇所
○24	2.3程度	・15又は18 ○18	基礎・基礎梁
○21	2.3程度	○18	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ
○18	2.3程度	○18	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ
・		・	
・		・	

構造体強度補正値(S) (6.3.2)
※標準仕様書 表6.3.2による
補正値Ｓ＝３（３月３日～７月10日、 ９月11日～11月18日）
Ｓ＝６（７月11日～９月10日、11月19日～３月 2日）

② セメント

種類 (6.3.1)
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又は
フライアッシュセメントＡ種
適用箇所（※下記以外全て ・ ）
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352Ｊ/ｇ以下、かつ28日目で 402Ｊ/ｇ以下のものとする。
・高炉セメントＢ種 G
適用箇所（・1FLより下部（立上り部含む） ・ ）
・フライアッシュセメントＢ種 G
適用箇所(・ ）
・

③ 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
※Ａ ・Ｂ（コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m³ 以下）

④ 混和材料

○混和剤 (6.3.1)
混和剤の種類
※標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・
○混和材
混和材の種類
※標準仕様書6.3.1(4)(b)による ・

⑤ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地

打継ぎの位置 (6.6.4)
梁及びスラブ
※スパンの中央又は端から1/4の付近
・図示による（ ） ・
柱及び壁
※スラブ、壁梁又は基礎の上端
・図示による（ ） ・

目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
○標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ)による ・
※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する
・図示による（ ） ・

ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 (6.8.1)(11.1.3)
○図示による（ ） ・

⑥ 湿潤養生

湿潤養生の期間 (6.7.2)
・セメントの種類が普通エコセメントの場合 （ ）日
○JASS5 標準

⑦ 構造体コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)

種別	適用箇所
・ Ａ種	※図示による（ ）
・ Ｂ種	※図示による（ ）
・ Ｃ種	※図示による（ ）

コンクリートの仕上りの平たんさ

種別	適用箇所
・ ａ種	※図示による（ ）
・ ｂ種	※図示による（ ）
・ ｃ種	※図示による（ ）

⑧ 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

打増し厚さ (6.8.1)
・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
・20mm ・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm ・20mm ・
・外装タイル後張り面の打増し処理
・20mm ・
打増し範囲
・図示による(　　) ・

⑨ 型枠

せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
○合板（※12mm ・ ）G
コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。
・断熱材を兼用した型枠の使用
適用箇所 ・図示による（ ） ・
・ＭＣＲ工法用シートの使用
適用箇所 ・図示による（ ） ・
打増し厚さ ・20mm ・
打増し範囲 ・図示による（ ） ・
スリーブの材種･規格等
・図示による（ ） ・

存置期間及び取外し (6.8.4)
※標準仕様書6.8.4による
・普通エコセメントの場合（※図示による（ ） ・ ）

10 軽量コンクリート

適用箇所 (6.10.1、2)
・図示による（ ） ・
種類
・1種 ・2種
気乾単位容積質量
・標準仕様書 表6.10.1による ・
スランプ
※21cm ・

⑪ 寒中コンクリート

適用期間（ 月 日～ 月 日） (6.11.1、2)
構造体強度補正値(S)を積算温度を基に定める場合
・図示による（ ）、Ｓ＝（ ）・
(6.12.2)

⑫ 暑中コンクリート

適用期間（ 月 日～ 月 日）
構造体強度補正値(S)
※6N/mm² ・図示による（ ）、Ｓ＝（ ）・

13 マスコンクリート

適用箇所 (6.13.1、2)
・図示による（ ） ・
セメントの種類
・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・高炉セメントＢ種 ・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄＢ種 ・シリカセメント
混和材料の適用
・あり（・標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による ・標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による
・ ・ ）
スランプ
※15cm ・
構造体強度補正値(S)
※標準仕様書表6.13.1による ・

14 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1)
※普通コンクリート ・
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又は
フライアッシュセメントＡ種
・高炉セメントＢ種 G
・フライアッシュセメントＢ種 G
設計基準強度 ※18（N/mm²） ・
スランプ ※15cm又は18cm ・
適用箇所
※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・図示による（ ）

⑮ コンクリートの単位水量測定

実施要領
(1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。
2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³ 以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
3)設計値±20kg/m³ を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書面(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、ｴﾌﾞﾘｰ9法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

⑦ 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場
評価の区分
※（ Ｒ ）グレード ・指定しない
○監督員の承諾する工場（標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る）

② 施工管理技術者

配置する (7.1.3、4)
種類等

③ 鋼材

(7.2.1)

BCR295 ： 柱
SN400B ： 大梁
SN400C ： ダイアフラム
SS400 ： 小梁、片持梁、間柱
STK400 ： P1
STKR400： P4
SSC400 ： 母屋、胴縁

④ 高力ボルト

ボルトの種類 (7.2.2)
○トルシア形高力ボルト 2種(S10T) ・JIS形高力ボルト
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
・

ボルトのねじの呼び ○図示による（ ） ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
○図示による（構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔）
・

摩擦面の処理方法等 (7.4.2)(7.12.5)
溶融亜鉛めっき以外
※標準仕様書7.4.2(1)による ・
溶融亜鉛めっき面
・ブラスト処理（表面粗度50μm Rz以上）
・ブラスト処理以外の特別な処理方法
・図示による（ ） ・
すべり試験
・行う（※すべり係数試験 ・すべり耐力試験）
試験の方法等 ・図示による（ ） ・

⑤ 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)(7.5.2)
○標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による
ボルトの規格は JIS B 1180 とする。
（ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。）
・
ボルトのねじの呼び ○図示による（ ） ・
座金 ※ JIS B 1256 による ・
戻り止め ※二重ナット ・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
○図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔）
・

⑥ アンカーボルト

・構造用アンカーボルト（JIS B 1220） (7.2.4)(7.10.3)
種類 ・ABR400 ・ABR490 ・
○建方用アンカーボルト（JIS G 3101）
種類 ○SS400 （ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め）M20 L=500
アンカーボルトおよびナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書 表7.2.3による ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・図示による（構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔）
・

⑦ 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による
・標準仕様書7.2.5(1)、(2)以外の溶接材料
材料及び使用箇所 ・図示による（ ） ・

⑧ ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル
※羽子板ボルト ・
建築用ターンバックル胴
※割枠式 ・
ねじの呼び
・図示による（ ） ・

9 床構造用のデッキプレート

10 スタッド

⑪ 柱底均しモルタル

無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 (7.2.9)
※標準仕様書7.2.9(2)(ｱ)から(ｴ)による ・

⑫ 製作精度

鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6.鉄骨精度検査基準に加えて、次による。 (7.3.3)
通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
※H12建告第1464号第二号イ(2)による ・
アンダーカットの寸法
※H12建告第1464号第二号イ(3)による ・
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・

13 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)
・図示による（ ） ・

⑭ 溶接接合

開先の形状 (7.6.4)
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-2 溶接継手の種類別開先標準）
・

鋼製エンドタブの切除する部分 (7.6.7)
切断する場所 ・図示による（ ） ・
切断範囲
・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から 5mm 以上残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
・
切断面の仕上げ
・標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による ・

完全溶込み溶接
板厚が異なる場合の突合せ継手
低応力高サイクル疲労を受ける部位
・図示による（ ） ・

スカラップの形状
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-4(4)改良型スカラップ）
・

⑮ 入熱、パス間温度の管理

適用箇所
・図示による（ ）

⑯ 溶接部の試験

H12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 (7.6.12)
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
※抜き取り検査②
・抜き取り検査①
・

JASS 6 付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する確認方法等
・JASS 6 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
・

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合
AOQL(%) ※4.0 ・2.5

節	・全て	・	・	・
検査水準	※第６水準	・	・	・

・全数 ・
・工事現場溶接の場合
※全数 ・

⑰ 錆止め塗装

塗装の範囲 (7.8.2)
耐火被覆材の接着する面
・図示による（ ） ・
耐火被覆材の接着する面以外
※標準仕様書7.8.2(1)(ｱ)～(ｵ)以外の範囲
・図示による（ ） ・

塗料の種別 (7.8.4)
○鉄鋼面の錆止め塗料
屋外
○標準仕様書 表18.3.1 Ａ種 ・
屋内
○標準仕様書 表18.3.1（ ）種 ・
・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
・標準仕様書 表18.3.2（ ）種 ・
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る）
・標準仕様書 表18.3.1 Ａ種 ・
・耐火被覆材の接着する面へ塗装する場合の錆止め塗料
・標準仕様書 表18.3.1（ ）種 ・標準仕様書 表18.3.2（ ）種
・

18 耐火被覆

⑲ 建方精度

※JASS6 付則6［鉄骨精度検査基準］付表5［工事現場］による (7.10.2)

⑳ アンカーボルト等の設置

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
・図示による（ ） ・

構造用アンカーフレームの形状及び寸法
・図示による（ ） ・

建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの保持及び埋込み工法(標準仕様書 表7.10.1)
種別 ・Ａ種 ・Ｂ種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別(標準仕様書 表7.10.2)
厚さ ・
種別 ※Ａ種 ・Ｂ種

㉑ 溶融亜鉛めっき（基礎、主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る。）

種別等 (7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材料	適用部位
・Ａ種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
・Ｂ種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
・Ｃ種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

外観検査 ※行う ・行わない

22 梁貫通孔の補強

補強形式
・図示による（構造関係共通図(鉄骨標準図)1-6）
・
適用箇所
※図示による（ ） ・

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部 障がい者支援課	A1-NonScale A3-NonScale	心身障害者通所支援施設増築等工事	構造特記仕様書（２）	Ｓ－０１ｂ

鉄骨構造標準図

※本標準図に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」（令和７年版）および日本建築学会「建築工事標準仕様書（JASS6 鉄骨工事）」による。

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

a) 構造設計標準仕様書による。

b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが 40 mm 以下のものとする。

c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する。

(2) 工作一般

a) 鉄骨製作・施工に先立って、「鉄骨製作要領書」「工作図」および「施工要領書」を提出し、工事監理者の承認を得る。

b) 切断は、機械切断法、ガス切断法、プラズマ切断法などにより、鋼材の形状、寸法に合わせて最適な方法で行う。
ガス切断する場合は、原則として自動ガス切断機を用いる。

c) 高力ボルト用孔の孔あけ加工は、ドリルあけとする。
ボルト、アンカーボルト、鉄筋貫通孔は、ドリルあけを原則とする。

高力ボルト・ボルトおよびアンカーボルトの孔径（単位：mm）

種　類	孔径 d	公称軸径 d1
高力ボルト	d1＋2.0	d1＜27
	d1＋3.0	d1≧27
ボルト	d1＋0.5	—
アンカーボルト	d1＋5.0	—

d) 曲げ加工は、常温加工または加熱加工とする。
熱加工の場合は、赤熱状態（850℃～900℃）とする。
常温加工での内側曲げ半径は、特記による。
特記がない場合は、下表による。

常温曲げ加工による内側曲げ半径

部　位		内側曲げ半径	備　考
柱材や梁およびブレース端など塑性変形能力が要求される部位	ハンチ等応力方向が曲げ曲面に沿った方向である場所	8ｔ以上	
	応力方向が上記の直角方向の場合	4ｔ以上	r：内側曲げ半径
上記以外		2ｔ以上	t：被加工材の板厚

(3) 高力ボルト

a) 高力ボルトは、包装の完全なものを未開封のまま工事現場へ搬入する。

b) 高力ボルトは、種類・径・長さ・ロット番号ごとに区分し、雨水・塵埃などが付着せず、温度変化の少ない適切な場所に保管する。

c) 運搬・締付け作業にあたり、ていねいに取り扱い、ねじ山等を損傷しないようにする。
トルシア形高力ボルトは、ピンテール部も損傷しないようにする。

d) 一度使用したボルトセットは、再度、本締めに使用しない。

(4) 溶接接合

a) 溶接作業における技能資格者は、工事に相応した次に示す試験等による技量を有する者とする。

1) 手溶接の場合は、JIS Z 3801（手溶接技術検定における試験方法および判定基準）に従う板厚、溶接方法、溶接姿勢に応じた溶接技術検定試験に合格した有資格者。

2) 半自動溶接の場合は、JIS Z 3841（半自動溶接技術検定における試験方法および判定基準）に従う板厚、溶接方法、溶接姿勢に応じた溶接技術検定試験に合格した有資格者。

3) 自動溶接の場合は、少なくとも JIS Z 3841またはJIS Z 3841の基本となる級（下向溶接）の溶接技術検定試験に合格した有資格者。

4) スタッド溶接は、「スタッド溶接技術検定試験」に従う溶接姿勢・スタッドの呼び名に応じた溶接技術検定試験に合格した有資格者またはスタッド協会が発行する技術証明書を有する者。

b) 溶接方法

1) アーク手溶接
2) ガスシールドアーク半自動溶接
3) セルフシールドアーク半自動溶接
4) サブマージアーク自動溶接
5) エレクトロスラグ溶接
6) アークスタッド溶接

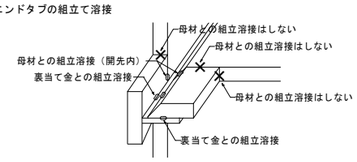
c) 組立溶接

1) 開先のある溶接の両端では、健全な溶接の全断面が確保できるようにエンドタブを用いる。
ただし、監理者の事前の承認があれば、その他の適切な方法を用いることができる。

2) 柱梁接合部にエンドタブを取り付ける場合には、下図に示すように、裏当て金に取り付ける。
直接、母材に組立て溶接をしない。ただし、組立て溶接を再溶融させる場合は、行ってもよい。

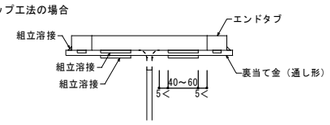
3) エンドタブの切断の要否および切断要領は特記による。
特記のない場合は、切断しなくてよい。

図.柱梁接合部エンドタブの組立て溶接

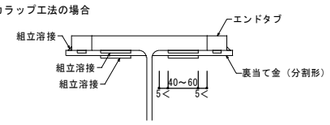


4) 柱梁接合部の裏当て金の組立溶接は、下図に示すように、梁フランジの両端から5mm以内およびフィレット部のＲ止まり、または隅肉溶接止端部から5mm以内の位置には行わない。
裏当て金の組立用の隅肉溶接は、サイズは、4～6mmで、長さ40～60mm程度とする。

・スカラップ工法の場合



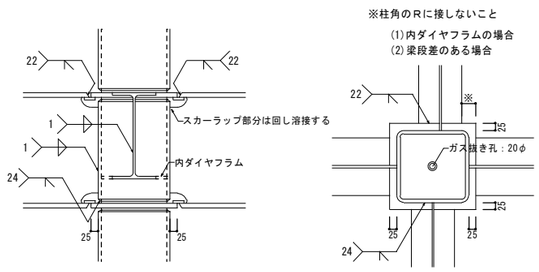
・ノンスカラップ工法の場合



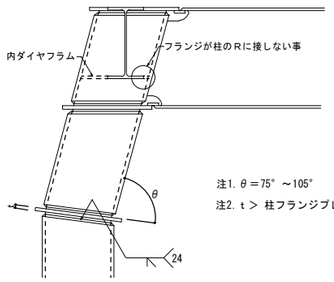
2. 溶接規準

(1) 開先形状・エンドタブ・スカラップ・スニップカット等は、別図　溶接規準図（1）および（2）による。

(2) 鋼管柱・梁仕口部



(3) 柱が途中で折れる場合

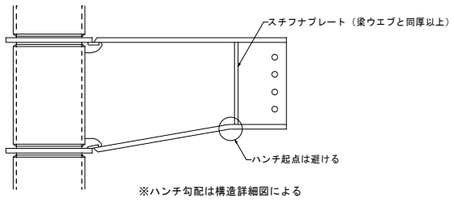


注1. θ＝75°～105°
注2. t＞ 柱フランジプレート厚

3. 継手規準その他

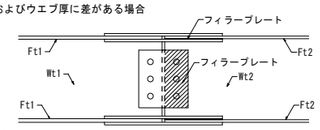
(1) 鉄骨継手基準（ボルトピッチ・継手形状等）
別図　鉄骨部材リスト表による。

(2) ハンチ部の継手



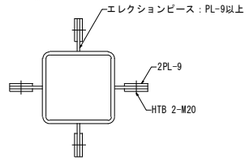
※ハンチ勾配は構造詳細図による

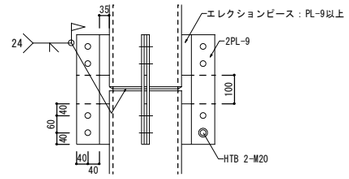
(3) フランジ厚およびウエブ厚に差がある場合



Ft1 － Ft2
Wt1 － Wt2 ≧ 1 mm の場合はフィラープレート使用

(4) 鋼管柱の現場溶接継手
エレクションピースは、溶接完了後に撤去する。





(5) 丸鋼ブレース（JISターンバックル筋かい）

a) 使用材料（M12～M33）

(1)ターンバックルボルト用丸鋼：JIS G 3138 建築構造用圧延棒鋼　SNR400B

(2)ターンバックルボルト用平鋼：JIS G 3136 建築構造用圧延鋼材　SN400B

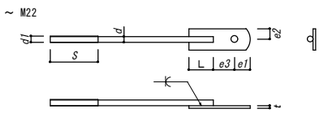
(3)ターンバックル胴：[ST] JIS G 3138 建築構造用圧延棒鋼　SNR400A
[PT] JIS G 3475 建築構造用炭素鋼管　STKN400Wまたは400A

(4)取付ボルト：高力六角ボルトは、JIS B 1186 の規格品。
または、トルシア形高力ボルトは JSS Ⅱ 09に準拠して製造された、国土交通大臣認定品とする。

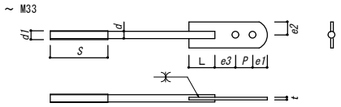
b) 形状および寸法

ねじの呼び d		M12	M16	M18	M20	M22	M24	M27	M30	M33
軸径 d1	最大	10.83	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00	25.00	27.67	30.67
	最小	10.59	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69	24.69	27.34	30.34
調整ねじの長さ S		100	125	140	150	165	175	200	200	225
端あき e1		40	45	50	50	55	50	50	55	55
孔ピッチ P		—	—	—	—	—	60	60	60	60
切板製	へりあき e2	28	28	34	34	38	38	45	45	50
	板厚 t	6	6	9	9	9	9	9	12	12
平鋼製	へりあき e2	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5	45	45	50
	板厚 t	6	6	9	9	9	9	9	12	12
ボルト端から取付けボルト孔芯ぼあき(最小) e3		52	59	66	66	73	70	72	83	90
溶接長さ L		40	55	60	75	85	85	90	95	110
取付けボルト	ねじの呼び	M16	M16	M20	M20	M22	M20	M20	M22	M22
	本数	1	1	1	1	1	2	2	2	2

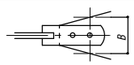
(1) M12 ～ M22



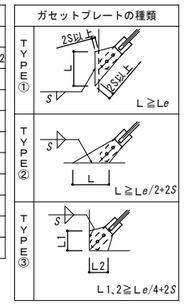
(2) M24 ～ M33



ねじの呼び	ガセットプレート 板厚 gt	ガセットプレート 必要幅 B	必要溶接長 サイズ S	有効長 e	TYPE① L	TYPE② L	TYPE③ L=L1+L2
M12	6	60	6	60	60	42	54
M16	9	70	8	80	80	56	72
M18	9	70	8	80	80	56	72
M20	9	80	8	97	97	65	81
M22	12	80	10	100	100	70	90
M24	12	90	10	112	112	76	96
M27	12	90	10	145	145	93	113
M30	12	100	10	177	177	109	129
M33	12	110	10	217	217	129	149

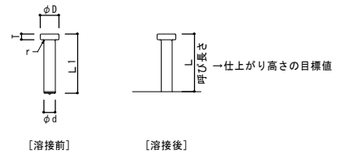


ガセットプレートの種類



(6) 頭付きスタッド

a) スタッドの品質・形状及び寸法については、JIS B 1198-2011 による。



呼び名	軸径(φd) 基準寸法	軸径(φd) 許容差	頭部直径(φD) 基準寸法	頭部直径(φD) 許容差	頭部厚さ(T) 基準寸法	頭部厚さ(T) 許容差	首下の丸み(r) 基準寸法	首下の丸み(r) 許容差	呼び長さ(L) 標準
10	10	±0.3	19	±0.3	7	-0.5 +1.0	1.5	±1.0	50、80、100
13	13		25		8		1.5		80、100、120
16	16		29		8		2.5		
19	19	±0.4	32		10		2.5		80、100、130、150
22	22		35		10		3.0		
25	25		41		12		3.0		120、150、170

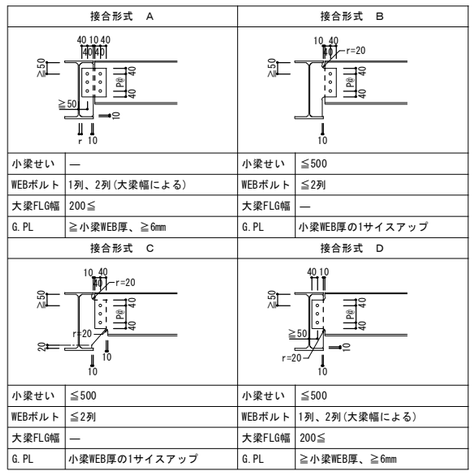
b) 仕上がり高さは、指定された寸法の±2mm以内、傾きは5° 以内とする。

c) スタッド溶接後の試験

(1) 外観試験
・母材および材軸部のアンダーカットの有無を、全数について確認する。
・仕上がり高さおよび傾きは、スタッドの種類およびスタッド溶接される部材が異なるごとに、かつ、100本ごとおよびその端数について、1本以上抜き取る。

(2) 打撃試験
・抜き取り数は、外観試験による。
・打撃により角度15° まで曲げたのち、溶接部に割れその他の欠陥がない場合、そのまま使用する。

(7) 小梁接合部



小梁せい	—	小梁せい	≦500
WEBボルト	1列、2列(大梁幅による)	WEBボルト	≦2列
大梁FLG幅	200≦	大梁FLG幅	—
G.PL	≧小梁WEB厚、≧6mm	G.PL	小梁WEB厚の1サイスアップ

小梁せい	≦500	小梁せい	≦500
WEBボルト	≦2列	WEBボルト	1列、2列(大梁幅による)
大梁FLG幅	—	大梁FLG幅	200≦
G.PL	小梁WEB厚の1サイスアップ	G.PL	≧小梁WEB厚、≧6mm

a) 大梁せい≧小梁せい

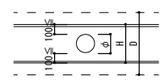
b) ウェブボルトの配置は、最小ボルト本数を2本とし、小梁のせい方向の中心振り分けとする。

(8) 梁貫通孔補強

a) 貫通孔は、梁端部から貫通孔中心まで1.2D以上離す。

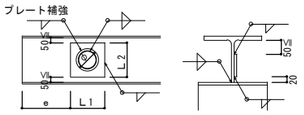
b) 貫通孔内径寸法は、鉄骨梁せいの1/2以下とする。

c) 貫通孔間隔は、貫通孔径の平均値の2倍以上とする。（ＳＲＣ造の場合、3倍以上）



H：鉄骨せい
D：梁せい
φ：貫通孔内径

d) プレート補強



(1) Ｌ1は、3φまたは、Ｌ2のうち小さい方とする。

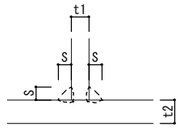
(2) 補強プレートが16mm以上の場合、
必要厚の1/2の補強プレートを両面から溶接とする。

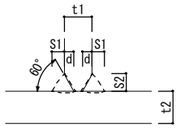
設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.01.15	春　日　部　市 福祉部　障がい者支援課		心身障害者通所支援施設増築等工事	鉄骨標準仕様書	Ｓ－０２

1

t≦16　　16＜t≦32

隅肉溶接（t＝t1・t2の薄い方の板厚とする）





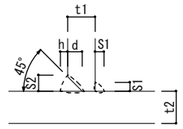
t	6	9	12	16
S	5.0	7.0	9.0	12.0

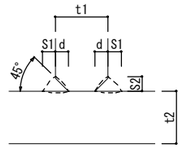
t	19	22	25	28	32
d	6.5	7.5	8.5	9.5	10.5
S1	8.5	10.0	11.5	13.0	14.5
S2	12.0	13.5	15.0	17.0	19.0

2

16≦t≦32　　36≦t≦40

部分溶込み溶接





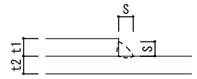
t	16	19	22	25	28	32
d	8.0	10.0	11.0	13.0	14.0	16.0
S1	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
h	4.0	5.0	6.0	7.0	7.0	8.0
S2	9.0	11.0	12.0	14.0	15.0	17.0

t1	d	S1	S2
36.0	9.0	9.0	10.0
40.0	10.0	10.0	11.0

3

6≦t≦16

重ね継手隅肉溶接
（t＝t1・t2の薄い方の板厚とする）

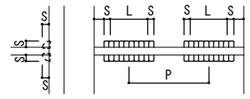


（注）s＝t-2を基本とする

t	6	9	12	16
S	4.0	7.0	10.0	14.0

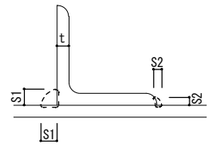
4

（注）サイズ(S)溶接長(L)および溶接ピッチ(P)は特記による。



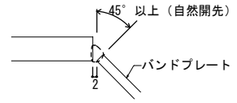
L＞10Sかつ40mm以上

5



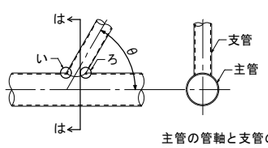
t	6	7	9	10	12	13
S1	8	10	14	14	17	17
S2	4	5	7	7	10	10

6

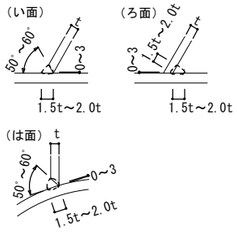


7

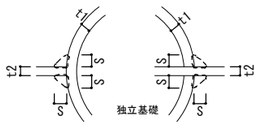
適用管厚　3.2≦ t ≦12
交　　角　30°≦θ≦150°



主管の管軸と支管の
管軸は一致させること。

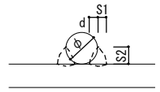


8



t	S
4≦t1≦6	6.0
t1＞6	S＝t1

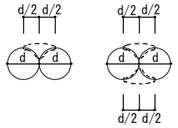
9



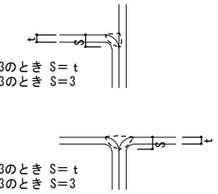
D.Bまたはφ	d＝S1	S2
13.0	4.0	7.5
16.0	5.0	9.0
19.0	5.5	10.0
22.0	6.0	12.0
25.0	7.0	13.0

D.B：異形棒鋼
φ　：丸鋼

10

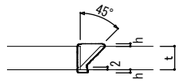


11

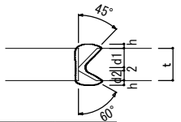


21

9＜t≦19　　19＜t≦40



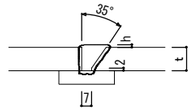
t	h
12	0＜h≦3
14	0＜h≦3
16	0＜h≦4
19	0＜h≦4



t	d1	d2	h
22	13.0	7.0	0＜h≦4
25	15.0	8.0	0＜h≦4
28	17.0	9.0	0＜h≦4
32	20.0	10.0	0＜h≦4
36	22.0	12.0	0＜h≦4
40	22.0	16.0	0＜h≦4

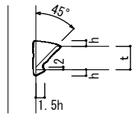
22

6＜t≦40

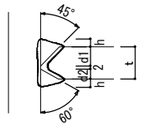


23

9＜t≦19　　19＜t≦40



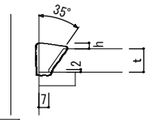
t	h
12	3.0～10.0
14	3.5～10.5
16	4.0～11.0
19	5.0～12.0



t	d1	d2	h
22	13.0	7.0	5.5～12.5
25	15.0	8.0	6.5～13.5
28	17.0	9.0	7.0～14.0
32	20.0	10.0	8.0～15.0
36	22.0	12.0	9.0～16.0
40	22.0	16.0	10.0～17.0

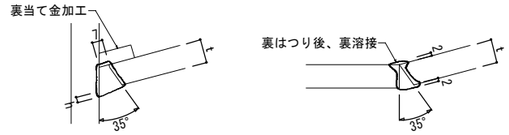
24

6＜t≦25

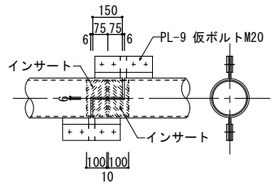


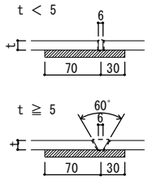
t	h
9	2.5～9.5
10～12	3.0～10.0
13～14	3.5～10.5
15～16	4.0～11.0
17～19	5.0～12.0
20～22	5.5～12.5
23～25	6.5～13.5

25



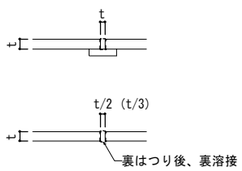
30





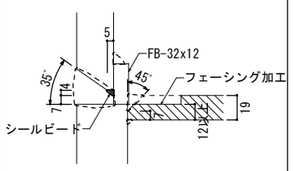
31

t≦6



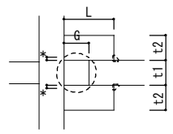
（　　）内はガスシールドアーク溶接の場合

41



42

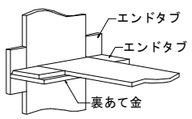
エレクトロスラグ溶接
注）＊寸法は 3mm 以上とする。



t1	t2	G	L
22～28	25	25	50
32～36	28	25	50

エンドタブ

エンドタブは原則として母材と同厚のものを用い、長さは下表による。

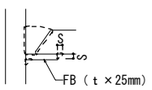


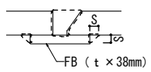
エンドタブの長さおよび厚さ

溶接工法	長さ(mm)
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

裏当て金

裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上とし、厚さ・長さおよび溶接のサイズは下記による。





裏当て金の厚さ

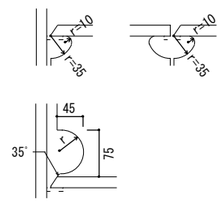
溶接工法	厚さ(mm)
手溶接	6 以上
半自動溶接	9 以上
自動溶接	12 以上

溶接のサイズ

裏当て金の厚さ	S
t ≦9	5
t ＞9	9

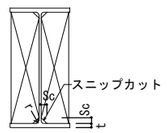
スカーラップ

スカーラップ半径は、35mmを標準とする。



現場溶接の下フランジ部スカーラップ

スニップカット



表－1

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

注記

1. この規準図は、記入なき限り手溶接及びガスシールド半自動溶接による標準溶接継手の形状を示す。
2. t ≦6mm の場合の突合せ溶接部の開先は不要とする。
3. エンドタブは、溶接後 5mm 程度残して切断し、端部を仕上げる。
   設計図に表す溶接長さの寸法は有効長さとし、すみ肉のサイズの10倍以上とする。
   ただし、有効長さは、ビードの始点及び、クレータを除いた部分の長さとする。

L：すみ肉溶接の長さ
S：すみ肉溶接のサイズ
Le：有効長さ
L' ≧S

4. スニップカット
   溶接の交差部をスニップカット（Sc）で処理する場合の標準寸法は、鋼材の板厚に応じて表-1によるものとし、スニップカット部は、溶接により埋めることとする。
   ただし、既製形鋼のスニップカットは、Sc＝ｒ+2 により求めるものとする。

設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.01.15	春　日　部　市 福祉部　障がい者支援課		心身障害者通所支援施設増築等工事	溶接標準図	S－03

本配筋標準図に記載なき項目については、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版」による。

1.鉄筋のかぶり厚さ

(a) 鉄筋および溶接金網のかぶり厚さは、下表の設計かぶり厚さによる。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。
かぶり厚さは設計値を採用し、確保できない場合には監督員と協議する。

表.鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種類				かぶり厚さ 設計	かぶり厚さ 最小
土に接しない部分	スラブ、耐力壁	仕上げあり		30	20
	以外の壁	仕上げなし		40	30
	柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり	40	30
			仕上げなし	40	30
		屋外	仕上げあり	50	30
			仕上げなし	50	40
	擁壁、耐圧スラブ			50	40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			50	＊ 40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			70	＊ 60
煙突等高熱を受ける部分				70	60

(注) 1. ＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

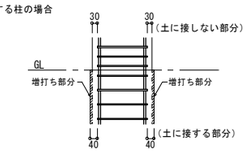
(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
(d) 鉄筋相互のあきは、下図により、次の値のうち最大のもの以上とする。
ただし機械式継手及び溶接継手の場合のあきは、特記による。
(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 隣り合う鉄筋の平均径（異形鉄筋の呼び径ｄ）の1.5倍

D：鉄筋の最大外径

図.鉄筋相互のあき

(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。
(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

※土に接する柱の場合



2.加工および組立

(a) 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部には、フックを付ける。
(1) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合および最上階の柱頭にある場合。
(2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅および下端の両端にある場合。
（基礎梁を除く）
(3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を除く）
(4) 杭基礎のペース筋
(5) 帯筋、あばら筋および幅止め筋

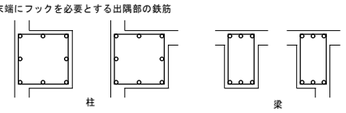
(b) 鉄筋の折曲げ形状はおよび寸法は、下表による。

表.鉄筋の折曲げ形状および寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D） SD295A、SD295B、SD345 D16以下	SD295A、SD295B、SD345 D19～D38	SD390 D19～D38
180°	4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135°	6d以上			
90°	12d以上			
135°および90°（幅止め筋）	6d以上 6d以上			

(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で 90°フックまたは135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は、特記による。

※末端にフックを必要とする出隅部の鉄筋



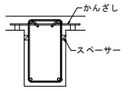
c. バーサポート・スペーサーの種類は下記による。
(1) コンクリート製
(2) 鋼製（かぶり部分は防錆処理を行う）
(3) プラスチック製
(4) ステンレス製

d. バーサポート・スペーサーの標準的な配置および間隔

部位	スラブ	梁	柱
種類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数量または配置	上端筋、下端筋それぞれ1.3個/㎡程度	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上段は梁下より0.5m程度 中段は柱脚と上段の中間 柱幅方向は1.0mまで2個 1.0m以上3個
備考	端部上端筋および中央部、下端筋には必ず配置	側梁以外の梁は上または下に設置 側梁は側面の両側へ対称に設置	同一平面に点対称となるように設置

部位	基礎	基礎梁	壁・地下壁
種類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数量または配置	面積 4㎡程度 8個 16㎡程度 20個	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上段は梁下より0.5m程度 中段は上段より1.5m間隔程度 横間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内
備考		上または下と側面の両側へ対称に設置	

(注) 1. 表の数量または配置は、5～6階程度までのＲＣ造を対象とする。
2. 梁・柱・基礎梁・壁および地下外壁のスペーサーは、側面に限りプラスチック製でもよい。
3. 断熱材打込み時のサポートは支持重量に対して、めり込まない程度の接触面積を持ったものとする。
4. 梁の上とは、かんざしを指す。



3.継手および定着

(a) 鉄筋の重ね継手は、次による。
(1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(2) 柱および梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。
耐力壁の鉄筋の重ね継手の場合、特記がなければ[40d]と下表の重ね継手長さの大きい値とする。（軽量コンクリートの場合 50d）

表.鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_1（フックなし）	L_{1h}（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24、27	35d	25d
	30、33、36		
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24、27	40d	
	30、33、36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24、27	45d	
	30、33、36	40d	30d

(注) 1. L_1、L_{1h}: 重ね継手の長さおよびフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL1hは、下図に示すようにフック部分[𝐿]を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

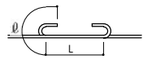
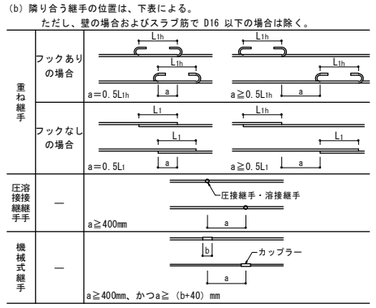


図. フックありの場合の重ね継手の長さ

(b) 隣り合う継手の位置は、下表による。
ただし、壁の場合およびスラブ筋で D16 以下の場合は除く。



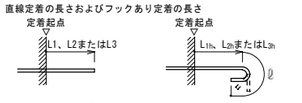
(c) 鉄筋の定着は、次による。
(1) 柱に取り付ける梁の引張鉄筋の定着の長さは、下表により、適用は特記による。
(2) (1) 以外の鉄筋の定着の長さは、下表により、適用は特記による。

表.鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	直線定着の長さ L_1	直線定着の長さ L_2	L_3 小梁	L_3 スラブ	フックあり定着の長さ L_{1h}	フックあり定着の長さ L_{2h}	L_{3h} 小梁	L_{3h} スラブ
SD295	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d			30d	25d		
	24、27 30、33、36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24、27	40d							
	30、33、36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24、27	45d							
	30、33、36	40d	35d			30d	25d		

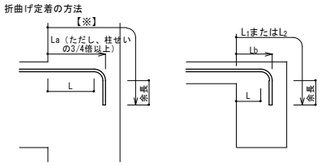
(注) 1. L_1 、L_{1h}: 2.以外の直線定着の長さおよびフックあり定着の長さ
2. L_2 、L_{2h} 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さおよびフック定着の長さ
3. L_3 : 小梁およびスラブの下端筋の直線定着の長さ。
ただし、基礎耐圧スラブおよびこれを受ける小梁は除く。
4. L_{3h} : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、下図に示すようにフック部分[𝐿]を含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

図. 直線定着の長さおよびフックあり定着の長さ



(3) 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さL が、上表のフックあり定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、下図により、次の（ⅰ）、（ⅱ）および（ⅲ）をすべて満足させるものとする。
（ⅰ）全長は、上表の直線定着長さ以上とする。
（ⅱ）余長は 8d 以上とする。
（ⅲ）仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さ La および Lb は、下表に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図. 折曲げ定着の方法



※表のフックあり定着の長さを全長で確保する。

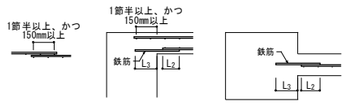
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ　　小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

表. 投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	
	24、27		
	30、33、36		
SD345	18	20d	20d
	21		
	24、27		15d
	30、33、36	15d	
SD390	21	20d	20d
	24、27		
	30、33、36		15d

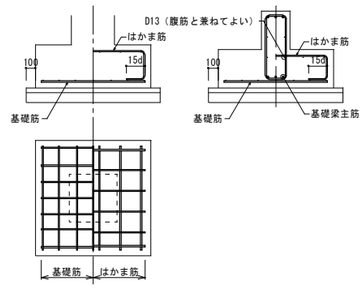
(注) 1. La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
（基礎梁、片持梁および片持スラブを含む）
2. Lb：小梁およびスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
（片持小梁および片持スラブを除く）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

(d) 溶接金網の継手および定着は、次による。

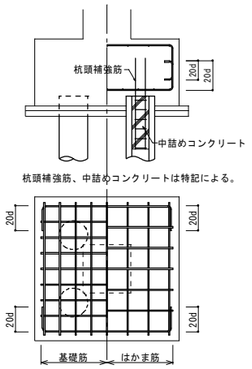


4.基礎の配筋

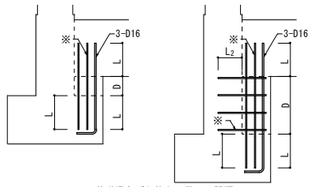
a. 直接基礎
(1) 独立基礎　　(2) 連続基礎

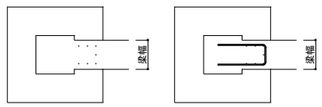


b. 杭基礎

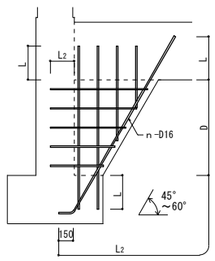


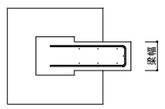
(2) 基礎接合部の補強配筋





0＜D≦200　　200＜D≦1000

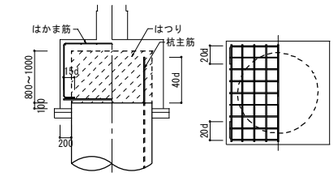




D＞1000

基礎梁幅	n
300≦B≦400	3
400＜B≦550	4
550＜B≦700	5
700＜B≦800	6

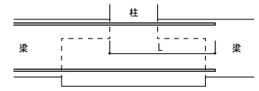
(3) 場所打ち杭基礎



5.基礎梁の配筋

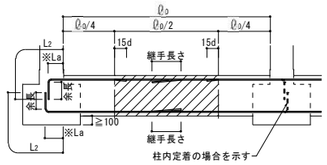
(a) 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
ただし、梁内に定着する場合は、下図による。

図. 梁筋の基礎梁内への定着

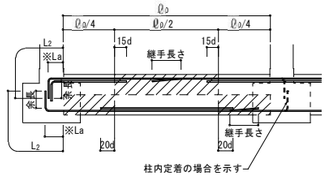


(b) 梁筋を、柱内に定着する場合は、折曲げ定着とする。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。

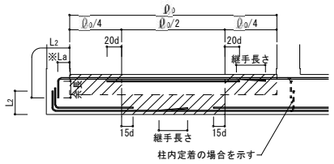
(c) 基礎梁主筋の継手および定着
(1) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



(2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合（耐圧スラブは除く）

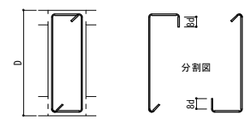


(3) 連続基礎およびべた基礎（耐圧スラブが付く場合を含む）



※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
：継手の好ましい位置

(b) 基礎梁のあばら筋
(1) あばら筋組立の形状およびフックの位置は、梁あばら筋による。
ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、下図によることができる。

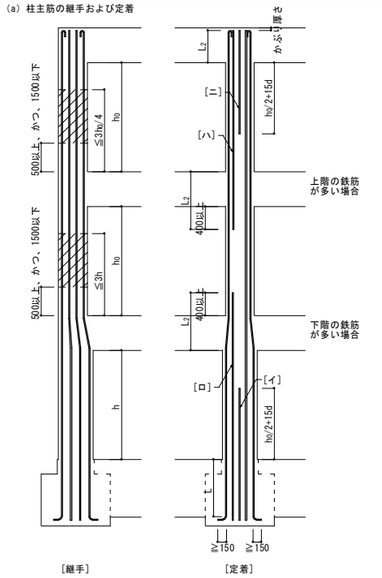


(2) 基礎梁腹筋の割付本数

梁せい	腹筋
D＜600	不要
600≦D＜1050	2-D10または2-D13（1段）
1050≦D＜1500	4-D10または4-D13（2段）
1500≦D＜1950	6-D13（3段）
1950≦D＜2400	8-D13（4段）

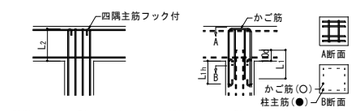
6.柱の配筋

(a) 柱主筋の継手および定着

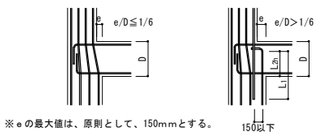


[イ]：柱脚のみ配筋する場合
[ロ]：上階の鉄筋に連続しない場合
[ハ]：下階より上階に多く配筋する場合
[ニ]：柱脚より柱頭の鉄筋が多い場合

(1) 柱頭（最上階）の配筋

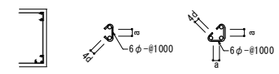


(2) 接合部（一般階）の配筋

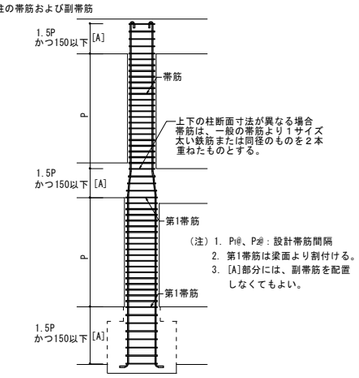


※ｅの最大値は、原則として、150mmとする。

(3) 二段筋の保持（a=呼び径×1.5）



(b) 柱の帯筋および副帯筋



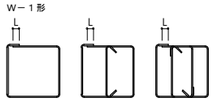
（注）1. Pi@、Pj@：設計帯筋間隔
2. 第1帯筋は梁面より割付ける。
3. [A]部分には、副帯筋を配置しなくてもよい。

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部　障がい者支援課		心身障害者通所支援施設増築等工事	RC配筋標準図（1）	S－04

(c) 帯筋組立の形

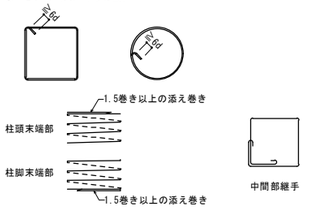
① H形

② W－1形

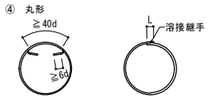


(注)溶接は、鉄筋の組立て前に行う。

③ SP形（スパイラル筋）



④ 丸形

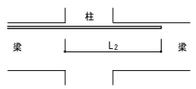


1. Hが形を標準とする。
2. フックおよび継手の位置は、交互とする。
3. 溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は 5d 以上、
   片面フレア溶接の場合は 10d 以上とする。
4. Hが形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。

7. 梁の配筋

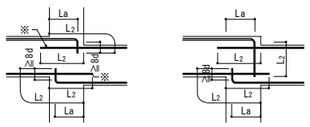
(a) 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。

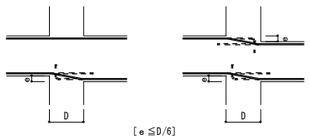
図. 梁主筋の梁内への定着



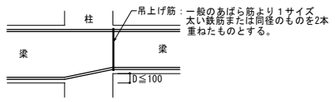
(1) 梁筋を、柱内に定着する場合は、折曲げ定着とする。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。

(2) 段差がある場合

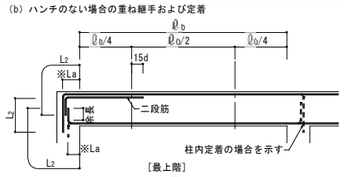


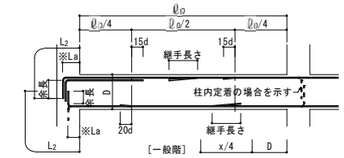


段差(e)が柱せい(D)の1/6以下の場合は、左右の梁筋を緩やかに
折曲げ連続させてもよい。
ただし、直交の梁筋と干渉しないことを確認する。



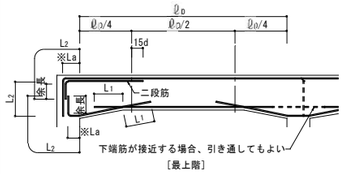
(b) ハンチのない場合の重ね継手および定着

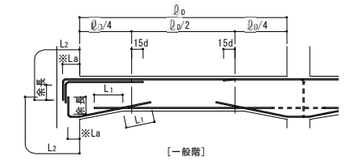




1. 継手中心位置は、次による。
   上端筋：中央　x/2以内
   下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し、　x/4を加えた範囲内
2. Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

(c) ハンチのある場合の重ね継手および定着

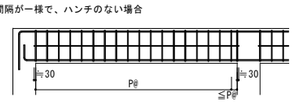




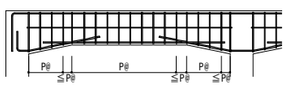
※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

(d) あばら筋の割付け

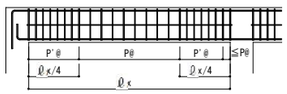
(1) 間隔が一様で、ハンチのない場合



(2) 間隔が一様で、ハンチのある場合

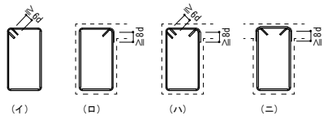


(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



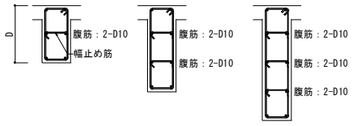
1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中の P@、P'@ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

(e) あばら筋組立の形



1. (イ)形を標準とする。
   ただし、L形梁の場合は、(ロ)または(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)
   とすることができる。
2. フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、
   (ロ) の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
   なお、(ハ)の場合は、床版の付く側を90°折曲げとする。

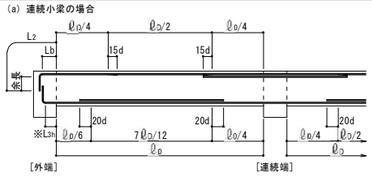
(f) 腹筋および幅止め筋



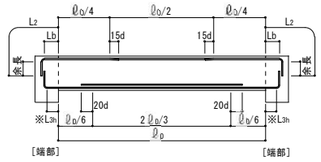
1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
2. 幅止め筋および受け用幅止め筋は、D10-@1000程度とする。

8. 小梁および片持梁の配筋

(a) 連続小梁の場合

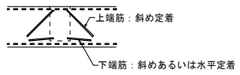


(b) 単独小梁の場合



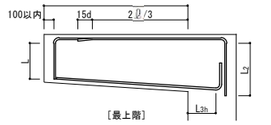
※L_{3h}を確保できない場合は、「3.継手および定着(c)(3)」によることができる。

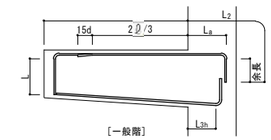
(1) 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合は、下図による。



(c) 片持梁

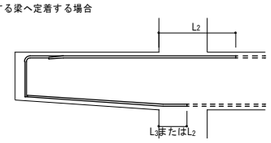
(1) 柱内に定着する場合



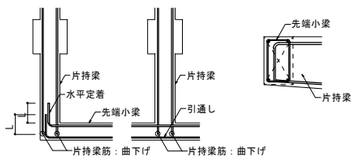


1. 先端の折曲げ長さ L は、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
2. Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
3. L_{3h}を確保できない場合は、「3.継手および定着(c)(3)」によることができる。

(2) 隣接する梁へ定着する場合



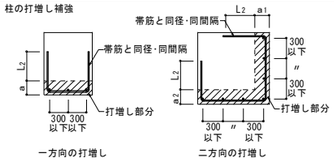
(3) 先端に小梁がある場合



1. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
2. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

9. 柱および梁の打増し補強配筋

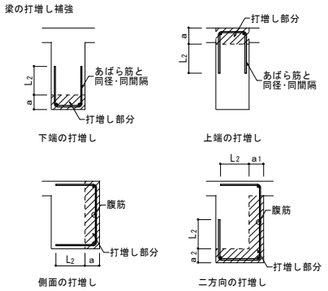
(a) 柱の打増し補強



一方向の打増し　　二方向の打増し

1. 柱の打増し幅（a、a1、a2）が 70mm 以上の場合を示す。
2. 帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径、同間隔、同材質とする。
3. 軸方向の補強筋間隔は、300mm以下とする。

(b) 梁の打増し補強



下端の打増し　　上端の打増し

側面の打増し　　二方向の打増し

1. 梁の打増し幅（a、a1、a2）が 70mm 以上の場合を示す。
2. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同間隔、同材質とする。
3. 腹筋は、(f) 腹筋および幅止め筋による。

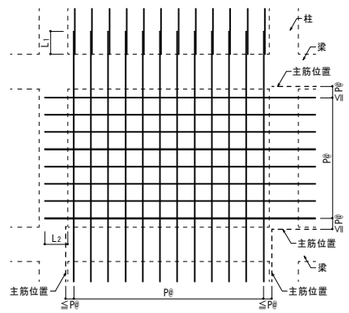
10. 壁の配筋

(a) 壁の配筋

種別	縦筋および横筋	断面図（mm）
W12	D10-@200 シングル	120
W15A	D10-@150 シングル	150
W15B	D10-@100 シングル	
W18A	D10-@200 ダブル	180
W18B	D10-@150 ダブル	
W20A	D10-@200 ダブル	200
W20B	D10-@150 ダブル	

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

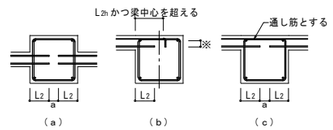
(b) 壁の継手および定着



1. 図中の P@ は、特記された壁筋の間隔を示す。
2. 壁配筋の重ね継手は L_1、定着長さは L_2とする。
3. 幅止め筋は、縦横とも D10-@1000 程度とする。
4. 柱および梁内に、壁筋の継手を設けてはならない。

(c) 柱および梁への定着

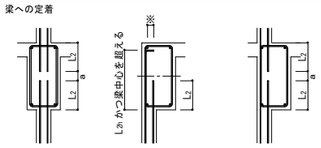
(1) 柱への定着



(a)　(b)　(c)

1. a 区間の部分は、通し配筋でもよい。
2. (b)で耐震壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長さ(※)を 8d かつ
   150mm以上とする。

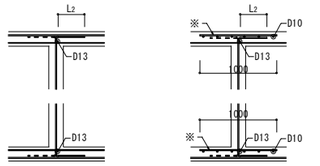
(2) 梁への定着



(a)　(b)　(c)

1. a 区間の部分は、通し配筋でもよい。
2. (b)で耐震壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長さ(※)を 8d かつ
   150mm以上とする。

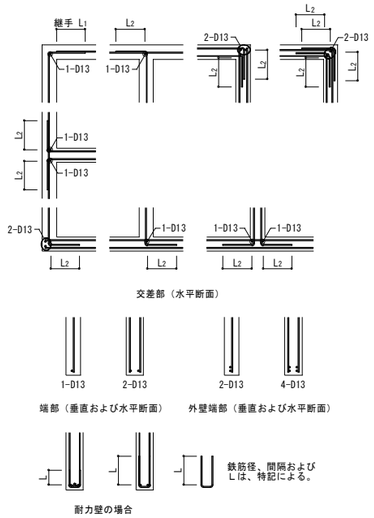
(3) スラブへの定着（非耐力壁とスラブが取り合う場合）



(a) スラブに上端筋がある場合　　(b) スラブに上端筋がない場合

注：※補強筋は、特記による。
特記がない場合は、D10を壁縦筋と同間隔に配筋する。

(d) 壁交差部および端部の配筋



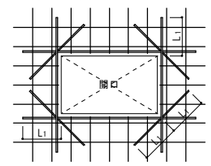
(e) 壁の開口部補強

(1) 壁開口部補強筋

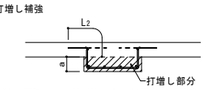
耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、下表による。

壁の種別	補強筋	
	縦・横	斜め
W12・W15A	1-D13	1-D13
W18A・W20A	2-D13	2-D13
W15B	2-D13	1-D13
W18B・W20B	4-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強筋の定着長さ

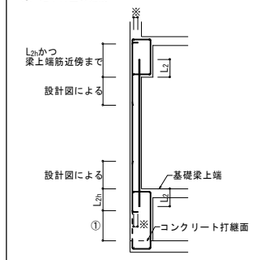


(f) 壁の打増し補強



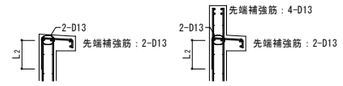
1. 壁の打増し厚さ（a）が 50mm 以上の場合の補強を示す。

(g) 地下外壁の配筋

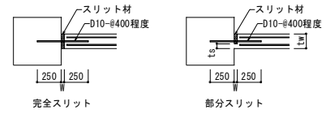


1. 外側鉄筋（①）を基礎梁に定着する場合、定着長さは規定長さでよいが
   1本置き程度に耐圧スラブ上端まで下げると、鉄筋位置の確保が容易である。
2. 耐震壁の壁筋と定着する場合は、コア内定着長さ(※)を 8d かつ150mm
   以上とすること。

(h) パラペットの配筋



(i) スリット

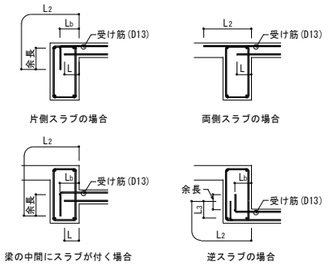


1. スリット幅（w）は、特記による。（二次壁高さの1/100以上）
2. 部分スリットの目地部の壁厚（ts）は、tw/2以下かつ70mm以下とする。
3. 振止め筋（D10）は、防錆処理を施す。

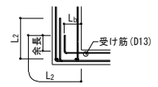
11. スラブの配筋

(a) スラブ筋の定着

(1) 一般スラブ

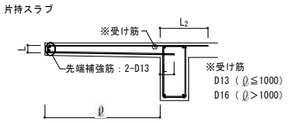


(2) 耐圧スラブ



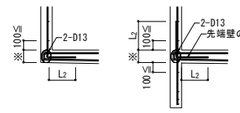
1. 土間スラブ下の砂利地業厚さおよび捨てコンクリート厚さは、特記による。
2. 土間コンクリートの配筋および厚さは、特記による。

(3) 片持スラブ



1. 先端の折曲げ長さ(L)は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

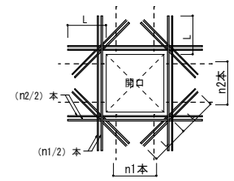
(4) 片持スラブ先端に壁が付く場合



1. 先端厚さ(※)は、壁厚以上とする。

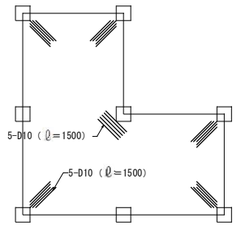
設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.01.15	春　日　部　市 福祉部　障がい者支援課		心身障害者通所支援施設増築等工事	RC配筋標準図（２）	S－０５

(b) スラブ開口部補強筋



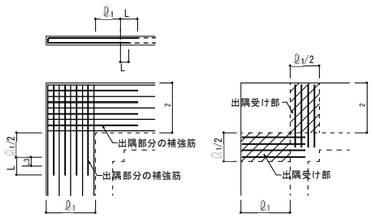
1. スラブ開口の最大径が700mm以下の場合に限る。
2. スラブ開口によって切断される鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（ ＝2L₁）シングルを上下筋の内側に配筋する。
3. スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略できる。

(c) 屋根スラブの出隅および入隅部の補強配筋



1. 補強筋を上端筋の下側に配置する。

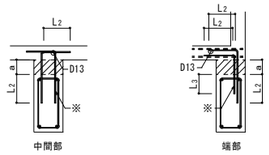
(d) 片持スラブの出隅部の補強配筋



1. $\ell_1 \geqq \ell_2$とする。
2. 出隅受け部配筋は、柱または梁に L 定着する。

(e) スラブの打継ぎ補強

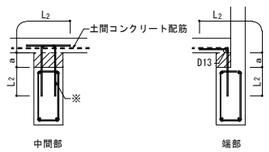
(1) 1階スラブの打継ぎ補強（a≦300mmの場合）
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合。



中間部　端部

※：スラブ筋と同径・同間隔・同材質

(2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部（a≦300mmの場合）

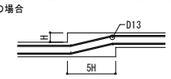


中間部　端部

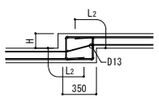
※：土間コンクリート筋と同径・同間隔・同材質

(f) 段差のあるスラブの補強配筋（H≦150mmの場合に限る）

(1) H≦70の場合

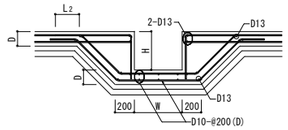


(2) 70<H≦150の場合

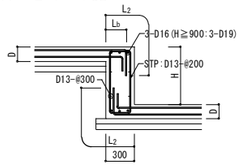


(g) 釜場の配筋

(1) H<500の場合



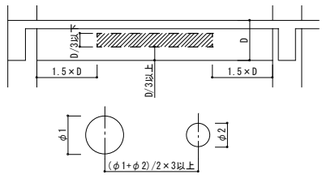
(2) 500≦H<1000の場合



(注)釜場部分のスラブ厚さ及び配筋は、取合うスラブに同じとする。

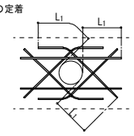
12. 梁貫通孔

(a) 貫通孔位置



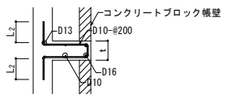
1. 貫通孔の径は、梁せいの1/3以下とし、貫通孔が円形でない場合は、これの外接円とする。
2. 貫通孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より、D/3の範囲には設けてはならない。
3. 貫通孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。
ただし、基礎梁および壁付帯梁は除く。
4. 貫通孔が並列する場合の中心間隔は、貫通孔径の平均値の3倍以上とする。
5. 貫通孔径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略できる。

(b) 貫通孔補強筋の定着



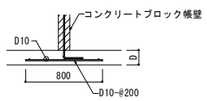
13. コンクリートブロック帳壁

(a) 控壁の配筋（水平、垂直とも）



1. コンクリートブロック帳壁の支点間距離は、厚さの25倍以下、かつ、3.5m以下とする。

(b) 帳壁が土間コンクリートに設置される場合の補強



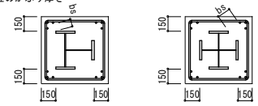
鉄骨鉄筋コンクリート造

1. 鉄筋および鉄骨のかぶり厚さ

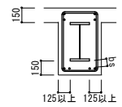
(a) 鉄筋のかぶり厚さは、配筋標準図(1)による。

(b) 鉄骨のかぶり厚さは、特記による。特記のない場合は、下図による。

(1) 柱のかぶり厚さ

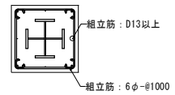


(2) 梁のかぶり厚さ



1. 鉄筋と鉄骨のあき(bs)は、25mm以上、かつ粗骨材の最大寸法の1.25倍以上とする。

(c) 鉄筋位置の確保
組立筋を用いて位置を確保し、柱幅700mm以上の場合は、中間に組立筋をいれることとする。



(d) 鉄筋貫通孔の径

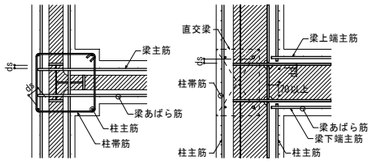
1. 鉄筋の定着または引通しのため鉄骨にあける鉄筋貫通孔の径は、下表による。
ただし、主筋の鉄筋貫通孔は、最大径に統一する。
鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

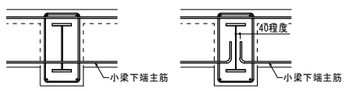
(単位：mm)

鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔径	21	24	28	31	35	38	43	46

(e) 鉄筋貫通孔の位置

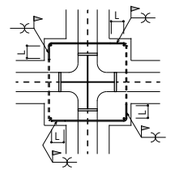
1. 鉄筋貫通孔の位置は、下図による。
2. 小梁下端主筋は、直交する梁ウェブを貫通させるものとする。
ただし、構造上支障がない場合は、梁ウェブを貫通しないことができる。





小梁下端主筋が貫通する場合　小梁下端主筋が貫通しない場合

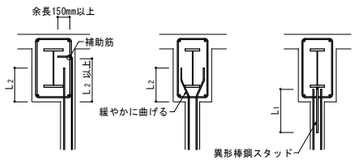
(f) 仕口部内の帯筋の加工および組立



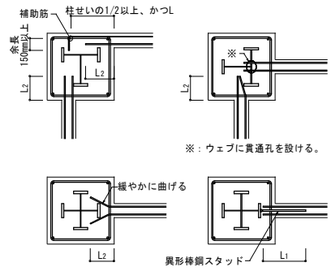
1. 片面溶接の有効長さ(L)は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。
ただし、溶接によらない場合は、135°曲げフックとする。

(g) 壁筋の定着

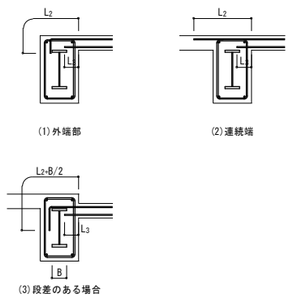
(1) 梁への定着



(2) 柱への定着



(f) スラブ筋の定着



(1)外端部　(2)連続端

(3)段差のある場合

設計年月日		縮 尺	工 事 名 称	図 面 名 称	図面番号
2026.01.15	春 日 部 市 福祉部　障がい者支援課		心身障害者通所支援施設増築等工事	RC配筋標準図（3）	S－06

ベースパック

角形鋼管

□-150×150 ～ □-800×800 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0335-01」（2024年1月26日付）

ベースパック柱脚工法　設計施工標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

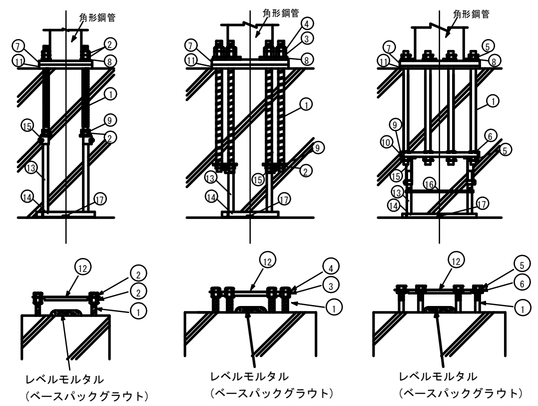
岡部株式会社　TEL:03（3624）5336

旭化成建材株式会社　TEL:03（3296）3515

2025年11月作成

1．工法概要

1.1 構成部材

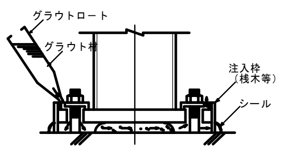


①アンカーボルト
②BP M ナット
③BP D ナット
④BP D ナット(S)
⑤BP 丸鋼ナット
⑥BP 位置決めナット
⑦ベースプレート
⑧BP 注入座金
⑨BP 定着板/BP 連結定着板
⑩BP 定着ベルト
⑪ベースパックグラウト
⑫テンプレート
⑬フレームポスト
⑭フレームベース
⑮BP 受け金物
⑯振れ止め金物
⑰ステコンアンカー

(注)上記①～⑪ の構成部材はベースパック構成部品として供給される。

(注)上記⑫ ～ ⑰ は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要



2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
	SHC400	
295	BCR295	○
	JBCR295	
	TSC295	
325	BCP325	
	STKR490	
	SHC490	
	BSH325	
365	UBCR365	
385	JBCR385	
	BCP385	

3．構成部材・寸法

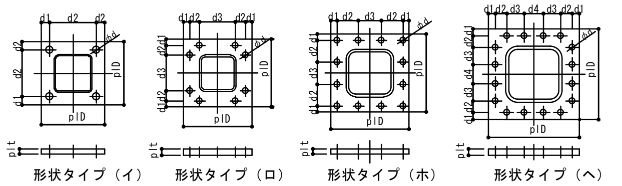
3.1 ベースプレート

●材質

SN490B【JIS G 3136】、TMCP385B【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●形状寸法

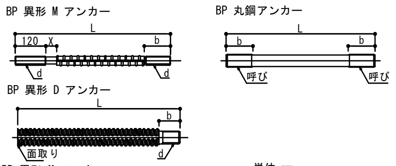
仕様毎の各寸法は、「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」に記載の値とする。



3.2 アンカー用ボルトセット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

3.2.1 アンカーボルト



BP 異形 M アンカー　単位 mm

呼び	異形部呼び	基準強度(N/mm²)	アンカーボルト本数	L	X	b
MD27	D29	490	4	650	45	128
MD30	D32	490	4	695	45	133
			8	665		50
MD33	D35	490	4	690, 735	45	95, 140
			8	700		50
MD36	D38	490	4	770	60	130
			8	830		50
MD39	D41	490	4	770, 810	60	98, 135

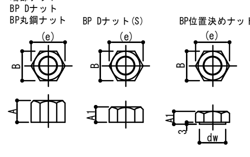
BP 異形 D アンカー　単位 mm

呼び	基準強度(N/mm²)	L	b	端部ねじ d
D35H	490	875	55	M30
D38H	490	1030	60	M33
D41H	490	1085	60	M36
D51L	390	1110	70	M45
D51H	490	1220	70	M45

BP 丸鋼アンカー　単位 mm

呼び	基準強度(N/mm²)	L	b
M48	600	1100	140
M52	600	1195	155
M56	600	1275, 1395	160
M60	600	1350, 1475	170
M64	600	1430, 1495	175

3.2.2 ナット



BP 異形 M アンカー(BP Mナット)
BP 異形 D アンカー(端部ナット)　単位 mm

呼び	ナット呼び	A	B	(e)
MD27	M27	22	41	47
MD30 D35H	M30	24	46	53
MD33 D38H	M33	26	50	58
MD36 D41H	M36	29	55	64
MD39	M39	31	60	69
D51L D51H	M45	36	70	81

BP 異形 D アンカー　単位 mm

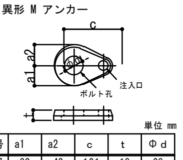
呼び	BP Dナット A	BP Dナット(S) A1	B	(e)
D35H	42	28	60	69
D38H	45	30	65	75
D41H	48	32	70	80
D51L D51H	60	40	80	92

BP 丸鋼アンカー　単位 mm

呼び	BP丸鋼ナット A	BP位置決めナット A1	B	(e)	dw
M48	38	29	75	87	59
M52	42	31	80	92	59
M56	45	34	85	98	74
M60	48	36	90	104	74
M64	51	38	95	110	74

3.2.3 BP 注入座金

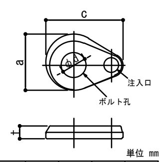
BP 異形 M アンカー



単位 mm

記号	a1	a2	c	t	Φd
PM27	32	42	101	18	28
PM30	32	42	101	18	31
PM33	35	45	110	18	34
PM36	35	45	110	18	37
PM39	38	48	118	18	40

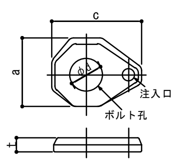
BP 異形 D アンカー



単位 mm

記号	a	c	t	Φd
PE35	86	118	18	40
PE38	90	125	22	43
PE41	96	128	22	46
PE51	116	147	22	58

BP 丸鋼アンカー



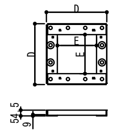
単位 mm

記号	a	c	t	Φd
PA48	102	133	22	49
PA52	110	140	22	53
PA56	116	147	22	58
PA60	122	153	22	61
PA64	128	159	22	65

3.3 定着部材

3.3.1 BP 定着ベルト

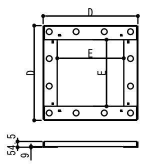
BP 異形 D アンカー12本仕様



単位 mm

ベースパック記号	D	E
35-25F3	565	365
35-19F4, 35-22F4	575	375
40-22F3, 40-16F4	625	425
40-25F3, 40-19F4, 40-22F4	630	430
45-19F3, 45-16F4	675	475
45-22F3, 45-19F4	680	480
45-25F3	700	500
45-28F3, 45-22F4, 45-25F4	714	514
50-19F3	730	530
50-22F3	750	550
50-25F3, 50-28F3, 50-32F3 50-36F3, 50-19F4, 50-22F4 50-25F4, 50-28F4	774	574
55-19F3	790	590
55-22F3, 55-25F3, 55-28F3 55-19F4, 55-22F4	814	614

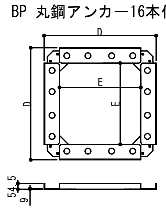
BP 丸鋼アンカー12本仕様



単位 mm

ベースパック記号	D	E
55-32F3, 55-25F4	885	625
55-36F3, 55-40F3, 55-28F4, 55-32F4	899	639
60-19F3	895	695
60-22F3, 60-19F4	905	645
60-25F3	915	655
60-28F3, 60-22F4	925	665
60-32F3, 60-25F4	939	679
60-36F3, 60-40F3, 60-28F4, 60-32F4	953	663
65-22F3	935	675
65-25F3	975	715
65-28F3, 65-22F4, 65-25F4	989	729
65-32F3, 65-36F3, 65-28F4	1003	713
70-22F3	1015	755
70-25F3, 70-22F4	1029	769
70-28F3	1049	789
70-32F3, 70-25F4	1063	773
75-22F3, 75-25F3	1089	829
75-28F3, 75-22F4	1103	813

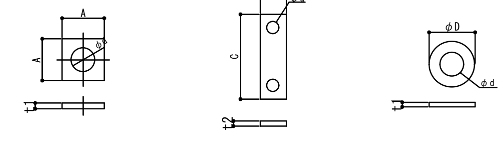
BP 丸鋼アンカー16本仕様



単位 mm

ベースパック記号	D	E
65-40F3, 65-32F4	1047	757
70-36F3, 70-28F4	1097	807
70-40F3, 70-32F4	1105	795
75-32F3, 75-25F4	1177	887
75-36F3, 75-40F3, 75-28F4, 75-32F4	1215	905
80-25F3	1178	918
80-28F3	1197	907
80-32F3, 80-36F3, 80-25F4, 80-28F4	1265	955

3.3.2 BP 定着板



BP 異形 Mアンカー　単位 mm

呼び	BP定着板(4本タイプ) A	Φd	t1	BP連結定着板 B	C	Φd	t2
MD27	55	28	9	－	－	－	－
MD30	55	31	9	50	163	31	6
MD33	60	34	9	61	174	34	6
MD36	65	37	12	67	180	37	6
MD39	80	40	12	－	－	－	－

BP 異形 Dアンカー　単位 mm

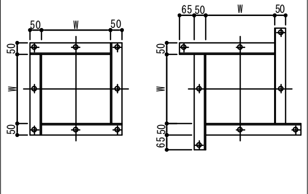
呼び	BP連結定着板 B	C	Φd	t2	BP定着板(12本タイプ) ΦD	Φd	t1
D35H	61	195	31	12	－	－	－
D38H	65	199	34	12	65	34	6
D41H	72	206	37	12	70	37	6
D51L, D51H	－	－	－	－	84	46	9

BP 丸鋼アンカー　単位 mm

呼び	BP定着板(12本タイプ) ΦD	Φd	t1	BP定着板(16本タイプ) ΦD	Φd	t1
M48	85	60	6	－	－	－
M52	95	60	9	－	－	－
M56	105	75	12	118	75	12
M60	119	75	16	137	75	16
M64	133	75	16	145	75	22

3.4 フレームベース

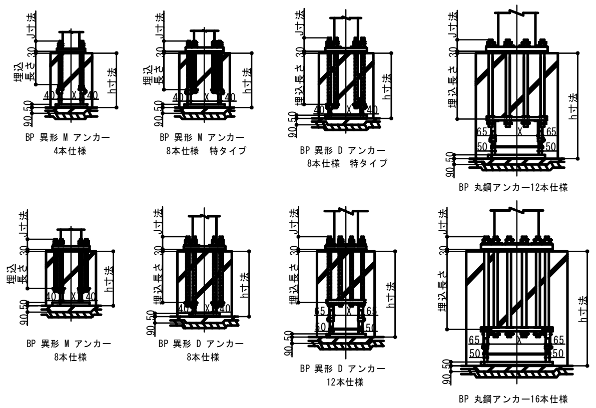
wは3.5に記載のフレームベース内法寸法とする。



3.5 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h 寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。

据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は「ベースパック柱脚工法設計施工標準図2／3、3／3」に記載の値とする。



単位 mm

ベースパック記号	フレームベース内法寸法W 標準	特タイプ	フレームポスト間寸法X 標準	特タイプ
15-12F2	250	－	170	－
17-12F2	280	－	200	－
20-09F2	310	－	230	－
20-12F2	310	－	230	－
25-09F2	360	－	280	－
25-12F2	370	－	290	－
25-16F2	222	385	142	305
30-09F2	420	－	340	－
30-12F2	300	447	220	367
30-16F2	288	459	208	379
30-19F2	318	489	238	409
35-12F2	337	500	257	420
35-16F2	367	530	287	450
35-19F2	344	513	264	433
35-22F3	339	518	259	438
35-25F3	476	－	367	－
40-16F3	414	583	334	503
40-19F3	409	588	329	508
40-22F3	536	－	427	－
40-25F3	541	－	432	－
45-16F3	459	638	379	558
45-19F3	586	－	477	－
45-22F3	591	－	482	－
45-25F3	611	－	502	－
45-28F3	608	－	499	－
50-19F3	641	－	532	－
50-22F3	661	－	552	－
50-25F3	668	－	559	－
50-28F3	668	－	559	－
50-32F3	668	－	559	－
50-36F3	668	－	559	－
55-19F3	701	－	592	－
55-22F3	708	－	599	－
55-25F3	708	－	599	－

単位 mm

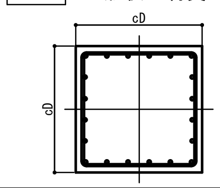
ベースパック記号	フレームベース内法寸法W 標準	特タイプ	フレームポスト間寸法X 標準	特タイプ
55-28F3	708	－	599	－
55-32F3	737	－	628	－
55-36F3	737	－	628	－
55-40F3	737	－	628	－
60-19F3	785	－	676	－
60-22F3	757	－	648	－
60-25F3	767	－	658	－
60-28F3	777	－	668	－
60-32F3	777	－	668	－
60-36F3	771	－	662	－
60-40F3	771	－	662	－
65-22F3	787	－	678	－
65-25F3	827	－	718	－
65-28F3	827	－	718	－
65-32F3	821	－	712	－
65-36F3	821	－	712	－
65-40F3	955	－	846	－
70-22F3	867	－	758	－
70-25F3	867	－	758	－
70-28F3	887	－	778	－
70-32F3	881	－	772	－
70-36F3	1005	－	896	－
70-40F3	1005	－	896	－
75-22F3	927	－	818	－
75-25F3	927	－	818	－
75-28F3	921	－	812	－
75-32F3	1085	－	976	－
75-36F3	1115	－	1006	－
75-40F3	1115	－	1006	－
80-25F3	1105	－	996	－
80-28F3	1105	－	996	－
80-32F3	1165	－	1056	－
80-36F3	1165	－	1056	－

単位 mm

ベースパック記号	フレームベース内法寸法W 標準	特タイプ	フレームポスト間寸法X 標準	特タイプ
35-16F4	339	518	259	438
35-19F4	486	－	377	－
35-22F4	486	－	377	－
40-16F4	536	－	427	－
40-19F4	541	－	432	－
40-22F4	541	－	432	－
45-16F4	586	－	477	－
45-19F4	591	－	482	－
45-22F4	608	－	499	－
45-25F4	608	－	499	－
50-19F4	668	－	559	－
50-22F4	668	－	559	－
50-25F4	668	－	559	－
50-28F4	668	－	559	－
55-19F4	708	－	599	－
55-22F4	708	－	599	－
55-25F4	737	－	628	－
55-28F4	737	－	628	－
55-32F4	737	－	628	－
60-19F4	757	－	648	－
60-22F4	777	－	668	－
60-25F4	777	－	668	－
60-28F4	771	－	662	－
60-32F4	771	－	662	－
65-22F4	827	－	718	－
65-25F4	827	－	718	－
65-28F4	821	－	712	－
65-32F4	955	－	846	－
70-22F4	867	－	758	－
70-25F4	881	－	772	－
70-28F4	1005	－	896	－
70-32F4	1005	－	896	－
75-22F4	921	－	812	－
75-25F4	1085	－	976	－
75-28F4	1115	－	1006	－
75-32F4	1115	－	1006	－
80-25F4	1165	－	1056	－
80-28F4	1165	－	1056	－

4．コンクリート柱型

4.1 形状・材質



●コンクリート

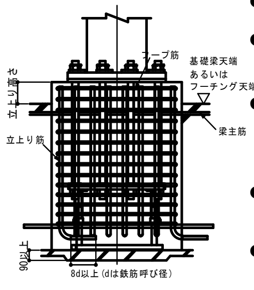
普通コンクリートとし、設計基準強度は36N/mm を上限とする。設計基準強度の下限は「ベースパック柱脚工法設計施工標準図２/３、３／３」に記載の値とする。

●鉄筋

立上り筋：SD295(D16)、SD345(D19,D22,D25)、SD390(D29)

フープ筋：SD295

4.2 配筋・基礎立上り



●立上り筋の下部折り曲げは８d以上とする。

●立上り筋の下部折り曲げは梁下端筋より下方に配筋する。

● 立上り高さは、50mm以下とする。ただし、BP丸鋼アンカータイプは200mm以下とする。

●立上り筋の頂部にはフックをもうけなくてよい。

●柱型頂部のフープ筋（トップフープ）は、基礎梁主筋より上方へ配置する。

4.3 特記事項

4.1及び4.2によらない場合は

下記による。

採用

□ 鉄筋コンクリート柱として設計

□ 立上り筋に頂部フックが必要

□ 立上り筋の下部折り曲げ不要

5．工場製作（溶接）

■組立

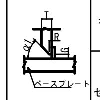
●ベースプレートの中心に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）

●完全溶込み溶接とする。

（JASS6 鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS6　鉄骨工事 2018年版より）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	許容差	ルート面R(mm) 標準値	許容差	開先角度α1(°) 標準値	許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。

・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温（鋼材表面温度）が５℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。

その他必要に応じて適切な予熱をする。

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

探傷は柱側から行う。

溶接方法	鋼種	板厚（mm） t<32	32≦t≦50	50<t≦85
低水素系被覆アーク溶接	ＳＮ４９０Ｂ	予熱なし	50℃	－
CO_2 ガスシールドアーク溶接※1	ＳＮ４９０Ｂ	予熱なし	予熱なし	－
低水素系被覆アーク溶接	ＭＣＰ３８５Ｂ※2	－	50℃	50℃
CO_2 ガスシールドアーク溶接※1	ＭＣＰ３８５Ｂ※2	－	予熱なし	予熱なし

■不良溶接部の補正：有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。

■施工管理：7.本工法の施工及び施工管理参照。

※1　フラックス入りワイヤによる炭酸ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、被覆アーク溶接（低水素）に準じる。

※2　「建築構造用TMCP鋼材溶接施工指針(2021)に準拠し、TMCP385Bは上記予熱温度の適用に当たり、各メーカーのy形溶接割れ試験(JIS Z 3158による)の実績または溶接施工指針を確認している。

6．工事場施工

6.1 基礎工事

●柱脚部の捨てコンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルトの据付け

●4本及び8本タイプのアンカーボルトの据付けは、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立を行う。
12本及び16タイプのアンカーボルトの据付けは、予め捨てコン上にセットされたフレーム上に、定着部材・アンカーボルト・テンプレート等でアンカーユニットを組立て、フレームに固定する。

●フレームベースは、ステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心位置と地墨等の柱心を合致させることにより行う。標準許容差は下図による。

6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーフレームもしくはアンカーユニットおよびフレームとの取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタル施工は、ベースパックグラウト（グラウト材）を使用し、大きさは下図による。

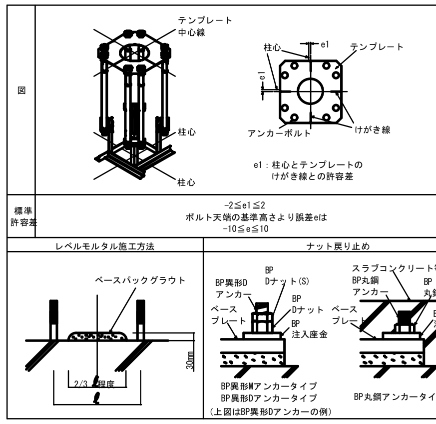
6.5 アンカーボルトの本締め（戻り止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、BP 異形 M アンカー、BP 異形 D アンカータイプはダブルナットを標準とする。
BP 丸鋼アンカータイプはBP 丸鋼ナットによるシングルナットを標準とし、コンクリートに埋込む等の戻り止め処置を行う。

6.6 ベースパックグラウト（グラウト材）の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋（25kg）に対して、計量カップで4.0～4.6ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。



7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち６．２アンカーボルトの据付けおよび６．６ベースパックグラウト（グラウト材）の注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作作業者に属する鉄骨制作管理技術者等による。

ベースパック

角形鋼管

□-150×150 ～ □-800×800 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0335-01」（2024年1月26日付）

ベースパック柱脚工法　設計施工標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社　TEL:03（3624）5336

旭化成建材株式会社　TEL:03（3296）3515

2025年9月作成

採用 柱符号	採用 数量	RC柱として設計※1	ベースパック記号	柱 外径	柱 板厚	ベースプレート 材質	形状タイプ	寸法 plD	寸法 plt	寸法 d1	寸法 d2	寸法 d3	寸法 d4	寸法 φd	アンカーボルト 本数	呼び	埋込長さ	コンクリート柱型（側・隅柱、中柱用）※2 Fc 下限値	標準断面寸法cD	柱型拡幅上限※3 断面寸法	柱型拡幅上限※3 片側拡幅量	フープ筋	立上り筋本数 側・隅柱用※4 D16	側・隅柱用※4 D19	側・隅柱用※4 D22	側・隅柱用※4 D25	側・隅柱用※4 D29	中柱用※5 D16	中柱用※5 D19	中柱用※5 D22	中柱用※5 D25	中柱用※5 D29	コンクリート柱型（独立柱用）※2 Fc 下限値	標準断面寸法cD	柱型拡幅上限※3 断面寸法	柱型拡幅上限※3 片側拡幅量	フープ筋	立上り筋本数 D16	D19	D22	D25	D29	最低h寸法	J寸法
				mm	mm		mm	mm		mm	mm	mm	mm	mm			mm	N/mm²	mm	mm	mm	(SD295)	(SD295)	(SD345)	(SD345)	(SD345)	(SD390)	(SD295)	(SD345)	(SD345)	(SD345)	(SD390)	N/mm²	mm	mm	mm	(SD295)	(SD295)	(SD345)	(SD345)	(SD345)	(SD390)	mm	mm
		□	15-12F2	□150	≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	－	－	45	4	M27	357	21	500	－	－	D13@100	12	－	－	－	－	12	－	－	－	－	21	500	－	－	D13@100	12	－	－	－	－	550	135
		□	17-12F2	□175	≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	－	－	45	4	M30	397	21	530	－	－	D13@100	12	－	－	－	－	12	－	－	－	－	21	530	－	－	D13@100	12	－	－	－	－	600	135
C1	5	□	20-09F2	□200	≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	－	－	45	4	M30	397	21	560	－	－	D13@100	16	12	－	－	－	16	12	－	－	－	21	560	－	－	D13@100	16	12	－	－	－	600	135
		□	20-12F2	□200	≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	－	－	50	4	M33	430	21	560	－	－	D13@100	16	12	－	－	－	16	12	－	－	－	21	560	－	－	D13@100	16	12	－	－	－	600	135
C2	8	□	25-09F2	□250	≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	－	－	55	4	M36	460	21	610	－	－	D13@100	－	16	12	12	－	－	12	12	12	－	21	610	－	－	D13@100	－	16	12	12	－	650	150
		□	25-12F2	□250	≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	－	－	55	4	M39	495	21	630	－	－	D13@100	－	16	12	12	－	－	12	12	12	－	21	630	－	－	D13@100	－	20	12	12	－	650	150
		□	25-16F2	□250	≦16	SN490B	(ロ)	450	32	50	80	190	－	50	8	M33	485	21	650	－	－	D13@100	－	－	－	20	－	－	20	16	12	－	21	730	－	－	D13@100	－	－	24	16	－	610	135
		□	30-09F2	□300	≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	－	－	55	4	M39	495	21	680	－	－	D13@100	－	16	12	12	－	－	16	12	12	－	21	680	－	－	D13@100	－	－	12	12	－	650	150
		□	30-12F2	□300	≦12	SN490B	(ロ)	520	32	50	80	260	－	50	8	M30	450	21	700	720	10	D13@100	－	－	16	16	－	－	16	12	12	－	21	710	720	5	D13@100	－	－	24	16	－	570	135
		□	30-16F2	□300	≦16	SN490B	(ロ)	520	40	50	80	260	－	55	8	M36	600	21	730	－	－	D13@100	－	－	－	20	－	－	24	16	16	－	21	770	－	－	D13@100	－	－	－	24	－	720	150
		□	30-19F2	□300	≦19	SN490B	(ロ)	550	50	50	80	290	－	55	8	M36	600	21	760	－	－	D13@100	－	－	－	20	－	－	24	16	16	－	21	790	－	－	D13@100	－	－	－	24	－	720	150
		□	35-12F2	□350	≦12	SN490B	(ロ)	580	36	50	95	290	－	55	8	D35H	620	21	810	－	－	D13@100	－	－	－	20	－	－	－	20	16	－	21	840	－	－	D13@100	－	－	－	28	－	750	170
		□	35-16F2	□350	≦16	SN490B	(ロ)	610	45	50	95	320	－	55	8	D35H	620	21	830	－	－	D13@100	－	－	－	20	－	－	－	20	16	－	21	870	－	－	D13@100	－	－	－	28	－	750	170
		□	35-19F2	□350	≦19	SN490B	(ロ)	610	45	60	95	300	－	60	8	D38H	750	21	820	1090	135	D13@100	－	－	24	20	－	－	－	20	16	－	21	880	1090	105	D13@100	－	－	－	20	－	880	190
		□	35-22F3	□350	≦22	TMCP385B	(ロ)	610	45	60	95	300	－	65	8	D41H	800	21	850	1090	120	D13@100	－	－	24	20	－	－	－	24	20	－	21	910	1090	90	D13@100	－	－	24	20	－	930	195
		□	35-25F3	□350	≦25	TMCP385B	(ホ)	600	50	60	160	160	－	60	12	D38H	750	21	850	1080	115	D16@100	－	－	24	20	－	－	－	24	20	－	21	910	1080	85	D16@100	－	－	28	20	－	1090	190
		□	40-16F3	□400	≦16	TMCP385B	(ロ)	670	45	55	95	370	－	60	8	D38H	750	21	870	1160	145	D13@100	－	－	24	20	－	－	－	24	20	－	21	910	1160	125	D13@100	－	－	24	20	－	880	190
		□	40-19F3	□400	≦19	TMCP385B	(ロ)	680	50	60	95	370	－	65	8	D41H	800	21	900	1160	130	D13@100	－	－	28	20	－	－	－	28	20	－	21	950	1160	105	D13@100	－	－	28	20	－	930	195
		□	40-22F3	□400	≦22	TMCP385B	(ホ)	650	55	55	160	220	－	60	12	D38H	750	21	920	1140	110	D16@100	－	－	28	20	－	－	－	28	20	－	21	970	1140	85	D16@100	－	－	28	24	－	1090	190
		□	40-25F3	□400	≦25	TMCP385B	(ホ)	670	55	65	160	220	－	65	12	D41H	800	21	970	1140	85	D16@100	－	－	32	24	－	－	－	32	24	－	21	1000	1140	70	D16@100	－	－	32	24	－	1140	195
		□	45-16F3	□450	≦16	TMCP385B	(ロ)	740	45	65	95	420	－	65	8	D41H	800	21	950	1210	130	D16@100	－	－	24	20	－	－	－	24	20	－	21	950	1210	130	D16@100	－	－	28	20	－	930	195
		□	45-19F3	□450	≦19	TMCP385B	(ホ)	710	45	60	160	270	－	60	12	D38H	750	21	1000	1190	95	D16@100	－	－	28	24	－	－	－	28	20	－	21	1020	1190	85	D16@100	－	－	28	24	－	1090	190
		□	45-22F3	□450	≦22	TMCP385B	(ホ)	710	50	60	160	270	－	65	12	D41H	800	21	1010	1190	90	D16@100	－	－	32	24	－	－	－	32	24	－	21	1080	1190	55	D16@100	－	－	32	28	－	1140	195
		□	45-25F3	□450	≦25	TMCP385B	(ホ)	750	55	70	160	290	－	65	12	D41H	800	24	1020	1210	95	D16@100	－	－	32	28	－	－	－	32	28	－	24	1080	1210	65	D16@100	－	－	36	28	－	1140	195
		□	45-28F3	□450	≦28	TMCP385B	(ホ)	750	55	70	200	210	－	75	12	D51L	790	24	1020	1210	95	D16@100	－	－	36	28	－	－	－	36	28	－	24	1080	1210	65	D16@100	－	－	36	28	－	1130	220
		□	50-19F3	□500	≦19	TMCP385B	(ホ)	760	50	60	160	320	－	65	12	D41H	800	24	1040	1240	100	D16@100	－	－	36	28	－	－	－	36	28	20	24	1090	1240	75	D16@100	－	－	36	28	－	1140	195
		□	50-22F3	□500	≦22	TMCP385B	(ホ)	810	55	75	160	340	－	65	12	D41H	800	24	1060	1260	100	D16@100	－	－	36	28	－	－	－	36	28	20	24	1100	1260	80	D16@100	－	－	36	28	－	1140	195
		□	50-25F3	□500	≦25	TMCP385B	(ホ)	810	55	70	200	270	－	75	12	D51L	790	24	1070	1270	100	D16@100	－	－	40	28	－	－	－	40	28	20	24	1100	1270	85	D16@100	－	－	40	32	－	1130	220
		□	50-28F3	□500	≦28	TMCP385B	(ホ)	810	60	70	200	270	－	75	12	D51H	890	24	1180	1270	45	D16@100	－	－	48	36	24	－	－	48	36	24	24	1180	1270	45	D16@100	－	－	48	36	－	1230	230
		□	50-32F3	□500	≦32	TMCP385B	(ホ)	810	60	70	200	270	－	75	12	D51H	890	24	1180	1270	45	D16@100	－	－	48	36	24	－	－	48	36	24	24	1180	1270	45	D16@100	－	－	48	36	28	1230	230
		□	50-36F3	□500	≦36	TMCP385B	(ホ)	840	65	85	200	270	－	75	12	D51H	890	24	1200	1270	35	D16@100	－	－	48	36	24	－	－	48	36	24	24	1200	1270	35	D16@100	－	－	48	36	28	1230	230
		□	55-19F3	□550	≦19	TMCP385B	(ホ)	850	50	75	160	380	－	65	12	D41H	800	24	1100	1300	100	D16@100	－	－	36	28	－	－	－	36	28	20	24	1140	1300	80	D16@100	－	－	36	28	－	1140	195
		□	55-22F3	□550	≦22	TMCP385B	(ホ)	850	55	70	200	310	－	75	12	D51L	790	24	1100	1310	105	D16@100	－	－	40	32	－	－	－	40	32	24	24	1140	1310	85	D16@100	－	－	40	32	－	1130	220
		□	55-25F3	□550	≦25	TMCP385B	(ホ)	850	60	70	200	310	－	75	12	D51H	890	24	1180	1310	65	D16@100	－	－	48	40	－	－	－	48	40	28	24	1250	1310	30	D16@100	－	－	48	40	28	1230	230
		□	55-28F3	□550	≦28	TMCP385B	(ホ)	850	60	70	200	310	－	75	12	D51H	890	24	1200	1310	55	D16@100	－	－	48	40	28	－	－	48	40	28	24	1250	1310	30	D16@100	－	－	48	40	28	1230	230
		□	55-32F3	□550	≦32	TMCP385B	(ホ)	900	65	70	250	260	－	75	12	M56	970	24	1200	1360	80	D16@100	－	－	－	40	28	－	－	－	40	28	24	1250	1360	55	D16@100	－	－	－	40	28	1360	170
		□	55-36F3	□550	≦36	TMCP385B	(ホ)	900	70	70	250	260	－	80	12	M60	1030	24	1280	1360	40	D16@100	－	－	－	48	36	－	－	－	48	36	24	1320	1360	20	D16@100	－	－	－	48	36	1430	180
		□	55-40F3	□550	≦40	TMCP385B	(ホ)	900	70	70	250	260	－	80	12	M60	1030	24	1300	1360	30	D16@100	－	－	－	48	36	－	－	－	48	36	24	1320	1360	20	D16@100	－	－	－	48	36	1430	180
		□	60-19F3	□600	≦19	TMCP385B	(ホ)	920	55	65	210	370	－	70	12	M48	830	24	1200	1390	95	D16@100	－	－	－	32	24	－	－	－	32	24	24	1200	1390	95	D16@100	－	－	－	36	28	1220	150
		□	60-22F3	□600	≦22	TMCP385B	(ホ)	920	60	65	210	370	－	75	12	M52	900	24	1200	1390	95	D16@100	－	－	－	40	28	－	－	－	40	28	24	1230	1390	80	D16@100	－	－	－	40	28	1290	165
		□	60-25F3	□600	≦25	TMCP385B	(ホ)	940	65	70	250	300	－	75	12	M52	900	24	1250	1400	75	D16@100	－	－	－	40	28	－	－	－	40	28	24	1250	1400	75	D16@100	－	－	－	40	28	1290	165
		□	60-28F3	□600	≦28	TMCP385B	(ホ)	940	65	70	250	300	－	75	12	M56	970	24	1250	1400	75	D16@100	－	－	－	44	32	－	－	－	44	32	24	1250	1400	75	D16@100	－	－	－	44	32	1360	170
		□	60-32F3	□600	≦32	TMCP385B	(ホ)	940	70	70	250	300	－	80	12	M60	1030	24	1320	1400	40	D16@100	－	－	－	52	36	－	－	－	52	36	24	1340	1400	30	D16@100	－	－	－	52	36	1430	180
		□	60-36F3	□600	≦36	TMCP385B	(ホ)	950	75	75	250	300	－	85	12	M64	1100	24	1380	1400	10	D16@100	－	－	－	56	40	－	－	－	56	40	24	1400	－	－	D16@100	－	－	－	56	40	1500	185
		□	60-40F3	□600	≦40	TMCP385B	(ホ)	980	75	90	250	300	－	85	12	M64	1100	24	1400	－	－	D16@100	－	－	－	56	40	－	－	－	56	40	24	1400	－	－	D16@100	－	－	－	56	40	1500	185
		□	65-22F3	□650	≦22	TMCP385B	(ホ)	960	60	70	210	400	－	75	12	M52	900	24	1350	1420	35	D16@100	－	－	－	36	24	－	－	－	36	24	24	1350	1420	35	D16@100	－	－	－	36	28	1290	165
		□	65-25F3	□650	≦25	TMCP385B	(ホ)	1000	65	75	250	350	－	75	12	M56	970	24	1350	1450	50	D16@100	－	－	－	44	32	－	－	－	44	32	24	1350	1450	50	D16@100	－	－	－	44	32	1360	170
		□	65-28F3	□650	≦28	TMCP385B	(ホ)	1000	70	75	250	350	－	80	12	M60	1030	24	1350	1450	50	D16@100	－	－	－	52	36	－	－	－	52	36	24	1400	1450	25	D16@100	－	－	－	52	36	1430	180
		□	65-32F3	□650	≦32	TMCP385B	(ホ)	1000	75	75	250	350	－	85	12	M64	1100	24	1400	1450	25	D16@100	－	－	－	60	40	－	－	－	60	40	24	1440	1450	5	D16@100	－	－	－	60	40	1500	185
		□	65-36F3	□650	≦36	TMCP385B	(ホ)	1050	80	100	250	350	－	85	12	M64	1100	24	1450	－	－	D16@100	－	－	－	60	40	－	－	－	60	40	24	1450	－	－	D16@100	－	－	－	60	40	1500	185
		□	65-40F3	□650	≦40	TMCP385B	(ヘ)	1050	75	80	135	200	220	80	16	M60	1150	24	1490	－	－	D16@100	－	－	－	64	44	－	－	－	64	44	24	1500	－	－	D16@100	－	－	－	64	44	1380	185
		□	70-22F3	□700	≦22	TMCP385B	(ホ)	1030	65	70	250	390	－	75	12	M56	970	24	1350	1490	70	D16@100	－	－	－	44	32	－	－	－	44	32	24	1350	1490	70	D16@100	－	－	－	48	32	1360	170
		□	70-25F3	□700	≦25	TMCP385B	(ホ)	1050	70	80	250	390	－	80	12	M60	1030	24	1430	1490	30	D16@100	－	－	－	52	36	－	－	－	52	36	24	1480	1490	5	D16@100	－	－	－	52	36	1430	180
		□	70-28F3	□700	≦28	TMCP385B	(ホ)	1090	75	90	250	410	－	80	12	M60	1030	24	1450	1510	30	D16@100	－	－	－	52	36	－	－	－	52	36	24	1510	－	－	D16@100	－	－	－	52	36	1430	180
		□	70-32F3	□700	≦32	TMCP385B	(ホ)	1090	75	90	250	410	－	85	12	M64	1100	24	1500	1510	5	D16@100	－	－	－	60	40	－	－	－	60	40	24	1560	－	－	D16@100	－	－	－	60	40	1500	185
		□	70-36F3	□700	≦36	TMCP385B	(ヘ)	1100	75	80	135	210	250	80	16	M60	1150	24	1550	－	－	D16@100	－	－	－	64	44	－	－	－	64	44	24	1610	－	－	D16@100	－	－	－	64	44	1380	185
		□	70-40F3	□700	≦40	TMCP385B	(ヘ)	1100	80	80	135	210	250	85	16	M64	1150	27	1740	－	－	D16@100	－	－	－	68	48	－	－	－	68	48	27	1840	－	－	D16@100	－	－	－	68	48	1450	200
		□	75-22F3	□750	≦22	TMCP385B	(ホ)	1100	70	75	250	450	－	80	12	M60	1030	24	1500	1550	25	D16@100	－	－	－	56	40	－	－	－	56	40	24	1510	1550	20	D16@100	－	－	－	56	40	1430	180
		□	75-25F3	□750	≦25	TMCP385B	(ホ)	1100	70	75	250	450	－	80	12	M60	1030	24	1500	1550	25	D16@100	－	－	－	56	40	－	－	－	56	40	24	1510	1550	20	D16@100	－	－	－	56	40	1430	180
		□	75-28F3	□750	≦28	TMCP385B	(ホ)	1100	75	75	250	450	－	85	12	M64	1100	24	1550	－	－	D16@100	－	－	－	60	44	－	－	－	60	44	24	1580	－	－	D16@100	－	－	－	60	44	1500	185
		□	75-32F3	□750	≦32	TMCP385B	(ヘ)	1200	75	90	135	250	250	80	16	M60	1150	24	1600	1620	10	D16@100	－	－	－	68	48	－	－	－	68	48	24	1670	－	－	D16@100	－	－	－	68	48	1380	185
		□	75-36F3	□750	≦36	TMCP385B	(ヘ)	1250	85	100	135	260	260	85	16	M64	1150	27	1840	－	－	D16@100	－	－	－	72	48	－	－	－	72	48	27	1890	－	－	D16@100	－	－	－	72	48	1450	200
		□	75-40F3	□750	≦40	TMCP385B	(ヘ)	1250	85	100	135	260	260	85	16	M64	1150	27	1840	－	－	D16@100	－	－	－	72	48	－	－	－	72	48	27	1890	－	－	D16@100	－	－	－	72	48	1450	200
		□	80-25F3	□800	≦25	TMCP385B	(ヘ)	1220	70	90	135	250	270	75	16	M56	1080	24	1550	1640	45	D16@100	－	－	－	60	40	－	－	－	60	40	24	1560	1640	40	D16@100	－	－	－	60	44	1310	180
		□	80-28F3	□800	≦28	TMCP385B	(ヘ)	1220	70	90	135	250	270	80	16	M60	1150	24	1630	1640	5	D16@100	－	－	－	68	48	－	－	－	68	48	24	1700	－	－	D16@100	－	－	－	68	48	1380	185
		□	80-32F3	□800	≦32	TMCP385B	(ヘ)	1300	85	100	135	270	290	85	16	M64	1150	27	1920	－	－	D16@100	－	－	－	72	52	－	－	－	72	52	27	1940	－	－	D16@100	－	－	－	72	52	1450	200
		□	80-36F3	□800	≦36	TMCP385B	(ヘ)	1300	85	100	135	270	290	85	16	M64	1150	27	1920	－	－	D16@100	－	－	－	72	52	－	－	－	72	52	27	1940	－	－	D16@100	－	－	－	72	52	1450	200

※1 コンクリート柱型をRC柱として設計する場合は、独立柱用の仕様を下回らないこと。

※2 立上り高さが50mm以下（BP丸鋼アンカータイプの場合は200mm以下）の場合に適用できる。
ただし、いずれの場合でも、ブレースが接合する方向の立上り高さが50mmを超える場合には適用できない。

※3 柱型は、補強鉄筋(鉄筋径、本数、ピッチ及び強度)が上表の通りであることを条件に、柱型拡幅上限まで拡幅することができる。
なお、断面寸法は柱心と柱型心が一致する場合の最大値であり、方向別の拡幅上限は片側拡幅量以内とする。

※4 基礎梁が直交する2方向から取り付き、かつ立上げ部段差が50mm以下（BP丸鋼アンカータイプの場合は200mm以下）の場合は側・隅柱用を選択できる。
ただし、□350以上においては側・隅柱であっても、取り付く基礎梁内のスタラップ筋の径がD13より小さくなる場合は、独立柱用による。

※5 基礎梁が4方向から取り付き、かつ立上げ部段差が50mm以下（BP丸鋼アンカータイプの場合は200mm以下）の場合は中柱用を選択できる。
ただし、中柱であっても、取り付く基礎梁内のスタラップ筋がD13より小さくなる場合、もしくはピッチが200mmを超える場合は、独立柱用による。

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部　障がい者支援課		心身障害者通所支援施設増築等工事	ベースパック標準図（2）	S－08

スクリューウエイト貫入試験結果

スクリューウエイト貫入試験

調査名	心身障害者通所支援施設整備工事	測点番号	S-1
調査地点	埼玉県春日部市大衾496番1の一部、他	年月日	令和7年11月11日
標高	KBM -0.08 m　最終貫入深さ 8.47 m	試験者	根岸 寛
水位	不明　天候 曇	試験方法	機械

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	音・感触	貫入状況	換算 N値 N	換算 qa kN/㎡
0.05	0.0	0.25	25	0			0.2	1.5
1.00	71.0	0.50	25	284	ジャリジャリ		12.0	200.4
1.00	17.0	0.75	25	68			6.4	70.8
1.00	3.0	1.00	25	12			3.6	37.2
1.00	0.0	1.25	25	0			3.0	30.0
1.00	1.0	1.50	25	4			3.2	32.4
1.00	2.0	1.75	25	8			3.4	34.8
1.00	0.0	2.00	25	0			3.0	30.0
1.00	0.0	2.25	25	0			3.0	30.0
1.00	0.0	2.50	25	0			3.0	30.0
1.00	1.0	2.75	25	4			3.2	32.4
1.00	3.0	3.00	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	3.25	25	12			3.6	37.2
1.00	2.0	3.50	25	8			3.4	34.8
1.00	7.0	3.75	25	28			4.4	46.8
1.00	3.0	4.00	25	12			3.6	37.2
1.00	0.0	4.25	25	0			3.0	30.0
1.00	18.0	4.50	25	72			6.8	73.2
1.00	12.0	4.75	25	48			5.2	58.8
1.00	12.0	5.00	25	48			5.2	58.8
1.00	8.0	5.25	25	32			4.1	49.2
1.00	6.0	5.50	25	24			3.6	44.4
1.00	19.0	5.75	25	76			7.1	75.6
1.00	25.0	6.00	25	100			8.7	90.0
1.00	22.0	6.25	25	88			7.9	82.8
1.00	16.0	6.50	25	64			6.3	68.4
1.00	10.0	6.75	25	40			4.7	54.0
1.00	20.0	7.00	25	80			7.4	78.0
1.00	21.0	7.25	25	84			7.6	80.4
1.00	14.0	7.50	25	56			5.8	63.6
1.00	32.0	7.75	25	128			10.6	106.8
1.00	25.0	8.00	25	100			8.7	90.0
1.00	37.0	8.25	25	148			11.9	118.8
1.00	100.0	8.47	22	455			12.0	302.7

凡例　粘性土　砂質土　礫質土　ローム　シルト　有機質土　粘性礫土　砂質礫土　礫質礫土

Copyright(c) G-Space Sweden Pro.

スクリューウエイト貫入試験結果

スクリューウエイト貫入試験

調査名	心身障害者通所支援施設整備工事	測点番号	S-2
調査地点	埼玉県春日部市大衾496番1の一部、他	年月日	令和7年11月11日
標高	KBM -0.04 m　最終貫入深さ 0.27 m	試験者	根岸 寛
水位	なし　天候 曇	試験方法	機械

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	音・感触	貫入状況	換算 N値 N	換算 qa kN/㎡
1.00	0.0	0.25	25	0			3.0	30.0
1.00	100.0	0.27	2	5000		[illegible]打撃貫入	12.0	3030.0

凡例　粘性土　砂質土　礫質土　ローム　シルト　有機質土　粘性礫土　砂質礫土　礫質礫土

Copyright(c) G-Space Sweden Pro.

スクリューウエイト貫入試験結果

スクリューウエイト貫入試験

調査名	心身障害者通所支援施設整備工事	測点番号	S-3
調査地点	埼玉県春日部市大衾496番1の一部、他	年月日	令和7年11月11日
標高	KBM -0.03 m　最終貫入深さ 7.97 m	試験者	根岸 寛
水位	不明　天候 曇	試験方法	機械

▽設計GL=KBM-15　950　▽基礎底　6.000

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	音・感触	貫入状況	換算 N値 N	換算 qa kN/㎡
1.00	23.0	0.25	25	92			7.6	85.2
1.00	33.0	0.50	25	132			9.6	109.2
1.00	11.0	0.75	25	44			5.2	56.4
1.00	3.0	1.00	25	12			3.6	37.2
1.00	0.0	1.25	25	0			3.0	30.0
1.00	2.0	1.50	25	8			3.4	34.8
1.00	3.0	1.75	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	2.00	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	2.25	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	2.50	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	2.75	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	3.00	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	3.25	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	3.50	25	12			3.6	37.2
1.00	6.0	3.75	25	24			4.2	44.4
1.00	6.0	4.00	25	24			4.2	44.4
1.00	12.0	4.25	25	48			5.2	58.8
1.00	17.0	4.50	25	68			6.6	70.8
1.00	29.0	4.75	25	116			9.8	99.6
1.00	11.0	5.00	25	44			4.9	56.4
1.00	25.0	5.25	25	100			8.7	90.0
1.00	14.0	5.50	25	56			5.8	63.6
1.00	7.0	5.75	25	28			3.9	46.8
1.00	7.0	6.00	25	28			3.9	46.8
1.00	16.0	6.25	25	64			6.3	68.4
1.00	22.0	6.50	25	88			7.9	82.8
1.00	6.0	6.75	25	24			3.6	44.4
1.00	18.0	7.00	25	72			6.8	73.2
1.00	29.0	7.25	25	116			9.8	99.6
1.00	35.0	7.50	25	140			11.4	114.0
1.00	35.0	7.75	25	140			11.4	114.0
1.00	100.0	7.97	22	455			12.0	302.7

凡例　粘性土　砂質土　礫質土　ローム　シルト　有機質土　粘性礫土　砂質礫土　礫質礫土

Copyright(c) G-Space Sweden Pro.

スクリューウエイト貫入試験結果

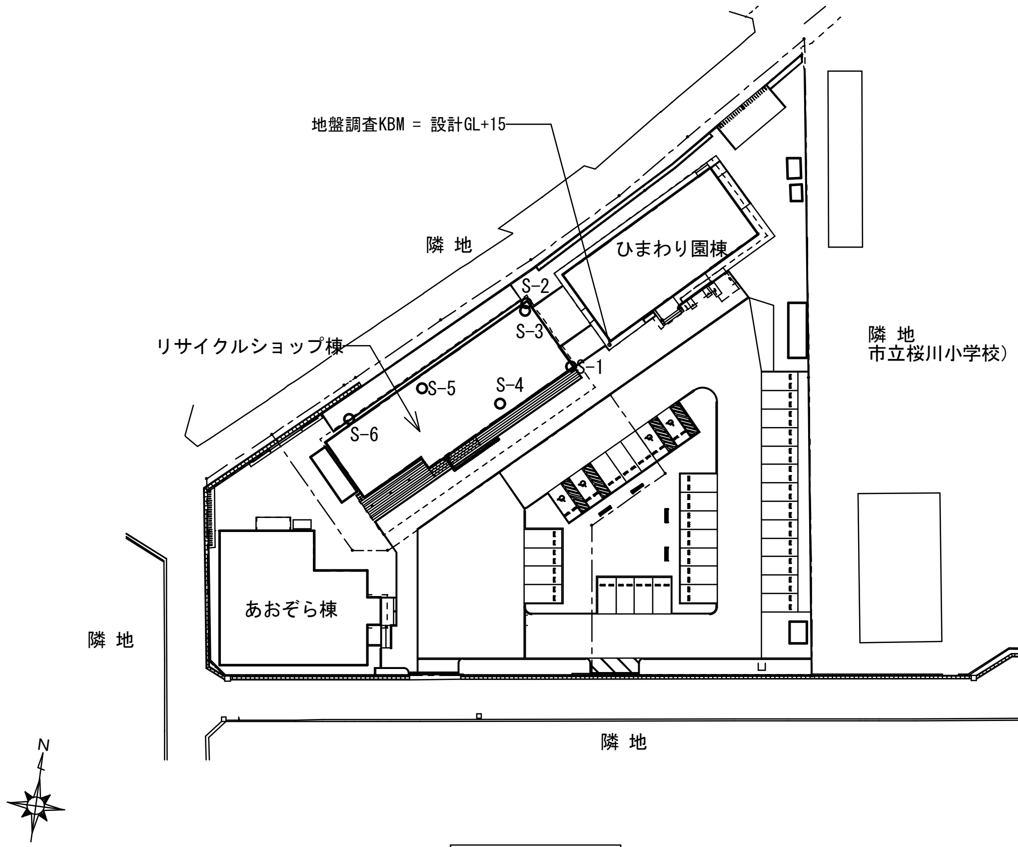
スクリューウエイト貫入試験

調査名	心身障害者通所支援施設整備工事	測点番号	S-4
調査地点	埼玉県春日部市大衾496番1の一部、他	年月日	令和7年11月11日
標高	KBM -0.37 m　最終貫入深さ 6.71 m	試験者	根岸 寛
水位	不明　天候 曇	試験方法	機械

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	音・感触	貫入状況	換算 N値 N	換算 qa kN/㎡
1.00	3.0	0.25	25	12			3.6	37.2
1.00	1.0	0.50	25	4			3.2	32.4
0.75	0.0	0.75	25	0			2.3	22.5
1.00	2.0	1.00	25	8			3.4	34.8
1.00	4.0	1.25	25	16			3.8	39.6
1.00	6.0	1.50	25	24			4.2	44.4
1.00	4.0	1.75	25	16			3.8	39.6
1.00	3.0	2.00	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	2.25	25	12			3.6	37.2
1.00	2.0	2.50	25	8			3.4	34.8
1.00	3.0	2.75	25	12			3.6	37.2
1.00	4.0	3.00	25	16			3.8	39.6
1.00	6.0	3.25	25	24			4.2	44.4
1.00	2.0	3.50	25	8			3.4	34.8
1.00	0.0	3.75	25	0			3.0	30.0
0.75	0.0	4.00	25	0			2.3	22.5
1.00	6.0	4.25	25	24			4.2	44.4
1.00	17.0	4.50	25	68			6.6	70.8
1.00	18.0	4.75	25	72			6.8	73.2
1.00	21.0	5.00	25	84			7.6	80.4
1.00	2.0	5.25	25	8			2.5	34.8
1.00	10.0	5.50	25	40			4.7	54.0
1.00	38.0	5.75	25	152			12.0	121.2
1.00	28.0	6.00	25	112			9.5	97.2
1.00	21.0	6.25	25	84			7.6	80.4
1.00	21.0	6.50	25	84			7.6	80.4
1.00	101.0	6.71	21	481			12.0	318.6

凡例　粘性土　砂質土　礫質土　ローム　シルト　有機質土　粘性礫土　砂質礫土　礫質礫土

Copyright(c) G-Space Sweden Pro.



調査位置図

凡 例
○ …測点番号(S-1～S-6)

スクリューウエイト貫入試験結果

スクリューウエイト貫入試験

調査名	心身障害者通所支援施設整備工事	測点番号	S-5
調査地点	埼玉県春日部市大衾496番1の一部、他	年月日	令和7年11月11日
標高	KBM -0.34 m　最終貫入深さ 7.07 m	試験者	根岸 寛
水位	不明　天候 曇	試験方法	機械

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	音・感触	貫入状況	換算 N値 N	換算 qa kN/㎡
1.00	1.0	0.25	25	4			3.2	32.4
0.50	0.0	0.50	25	0			1.5	15.0
0.50	0.0	0.75	25	0			1.5	15.0
1.00	1.0	1.00	25	4			3.2	32.4
0.75	0.0	1.25	25	0			2.3	22.5
0.75	0.0	1.50	25	0			2.3	22.5
0.75	0.0	1.75	25	0			2.3	22.5
0.75	0.0	2.00	25	0			2.3	22.5
0.75	0.0	2.25	25	0			2.3	22.5
1.00	1.0	2.50	25	4			3.2	32.4
1.00	3.0	2.75	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	3.00	25	12			3.6	37.2
1.00	1.0	3.25	25	4			3.2	32.4
1.00	0.0	3.50	25	0			3.0	30.0
0.50	0.0	3.75	25	0			1.5	15.0
0.50	0.0	4.00	25	0			1.5	15.0
1.00	51.0	4.25	25	204			12.0	152.4
1.00	7.0	4.50	25	28			3.9	46.8
1.00	0.0	4.75	25	0			2.0	30.0
1.00	3.0	5.00	25	12			2.8	37.2
1.00	38.0	5.25	25	152			12.0	121.2
1.00	102.0	5.50	25	408			12.0	274.8
1.00	75.0	5.75	25	300			12.0	210.0
1.00	45.0	6.00	25	180			12.0	138.0
1.00	22.0	6.25	25	88			7.9	82.8
1.00	24.0	6.50	25	96			8.4	87.6
1.00	42.0	6.75	25	168			12.0	130.8
1.00	95.0	7.00	25	380			12.0	258.0
1.00	108.0	7.07	7	1543			12.0	955.7

凡例　粘性土　砂質土　礫質土　ローム　シルト　有機質土　粘性礫土　砂質礫土　礫質礫土

Copyright(c) G-Space Sweden Pro.

スクリューウエイト貫入試験結果

スクリューウエイト貫入試験

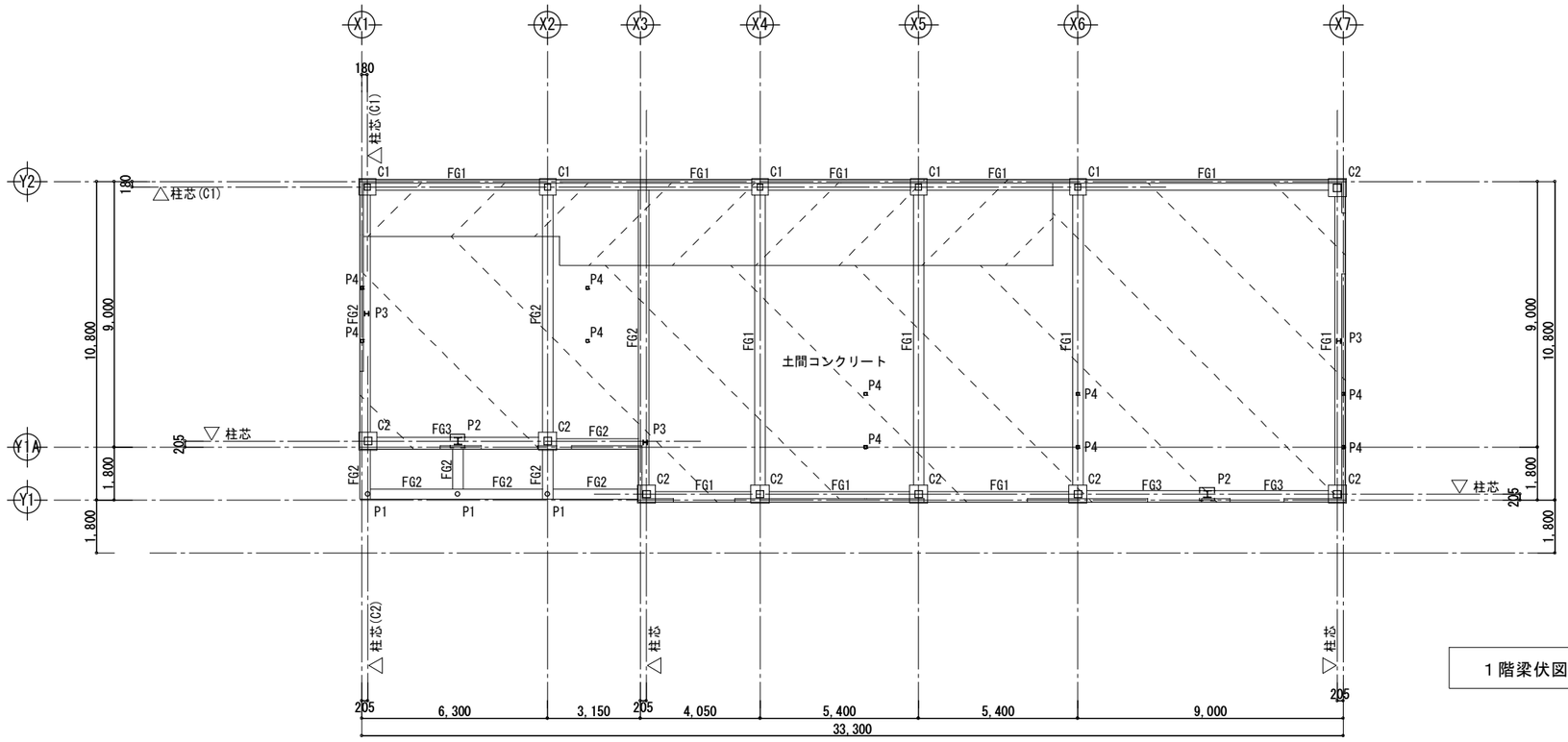
調査名	心身障害者通所支援施設整備工事	測点番号	S-6
調査地点	埼玉県春日部市大衾496番1の一部、他	年月日	令和7年11月11日
標高	KBM -0.34 m　最終貫入深さ 5.69 m	試験者	根岸 寛
水位	不明　天候 曇	試験方法	機械

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	音・感触	貫入状況	換算 N値 N	換算 qa kN/㎡
0.05	0.0	0.25	25	0			0.2	1.5
1.00	4.0	0.50	25	16			3.8	39.6
1.00	1.0	0.75	25	4			3.2	32.4
1.00	2.0	1.00	25	8			3.4	34.8
1.00	2.0	1.25	25	8			3.4	34.8
1.00	3.0	1.50	25	12			3.6	37.2
1.00	2.0	1.75	25	8			3.4	34.8
1.00	2.0	2.00	25	8			3.4	34.8
1.00	3.0	2.25	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	2.50	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	2.75	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	3.00	25	12			3.6	37.2
1.00	3.0	3.25	25	12			3.6	37.2
1.00	0.0	3.50	25	0			3.0	30.0
0.50	0.0	3.75	25	0			1.5	15.0
0.50	0.0	4.00	25	0			1.5	15.0
1.00	19.0	4.25	25	76			7.1	75.6
1.00	54.0	4.50	25	216			12.0	159.6
1.00	32.0	4.75	25	128			10.6	106.8
1.00	31.0	5.00	25	124			10.3	104.4
1.00	123.0	5.25	25	492			12.0	325.2
1.00	97.0	5.50	25	388			12.0	262.8
1.00	105.0	5.69	19	553			12.0	361.6

凡例　粘性土　砂質土　礫質土　ローム　シルト　有機質土　粘性礫土　砂質礫土　礫質礫土

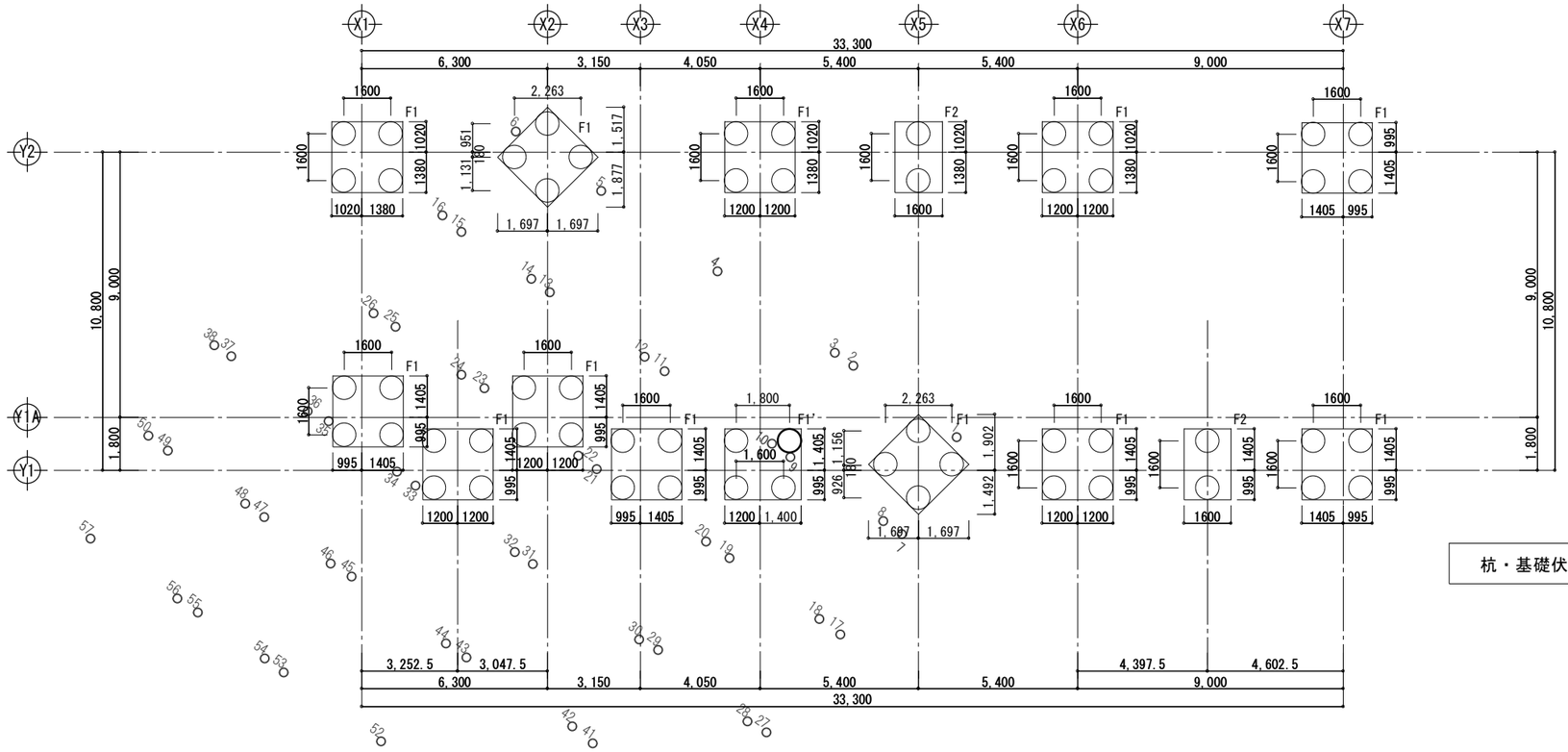
Copyright(c) G-Space Sweden Pro.

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部　障がい者支援課		心身障害者通所支援施設増築等工事	地盤調査位置図	S－09



1階梁伏図　S:1/100

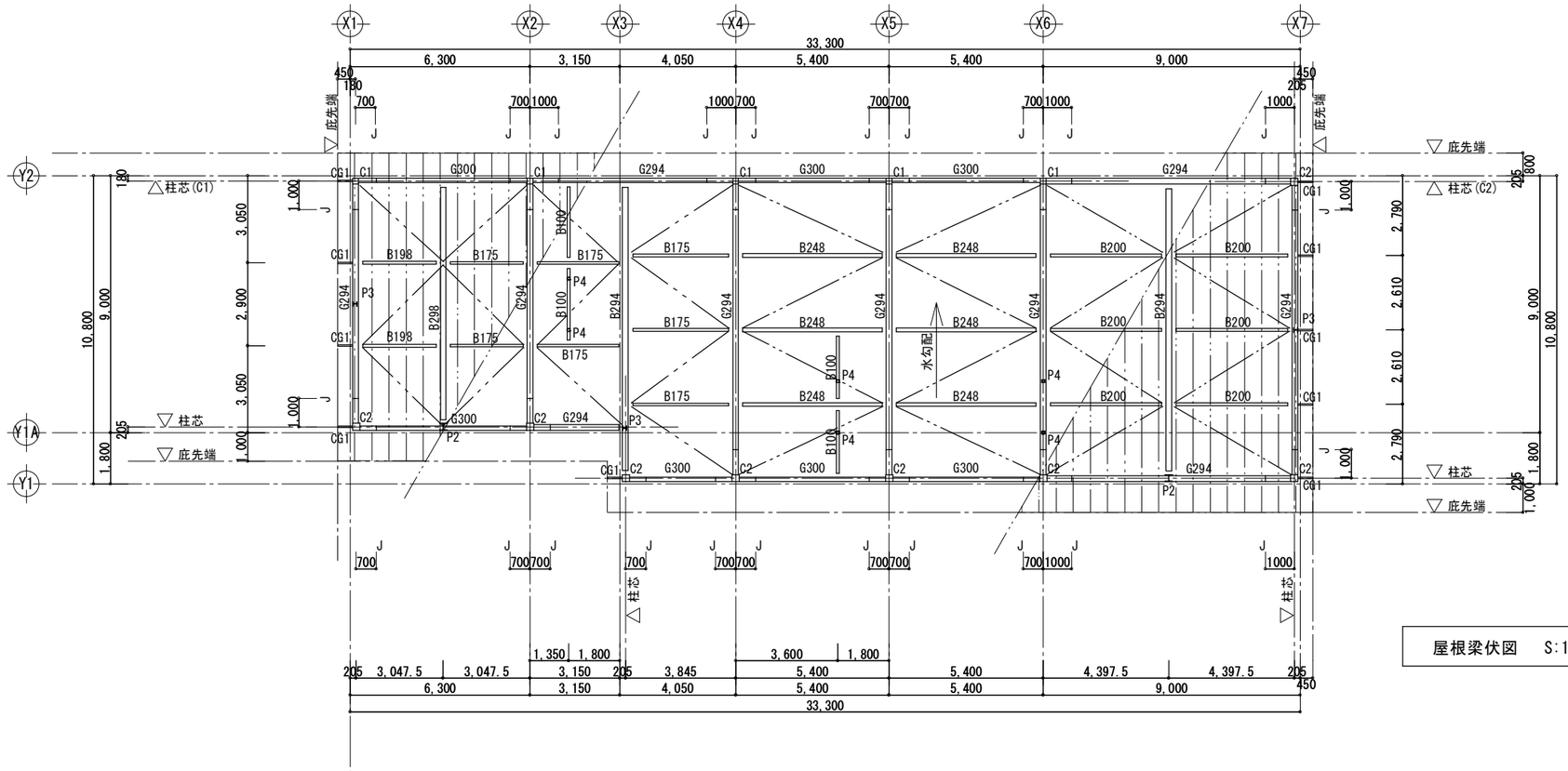
特記なき限り
・…土間コンクリート 天端 = GL-20
・…土間コンクリート 天端 = GL+70
・基礎梁天端 = GL-200



杭・基礎伏図　S:1/100

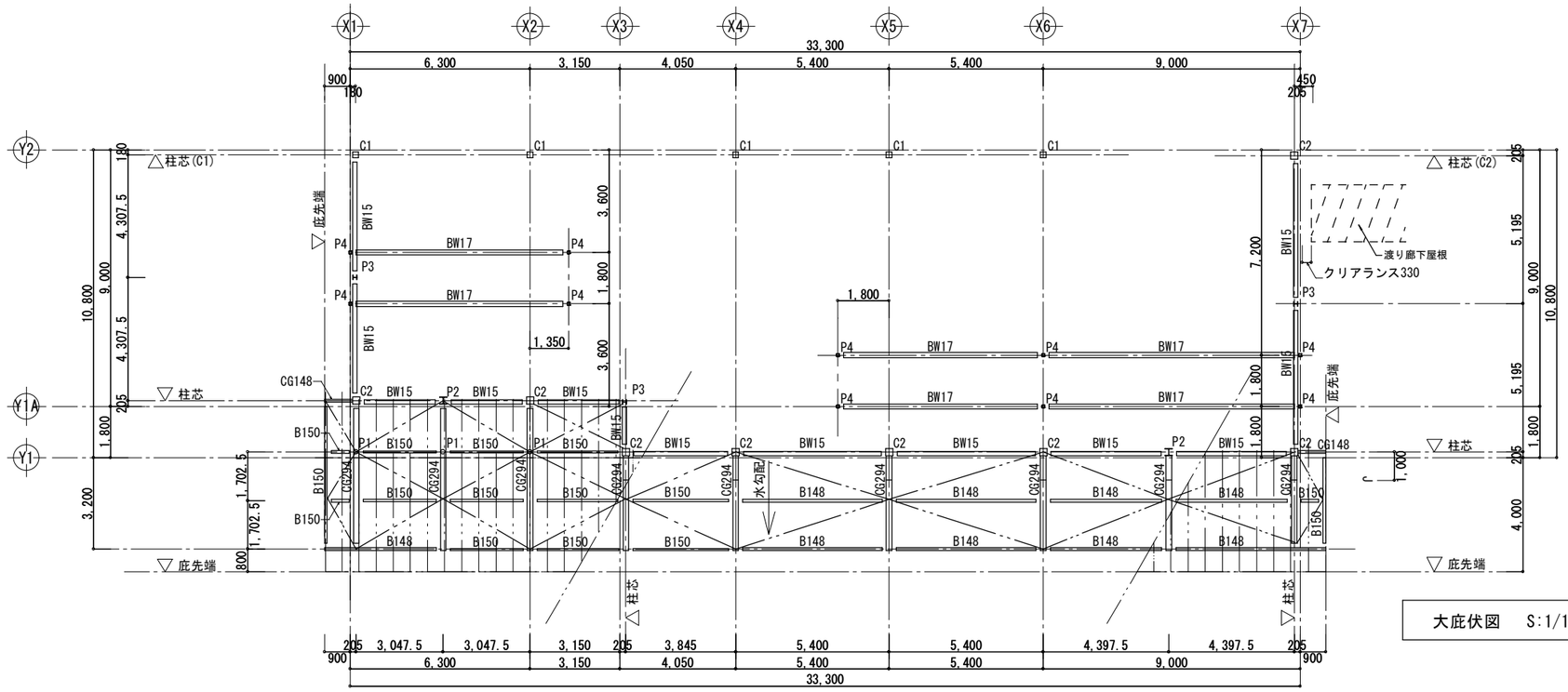
特記なき限り
・柱状地盤改良：φ800

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:100 A3-1:200	心身障害者通所支援施設増築等工事	杭・基礎・1階梁伏図	S－10



屋根梁伏図　S:1/100

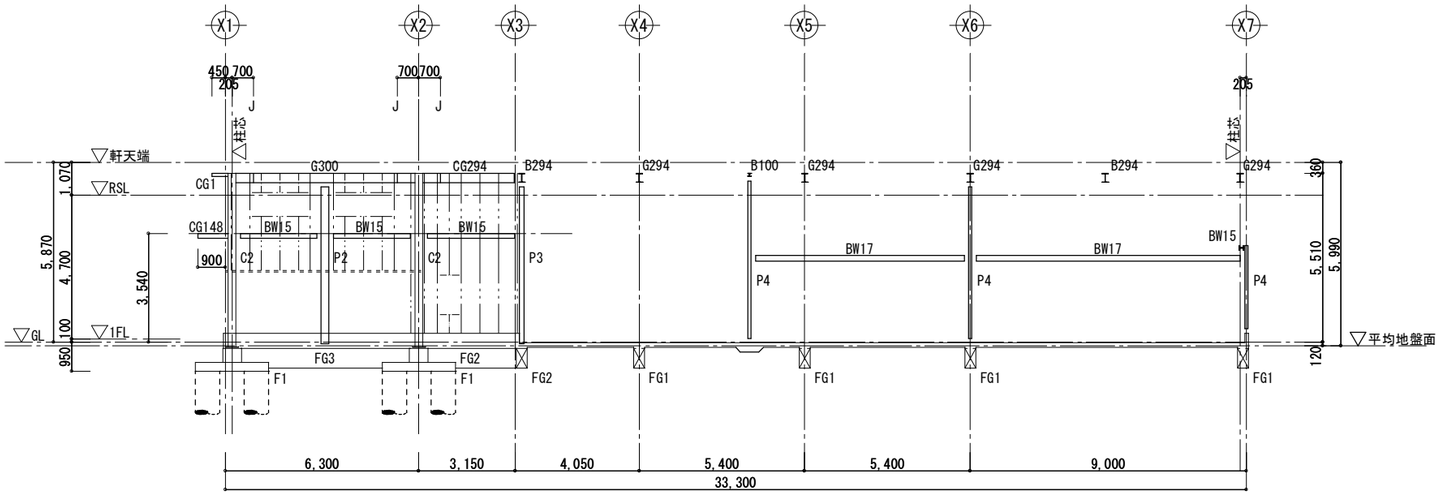
特記なき限り
・水平ブレース：BR1
・母屋　C-100x50x20x2.3 @606
・高圧木毛セメント版 t=20
・ガルバリウム鋼板t=0.4



大庇伏図　S:1/100

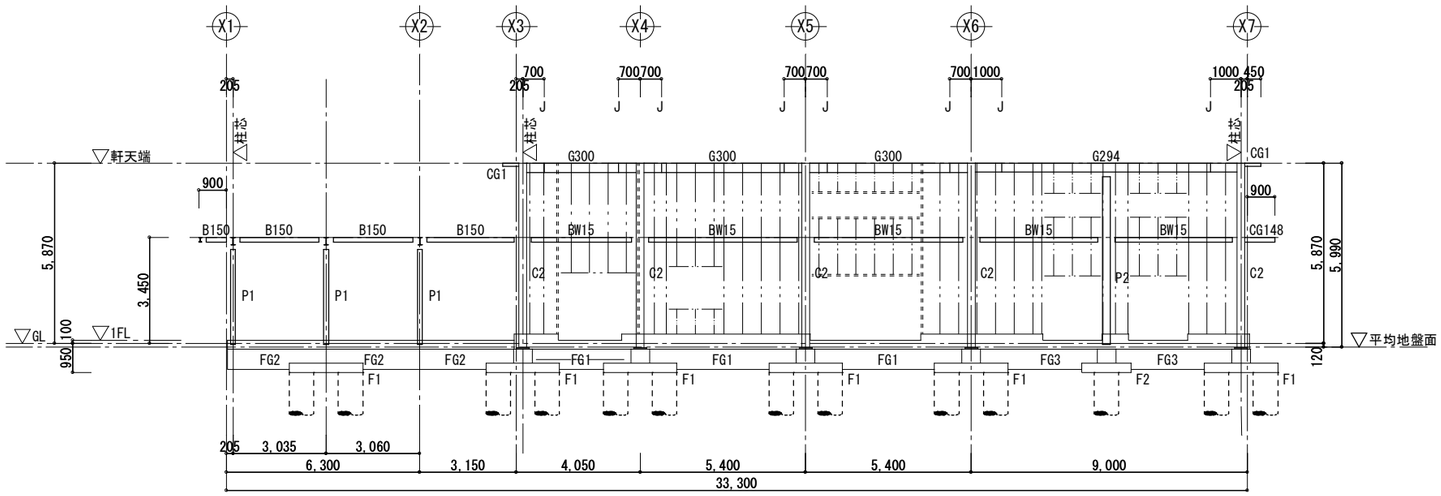
特記なき限り
・水平ブレース：BR1
・母屋　C-100x50x20x2.3 @606
・高圧木毛セメント版 t=20
・ガルバリウム鋼板t=0.4

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:100 A3-1:200	心身障害者通所支援施設増築等工事	屋根・庇伏図	S－１１



Y1A 通り軸組図　S:1/100

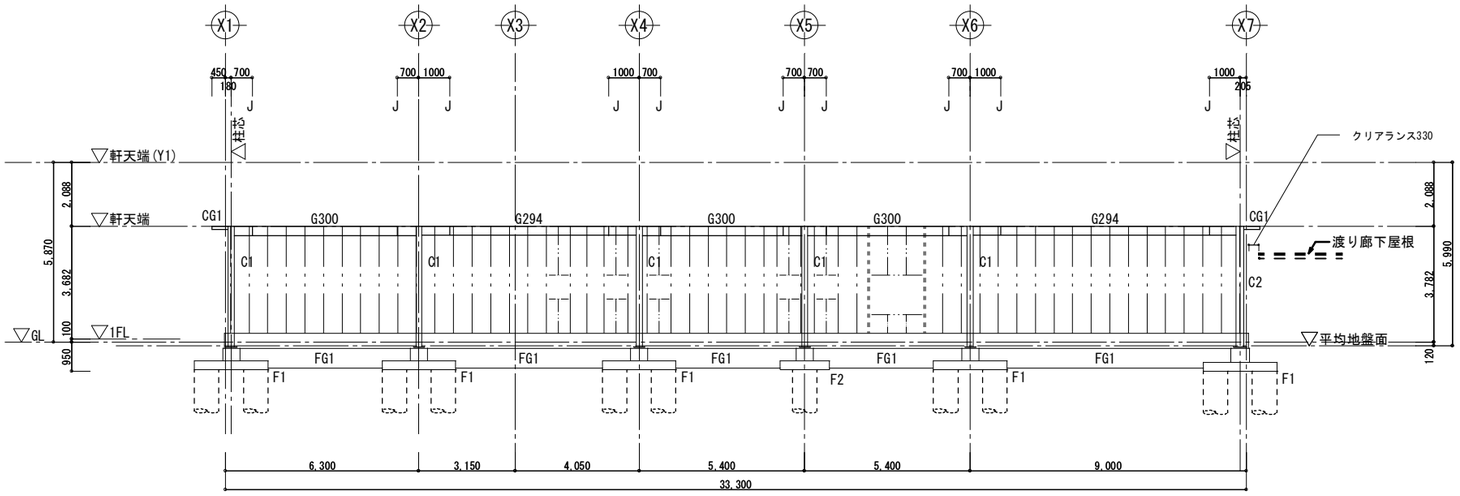
特記なき限り
胴縁：C-100x50x20x2.3 @606
幅2.1m以上の開口脇の胴縁：2C-100x50x20x2.3
まぐさ、窓台：C-100x50x20x2.3
幅2.5m以上の開口のまぐさ、窓台：2C-100x50x20x2.3



Y1 通り軸組図　S:1/100

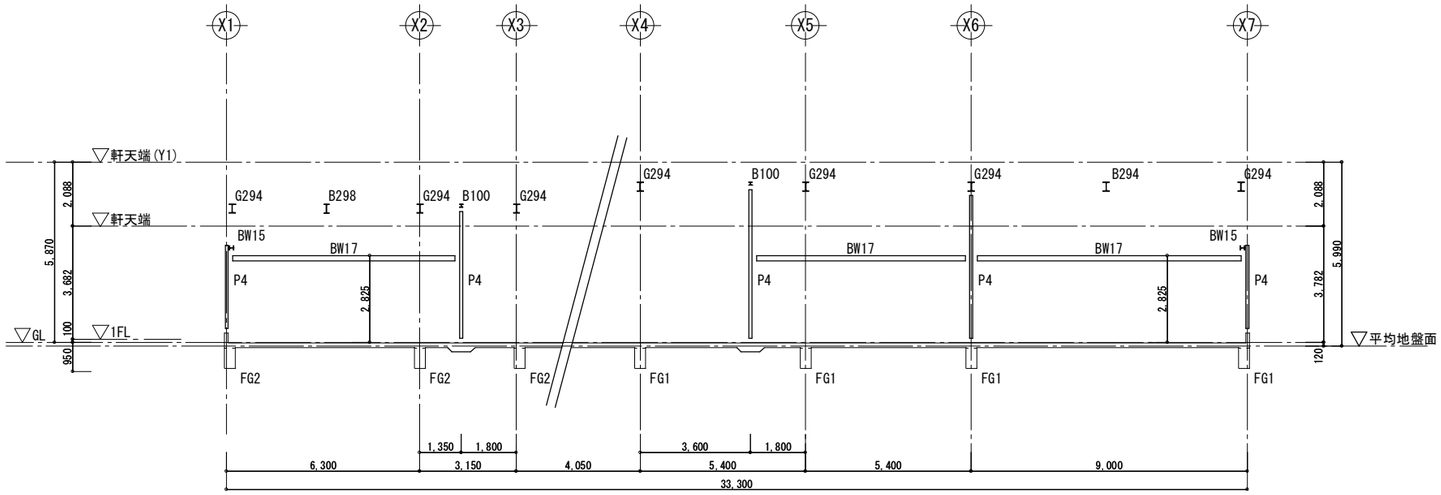
特記なき限り
胴縁：C-100x50x20x2.3 @606
幅2.1m以上の開口脇の胴縁：2C-100x50x20x2.3
まぐさ、窓台：C-100x50x20x2.3
幅2.5m以上の開口のまぐさ、窓台：2C-100x50x20x2.3

設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.01.15	春　日　部　市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:100 A3-1:200	心身障害者通所支援施設増築等工事	軸組図（１）	Ｓ－１２



Y2 通り軸組図　S:1/100

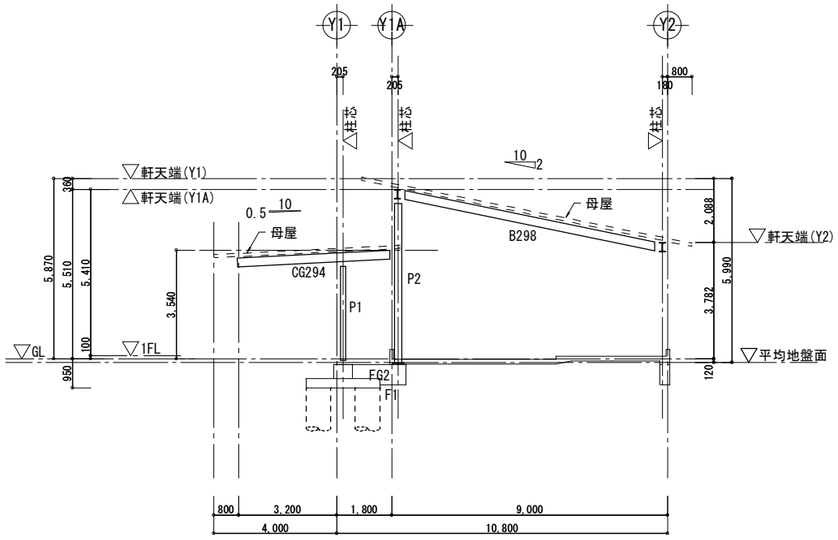
特記なき限り
胴縁：C-100x50x20x2.3 @606
幅2.1m以上の開口脇の胴縁：2C-100x50x20x2.3
まぐさ、窓台：C-100x50x20x2.3
幅2.5m以上の開口のまぐさ、窓台：2C-100x50x20x2.3



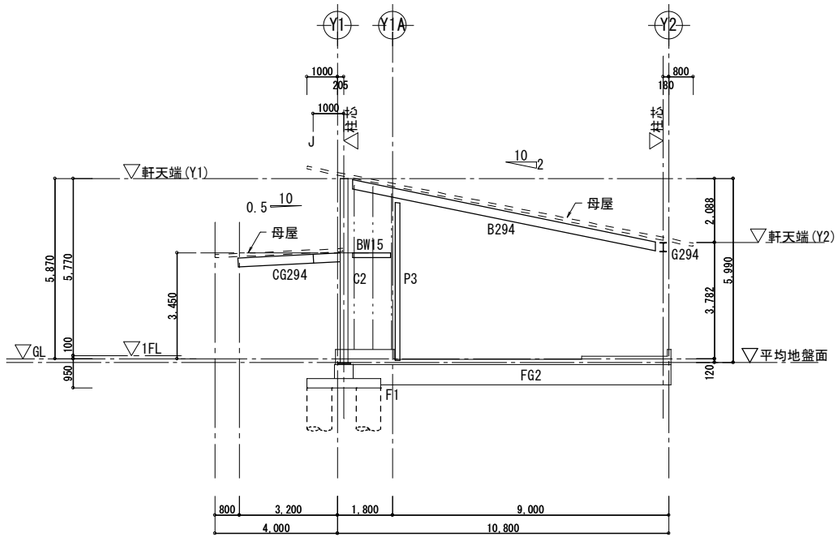
Y1+7200 通り軸組図　S:1/100

Y1+3600 通り軸組図　S:1/100

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:100 A3-1:200	心身障害者通所支援施設増築等工事	軸組図（2）	S－13

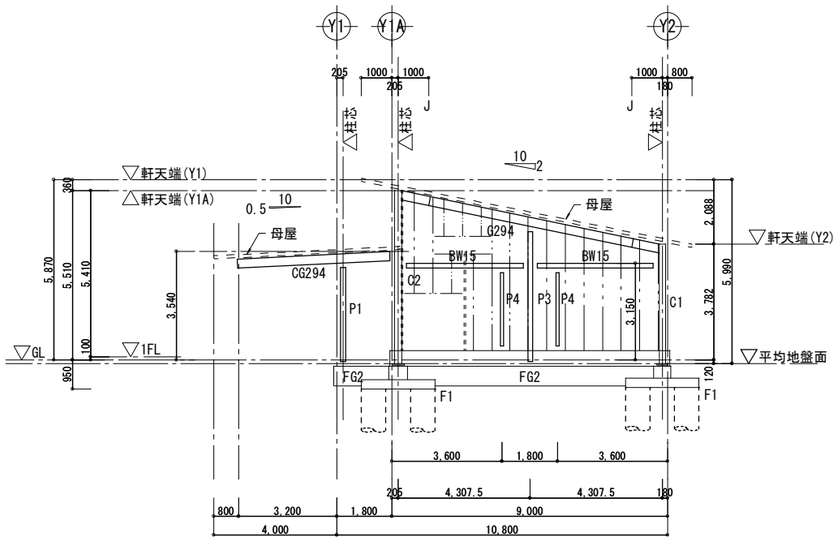


X1+3252.5 通り軸組図　S:1/200

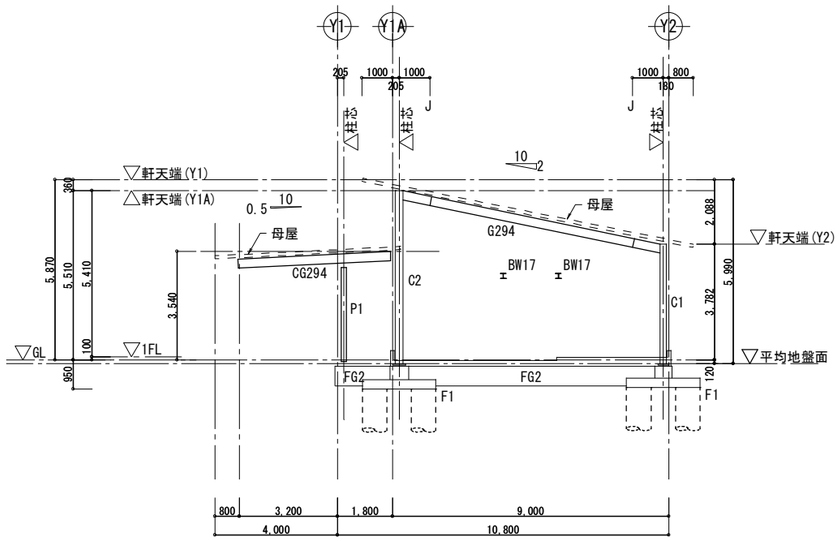


X3 通り軸組図　S:1/200

特記なき限り
胴縁：C-100x50x20x2.3 @606



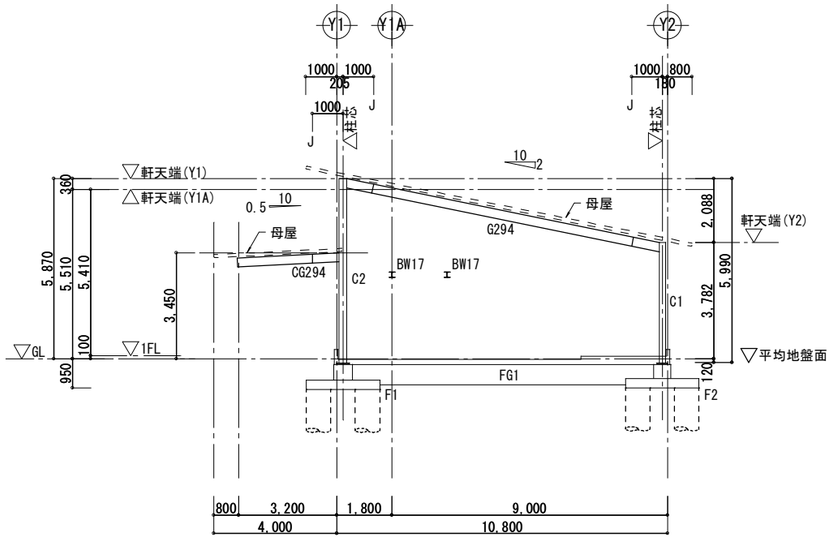
X1 通り軸組図　S:1/200



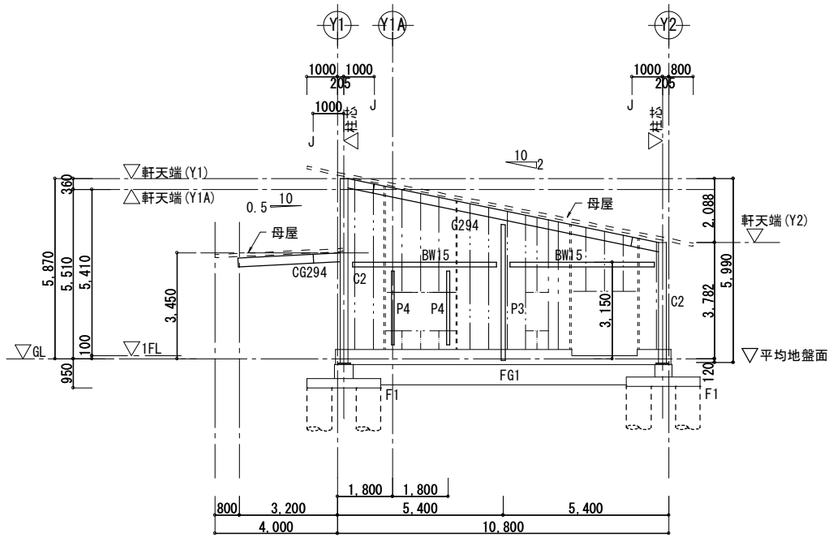
X2 通り軸組図　S:1/200

特記なき限り
胴縁：C-100x50x20x2.3 @606
幅2.1m以上の開口脇の胴縁：2C-100x50x20x2.3
まぐさ、窓台：C-100x50x20x2.3
幅2.5m以上の開口のまぐさ、窓台：2C-100x50x20x2.3

設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.01.15	春　日　部　市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:100 A3-1:200	心身障害者通所支援施設増築等工事	軸組図（３）	Ｓ－１４

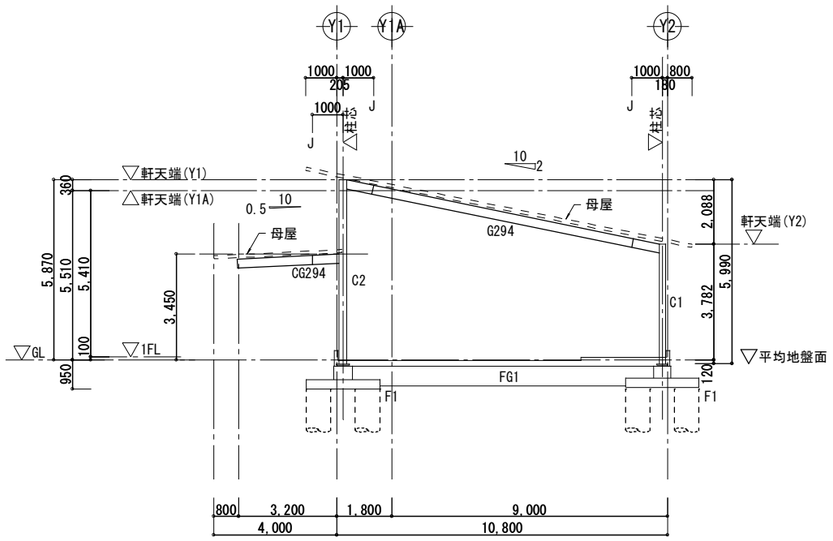


X5 通り軸組図　S:1/100

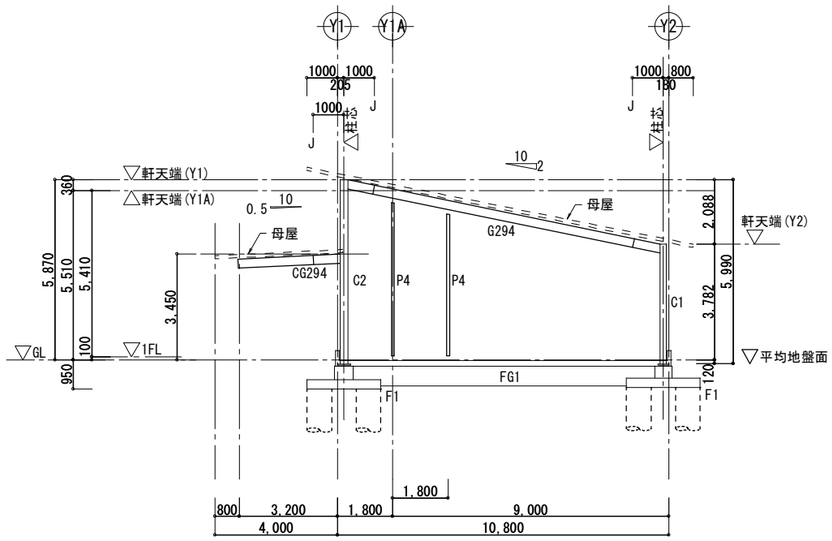


X7 通り軸組図　S:1/100

特記なき限り
胴縁：C-100x50x20x2.3 @606
幅2.1m以上の開口脇の胴縁：2C-100x50x20x2.3
まぐさ、窓台：C-100x50x20x2.3
幅2.5m以上の開口のまぐさ、窓台：2C-100x50x20x2.3



X4 通り軸組図　S:1/100



X6 通り軸組図　S:1/100

設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.01.15	春　日　部　市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:100 A3-1:200	心身障害者通所支援施設増築等工事	軸組図（４）	Ｓ－１５

共通事項

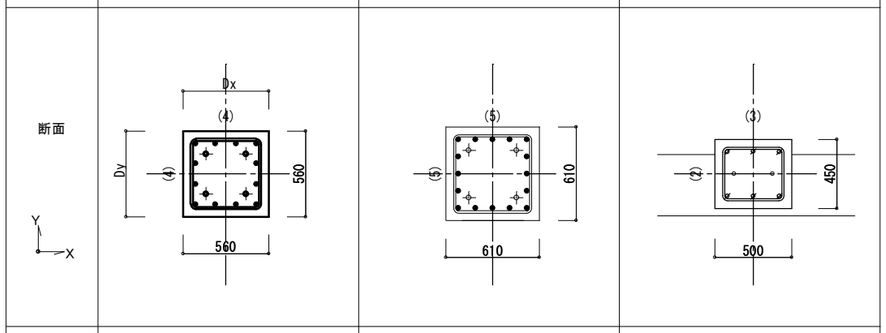
1.使用材料

普通コンクリート：Fc=24N/mm2

鉄筋：SD295（D16以下）、SD345（D19以上）

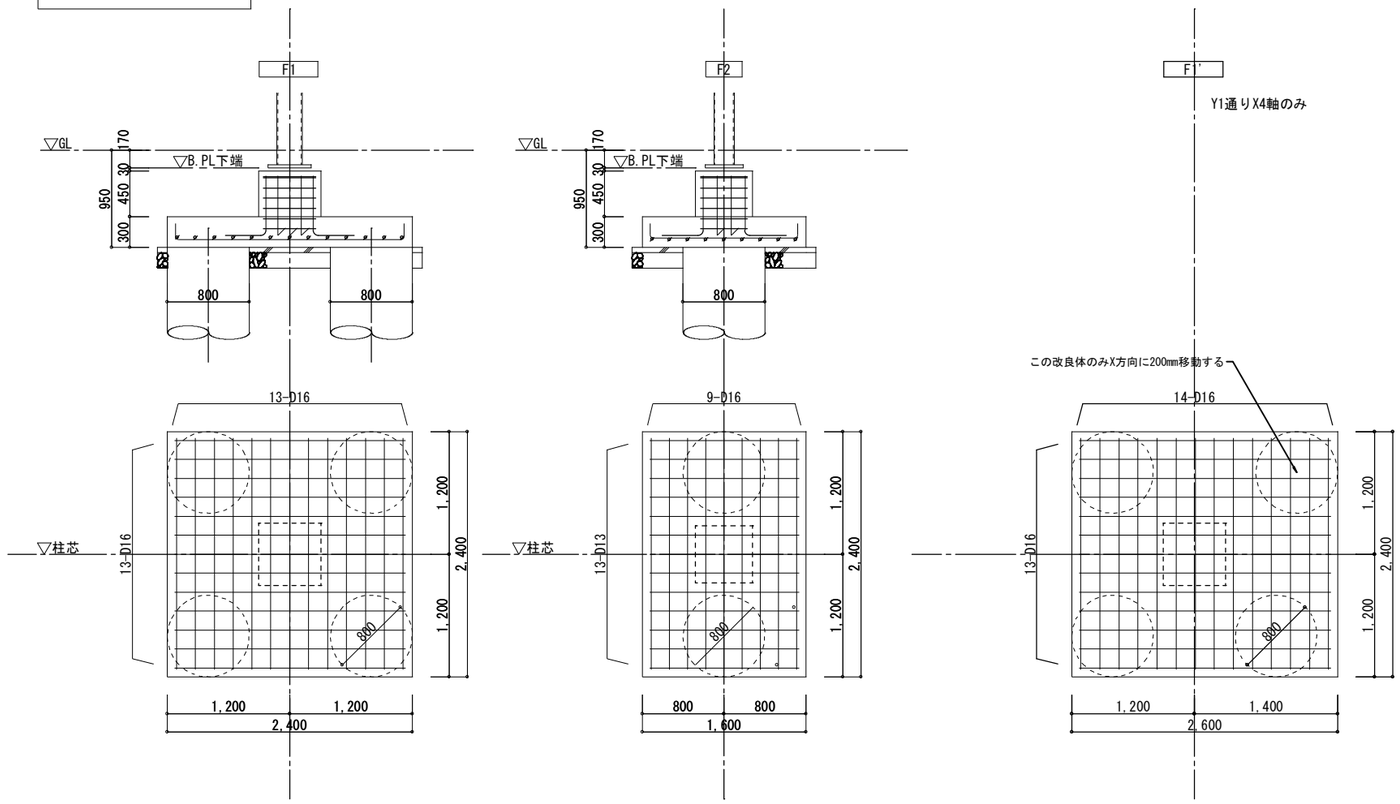
柱型リスト 1/20

特記なき限り下記による。
HOOP加工形式は、タガ型とする。
頂部はダブルフープ2-□-D13とする。

符号	C1	C2	P2
断面名	全断面	全断面	全断面
断面			
Dx x Dy	560 x 560	610 x 610	500 x 450
主筋	12-D19	16-D19	6-D16
フープ	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100
備考	ベースパック 20-09F2	ベースパック 25-09F2	-

基礎リスト 1/30

特記なき限り

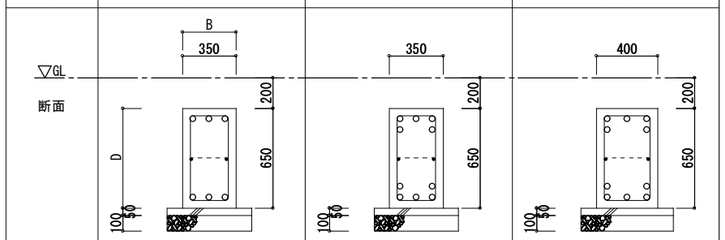


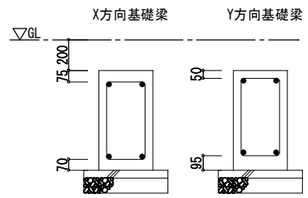
地盤改良体リスト　　工法：ウルトラコラム工法　Fc = 600kN/m2

符号	Lx x Ly	φ-n	掘削長(m)	改良体上端	改良長(m)	備考
F1	2,400 x 2,400	φ800-4本	6.00	GL-950	6.0	
F1'	2,600 x 2,400	φ800-4本	6.00	GL-950	6.0	
F2	1,600 x 2,400	φ800-2本	6.00	GL-950	6.0	

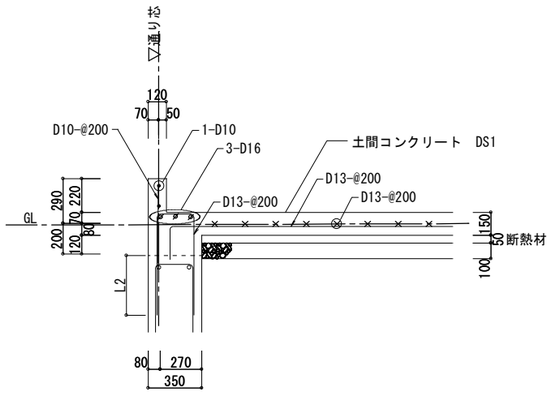
基礎梁リスト 1/20

特記なき限り下記による。
幅止め筋は、D10-@1000とする
主筋の水平投影定着長さは 0.75D（Dは柱型幅）とする。

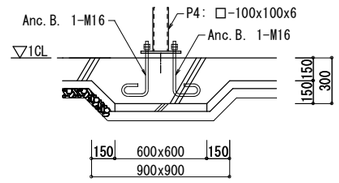
符号	FG1	FG2	FG3
断面名	全断面	全断面	全断面
断面			
B x D	350 x 650	350 x 650	400 x 650
上端筋	3-D22	5-D22	5-D22
下端筋	3-D22	5-D22	5-D22
スタラップ	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10
備考	-	-	-



基礎梁かぶり要領 1/20



立上り・梁上ふかし詳細図 1/20



P4柱脚　土間コンふかし要領 1/20

設計年月日		縮尺	工事名称	図面名称	図面番号
2026.01.15	春日部市 福祉部 障がい者支援課	A1-1:20,30 A3-1:40,60	心身障害者通所支援施設増築等工事	基礎断面リスト	S－16

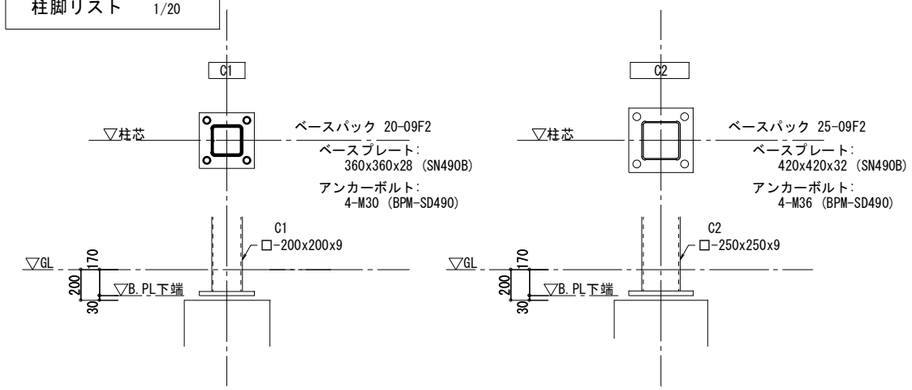
鉄骨部材リスト

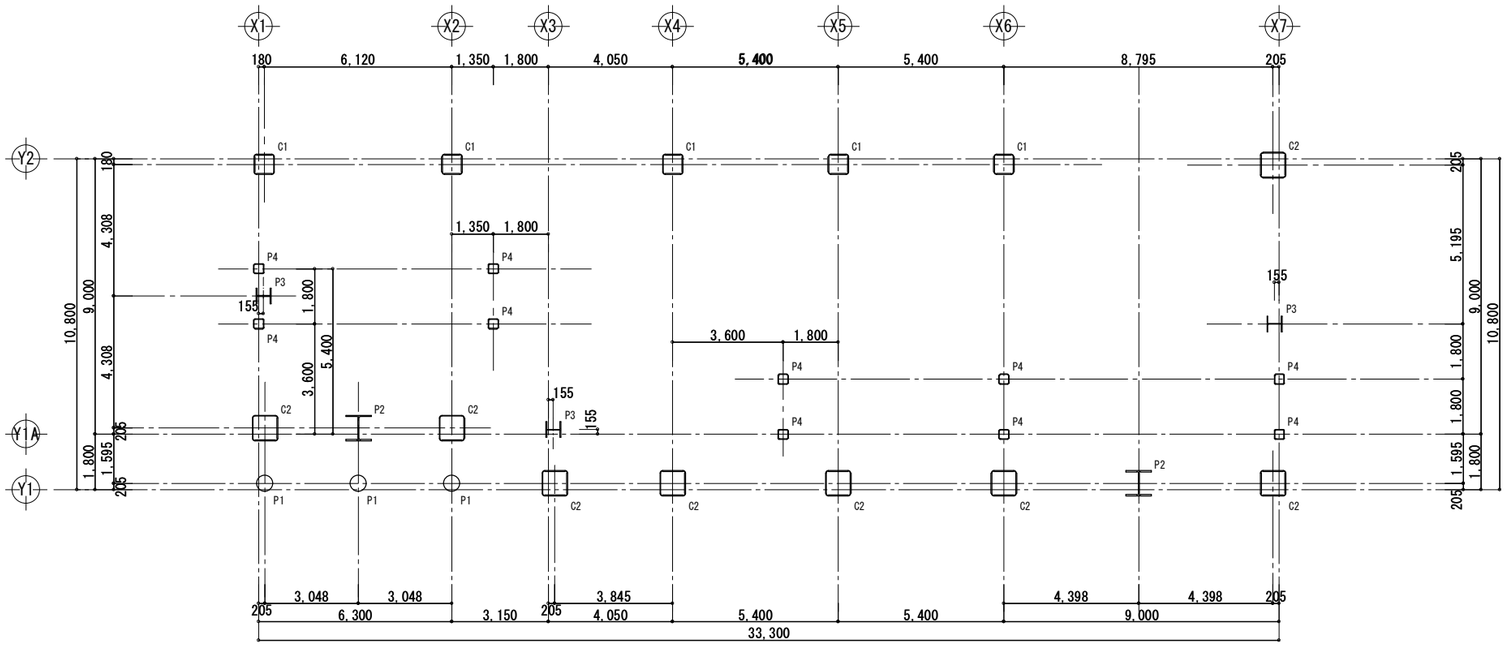
鉄骨柱リスト

特記なき限り、材質は下記による
1C1,1C2：BCR295
P1：STK400　P2,P3：SS400　P4：STKR400

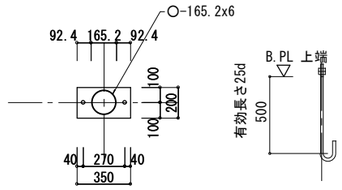
符号	部材断面	λ:細長比	B.PL	ANC.B	備考
C1	□-200x200x9	51.5			柱脚:ベースパック 20-09F2
C2	□-250x250x9	58.4			柱脚:ベースパック 25-09F2
P1	○-165.2x6	62.9	PL-12	2-M20	柱頭 B.PL-12 HTB 2x2-M16
P2	H-250x250x9x14	92.9	PL-19	2-M20	G.PL-12 HTB 3-M20
P3	H-150x150x7x10	146.2	PL-16	2-M20	G.PL-9 HTB 2-M20
P4	□-100x100x6	144.3	PL-12	2-M16	G.PL-6 2-M12（中）

柱脚リスト　1/20



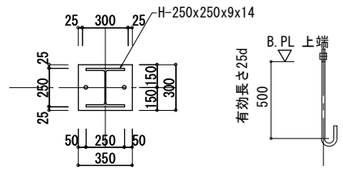


柱芯図　S:1/100
（断面 S:1/30）



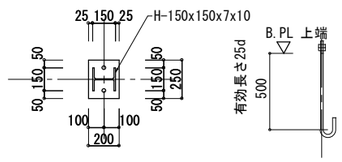
BPL－350×200×12（SS400）
A.BOLT　2-M20（SS400）
L＝500（ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締）
定着長　20d以上

P1 柱脚　1/20



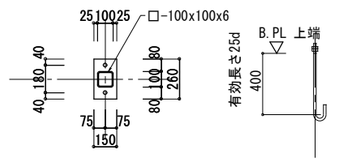
BPL－350×300×19（SS400）
A.BOLT　2-M20（SS400）
L＝500（ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締）
定着長　20d以上

P2 柱脚　1/20



BPL－200×250×16（SS400）
A.BOLT　2-M20（SS400）
L＝500（ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締）
定着長　20d以上

P3 柱脚　1/20



BPL－150×260×12（SS400）
A.BOLT　2-M16（SS400）
L＝400（ﾌｯｸ付き　ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締）
定着長　20d以上

P4 柱脚　1/20

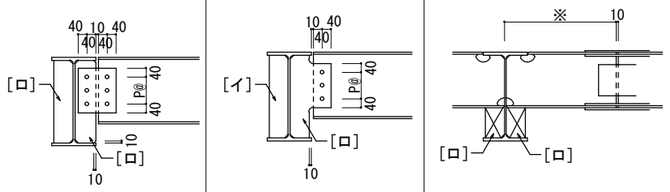
設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.01.15	春　日　部　市 福祉部　障がい者支援課	A1-1:100、20、30 A3-1:200、40、60	心身障害者通所支援施設増築等工事	鉄骨断面リスト(1)	S－17

鉄骨部材リスト

小梁継手タイプ

［イ］：ガセットプレートと同厚とする
［ロ］：取合う部材のウエブプレートと同厚以上とする
［ハ］：取合う部材のフランジプレートと同厚以上とする

A	B	C



※寸法は設計図書による

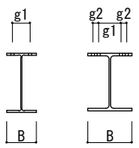
鉄骨継手基準

継手における共通事項

1. 鋼材材質は、特記による。
2. スプライスプレートの材質は母材に同じとする。
3. 継手部のクリアランスは10mmとする。
4. 継手部で母材の板厚差が1mmを越える場合は、フィラープレートにて調整する。
   （フィラープレートの材質はSS400とする。）
5. 継手表に示すボルト本数は、継手片側について示す。
6. 本図に示す高力ボルト規定は下記による。高力ボルトはS10Tとする。

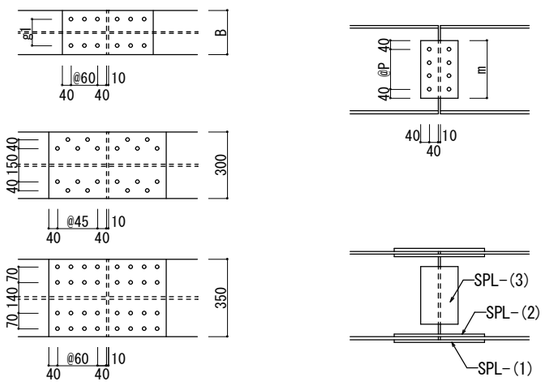
呼　径	標準ピッチ(P)	はしあき(e)	孔　径
M16	60	40	18.0φ
M20	60	40	22.0φ
M22	60	40	24.0φ

7. 高力ボルトのゲージは下記による。＊B=300は千鳥打ちとする。



B	g1	g2
125	75	—
150	90	—
175	105	—
200	120	—
250	150	—
300＊	150	40
350	140	70
400	140	90

8. 継手形状



鉄骨大梁リスト

特記なき限り、材質は下記による
SN400　(G300,G294)
SS400　(CG294,CG148,CG1)

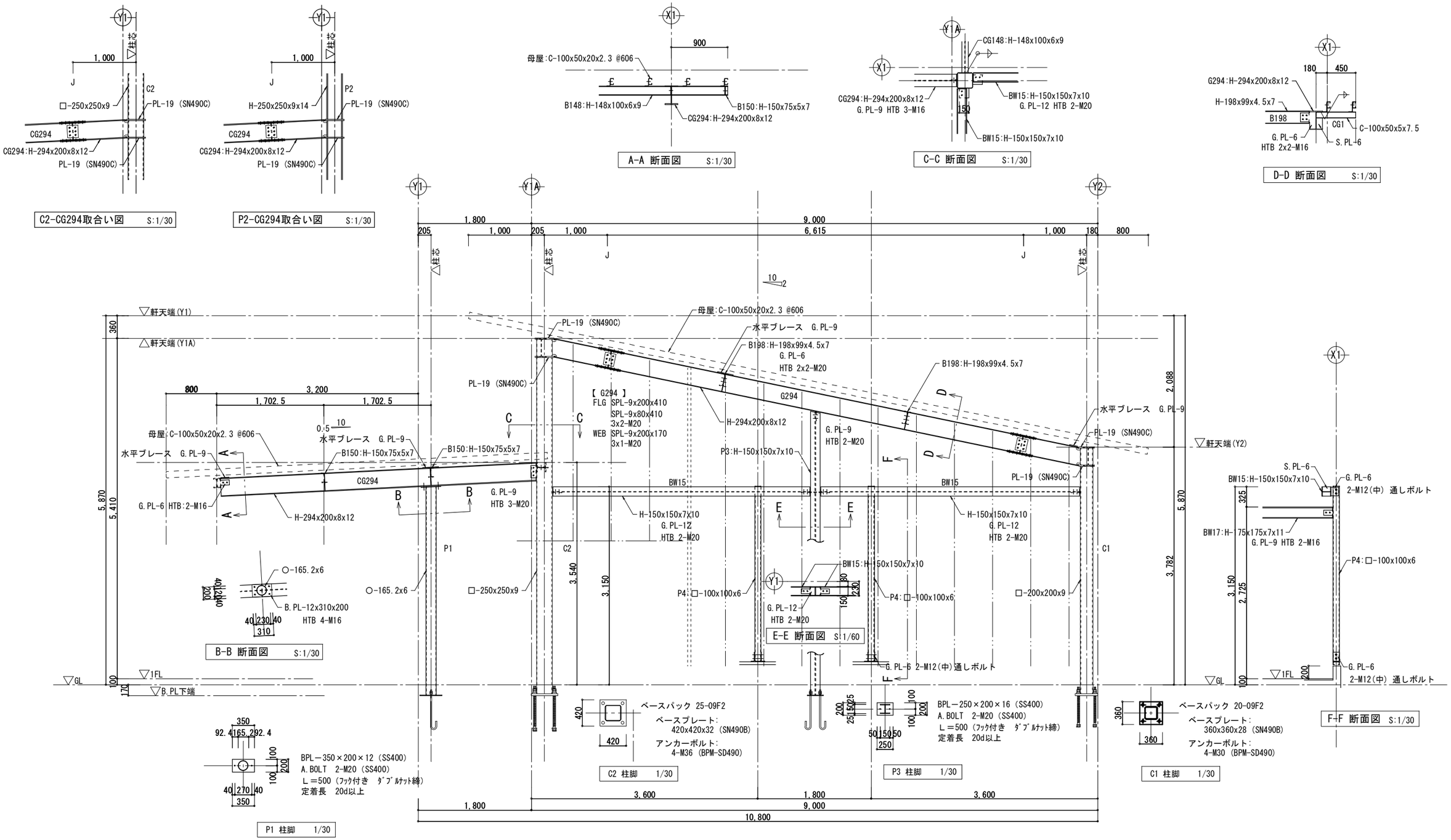
符号	部材断面	FLG			WEB		備考
		HTB (nxm)	SPL-(1)	SPL-(2)	HTB (mxn)	SPL-(3)	
G300	H-300x150x6.5x9	2x2-M20	9x290	9x60	2x1-M20 (@120)	6x200x170	
G294	H-294x200x8x12	3x2-M20	9x410	9x80	3x1-M20	9x200x170	
CG294	H-294x200x8x12	3x2-M20	9x410	9x80	3x1-M20	9x200x170	Y1A通り端は B294 に倣う
CG148	H-148x100x6x9	-	-	-	-	-	EW直付け
CG1	C-100x50x5x7.5	-	-	-	-	-	EW直付け

鉄骨小梁リスト

特記なき限り、材質は下記による
SS400, SSC400

符号	部材断面	継 手 タイプ	HTB	@P	G.PL	備考
B294	H-294x200x8x12	B	3-M16	60	9	
B298	H-298x149x5.5x8	B	3-M16	60	6	
B248	H-248x124x5x8	B	2-M16	75	6	
B200	H-200x100x5.5x8	B	2-M20	75	6	
B198	H-198x99x4.5x7	B	2-M20	75	6	
B175	H-175x90x5x8	B	2-M16	60	6	
B150	H-150x75x5x7	B	2-M16	60	6	
B148	H-148x100x6x9	B	2-M16	60	6	
B100	H-100x100x6x8	B	2-M16	60	6	
BW15	H-150x150x7x10	B	2-M20	60	12	横使い
BW17	H-175x175x7.5x11	B	2-M16	60	9	
BR1	1-M22		1-M22		9	JIS ターンバックル付き筋違い
母屋	C-100x50x20x2.3	-	2-M12 (中)	60	6	@606
胴縁	C-100x50x20x2.3	-	2-M12 (中)	60	6	@606

設計年月日		縮　尺	工　事　名　称	図　面　名　称	図面番号
2026.01.15	春　日　部　市 福祉部　障がい者支援課	A1-NonScale A3-NonScale	心身障害者通所支援施設増築等工事	鉄骨断面リスト(2)	S－１８



特記なき限り
・胴縁：C-100x50x20x2.3 @606

設計年月日		縮 尺	工 事 名 称	図 面 名 称	図面番号
2026.01.15	春 日 部 市 福祉部 障がい者支援課	A1-1:30 A3-1:60	心身障害者通所支援施設増築等工事	鉄骨詳細図	S－１９